

病院年報

第 37 号 (令和 6 年度)



八尾市立病院

令和 6 年度年報挨拶

病院長 藤田 淳也

令和 6 年度の八尾市立病院年報が出来上がりました。お手に取って当院の 1 年間の歩みをご覧くださいましたら幸いです。

令和 6 年は当院にとって様々な面で節目の年となりました。まず人事面においては、病院幹部の定年退職が重なったことより病院長、2 名の副院長さらに事務局長の全員が入れ替わり、一新された運営体制となりました。また平成 24 年から 3 年ごとに策定している「八尾市立病院経営計画」については、第 5 期目の経営計画が本年から運用開始となりました。ここには当院が進むべき方向性とそれを実現するための具体的な数値目標が設定されています。当院の担う診療の柱として高度急性期医療、がん医療、小児周産期医療、救急医療を定め、それを踏まえて地域完結型医療を推進することが当院の基本方針であると掲げられています。今後 3 年間私たちはこの計画を達成すべく努力していくことになります。

かねてから厚生労働省が主導してきた医師の働き方改革が実行に移されたのも本年です。当院は全医師に対して年間時間外労働 960 時間以下の『A 水準』を適用する方針といたしました。医師の時間外勤務は減少しつつありますが、勤務時間の削減だけではない真の意味での働き方改革といえる就業環境の整備はいまだ途上で引き続いて取り組まねばならない課題であると考えます。

院外に目をむけますと、医療を取り巻く社会情勢も大きく変化した 1 年でした。新型コロナウイルス感染症を境に人々の医療に対する需要が変わり、全国的にも病院に入院する患者の数は減少しました。病床稼働率が上がらないところに諸経費、光熱費、医療機器・材料費の高騰、さらに人事院勧告に従った人件費の引き上げは病院経営において大きな打撃となりました。前年度に比べて収益は増加したものの費用がそれを上回ったため、前年度に増して赤字が膨らむ結果となりました。これは他の多くの病院にも生じている構造的な問題であり、全国自治体病院協議会の調査では会員施設の実に 86%が令和 6 年度経常収支において赤字決算であったと報告されています。

このような背景の中、私はこのたび病院長に就任した際に『Be Reborn』というフレーズを病院のスローガンとして掲げました。コロナの前にそのまま戻るのではなく、社会情勢の変化に対応して新しく生まれ変わろうというメッセージです。直ちに結果につながる新規事業を打ち出すことはなかなか困難ではありますが、将来を見据えて着実に前進できればと思っています。

当院は本年 2 月に日本医療評価機構認定の更新審査を受審しました。半年以上にわたる準備期間を経て院内すべての部署の職員が力を合わせて取り組んだ結果、前回は上回る優れた評価で認定をいただくことができました。新しい病院体制を築きつつあるこの時期に、職員が一丸となってひとつの目標に向かって邁進し無事に達成できたことは当院にとって非常に有意義な経験であったと思います。

当院は今後も市民の皆様から求められる医療を提供できるよう努めてまいります。皆様のご支援の程をよろしくお願い申し上げます。

基本理念

- 一．地域住民の健康な生活を守るため、高度で良質な医療を提供します。
- 一．信頼される市の中核病院として、地域に密着した医療を推進します。
- 一．市民に誇れる公立病院として、品格ある病院運営を実践します。

基本方針

- 1．医療安全を重視し、医療ニーズに対応した高度医療・急性期医療を充実させます。
- 2．地域の医療機関との連携の強化と、保健・福祉分野との役割分担により、地域完結型の医療を確立します。
- 3．救急医療、小児・周産期医療、災害医療などの政策医療を確保します。
- 4．患者の意思と権利を尊重し、市民に信頼される病院をめざします。
- 5．良心に基づく運営と公民協働による健全経営の維持により、職員が誇れる病院を追求します。
- 6．医療従事者の教育・研修の充実により、医療水準の向上に努めます。

患者の権利章典

- 1．個人の人格および価値観は尊重され、だれでも等しく安全で良質な医療を受ける権利があります。
- 2．自分の受ける医療について、必要な情報が提供され、十分な説明を受けた上で、自分の意思で治療方法などを選択し、決定する権利があります。
- 3．自分の受ける医療について、納得できるまで質問でき、さらに不明の点があれば診療情報の提供やカルテ開示を求める権利があります。
- 4．個人情報および診療情報は厳密に保護され、プライバシーを尊重される権利があります。
- 5．自分の受ける医療について、他の医師の意見を聞いたり（セカンドオピニオンを含む）、他の医療機関を受診する権利があります。
- 6．自分の健康に関する情報を正しく伝えるとともに、他の患者の診療を妨げないように配慮する責務があります。

目 次

挨拶	1
理念	2
目次	3
病院の現況	5
概要	6
病院の沿革	7
認定・指定	12
組織	13
院内管理体制	14
院内会議・委員会	15
病院職員	
病院職員	18
人員配置表	23
自衛消防組織編成表	25
診療局	26
診療局	27
内科	28
血液内科	29
消化器内科	30
循環器内科	31
精神科（心療内科）	32
消化器外科	33
呼吸器外科	34
乳腺外科	35
脳神経外科	36
整形外科	37
形成外科	38
産婦人科	39
小児科	40
新生児集中治療部	41
眼科	42
耳鼻咽喉科	43
泌尿器科	44
皮膚科	45
リハビリテーション科	46
麻酔科	47
放射線科・放射線診断科	48
放射線科・放射線治療科	49
歯科口腔外科	50
病理診断科	51
集中治療部	52
救急診療科	53
中央手術部	54
内視鏡センター	55
内分泌代謝・糖尿病センター	56
健診センター	57
中央検査部	58
輸血部	59
MEセンター	60
栄養科	63
薬剤部	64
臨床研究センター	66
卒後教育センター	67
通院治療センター	68
緩和ケアセンター	69
がん相談支援センター	70
就労支援センター	71

看護局	72
看護局の現況	73
1.看護局委員会活動状況	73
2.看護師の活動報告	74
3.院外活動状況	75
4.実習受け入れ状況	77
5.看護体験・職業体験受け入れ・多職種連携活動	77
事務局	78
事務局の現況	79
直轄組織	80
地域医療連携室	81
診療情報管理室	83
医療安全管理室	88
感染対策管理室	90
PFI事業	92
八尾医療PFI株式会社（SPC）	93
経営状況	94
1.収益費用明細書（税抜）	
(1)収益の部	95
(2)費用の部	96
2.資本的収入及び支出明細書（税抜）	
(1)資本的収入の部	97
(2)資本的支出の部	97
3.比較貸借対象表（税抜）	97
4.経営・財務分析表	98
業務状況	99
1.患者状況	
(1)診療科別患者数	100
(2)地域別患者数	101
(3)救急取扱患者数	102
(4)紹介率・逆紹介率	102
2.診療収益状況（税抜）	103
3.チーム医療活動	104
4.消防訓練	104
業績集	105
(1)刊行論文、著者	106
(2)学会発表	108
(3)研究会発表	114
(4)講演	115
(5)院内研修会	118
編集後記	119

病 院 の 現 況

概 要

1. 施設の概要

位 置	八尾市龍華町一丁目3番1号
敷地面積	14,999.98 m ²
建物延面積	40,470.38 m ² (駐車場・駐輪場含む) (本館 39,160.28 m ² 、北館 1,310.10 m ²)

2. 診療科目

内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、血液内科、精神科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科

3. 受付時間

外来診療	(初診・再診)	平日 午前8時45分から午前11時30分 (予約のある方) 平日 午前8時45分から午後2時30分
救急診療	内科・外科	(24時間受付)
小児救急診療	火曜日・土曜日	(午前9時から翌午前8時)
休診日	土曜日・日曜日・祝日・年末年始	

4. 病床数

380床	
内訳	特別室7室(7床)、個室73室(73床)、4床室66室(264床)、 HCR7室(14床)、NICU(6床)、ICU(6床)、HCU(8床)、無菌病室(2床)

5. 病棟

[本館] 8階	(東病棟) 消化器外科、緊急緩和ケア病床 (西病棟) 内科(消化器・一般)、救急病床 (HCU) 高度治療部
7階	(東病棟) 泌尿器科、形成外科、眼科、皮膚科、内科(腫瘍・血液、透析) (西病棟) 内科(循環器・血液・腫瘍)
6階	(東病棟) 整形外科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科 (西病棟) 小児科 (NICU) 新生児集中治療部
5階	(東病棟) 内科(呼吸器・糖尿・感染・一般)、脳神経外科、 緊急緩和ケア病床、乳腺外科 (西病棟) 産婦人科
3階	(ICU) 集中治療部

6. 外来等

[本館] 4階	リハビリテーション科、通院治療センター
3階	手術部門、ICU、検査部門、管理諸室
2階	総合待合、一般外来、医事部門、放射線部門、生理検査部門、 健診センター、糖尿病センター、内視鏡センター、診療支援・相談窓口(がん診療支援室(がん相談支援センター・就労支援センター)・患者サポート窓口)
1階	救急部門、放射線治療、核医学検査、SPD部門、 滅菌・消毒部門、薬剤部門、栄養部門、防災センター、 地域医療連携センター、入退院支援センター
地下1階	駐車場、防災備蓄倉庫
[北館]	院内保育ルーム、防災備蓄倉庫、大会議室、図書室

※ICU：集中治療室、NICU：新生児集中治療室、HCU：高度治療室、HCR：ハイケアルーム※旧HCU

病 院 の 沿 革

昭和	21年	5月	日本医療団八尾病院開設、八尾町西郷
昭和	23年	4月	八尾市誕生、市立八尾市民病院と名称変更
昭和	24年	8月	八尾市太子堂(現 南太子堂)に木造2階建、延324坪の新築工事着工
昭和	25年	2月	市立八尾市民病院開院、内科・外科・産婦人科・歯科・放射線科の5科を設置 病床数32床
		8月	皮膚泌尿器科開設、中央館完成、20床増床、病床数52床
昭和	26年	10月	結核病棟完成、50床増床、病床数102床
昭和	28年	2月	八尾市民病院の名称を廃止、八尾市立病院と呼称、小児科開設
		4月	眼科・耳鼻咽喉科開設(診療科9科)
		6月	本館棟完成、76床増床、病床数178床
		9月	中央館第1病棟7床増床、病床数185床
昭和	29年	12月	看護婦宿舍増築及び中央館改造工事完成、2床増床、病床数187床
昭和	31年	1月	整形外科独立(診療科10科)
		10月	平屋建一般病棟新築竣工(新館と呼称、後に南館と名称変更) 40床増床、病床数227床
昭和	32年	2月	円形伝染病棟竣工、鉄筋3階建370坪、66床
		5月	円形看護婦宿舍竣工
		8月	総合病院の承認を受ける
昭和	33年	11月	基準看護『1類』、基準給食の実施の承認を受ける
昭和	34年	4月	市立4診療所(西郡、大正、南高安、高安)市立病院に統合 (その後35、36年にいずれも民間移管或いは廃止)
昭和	36年	1月	中央検査科独立
		10月	全病棟に基準寝具実施
		12月	新館(北館)・玄関棟・レントゲン棟竣工、病床数309床
昭和	39年	1月	泌尿器科独立
		4月	昭和39年度会計から企業会計方式採用(地方公営企業法一部適用)
昭和	41年	4月	歯科廃止
		7月	南館病室増築工事完成
		10月	中館新築工事完成、病床数339床
昭和	42年	4月	社会保険診療報酬点数表『乙表』に切り替え
昭和	44年	1月	放射線科X線テレビ装置購入
昭和	47年	2月	基準看護『特類』承認、リハビリ棟新築、看護婦宿舍増築工事竣工
昭和	48年	3月	アイソトープ治療装置購入
		8月	本館、北館及びコバルト60棟改築工事完成 病床数412床(一般346床、伝染66床)
昭和	49年	10月	基準看護『特2類』実施
昭和	50年	1月	公立病院特例借借入(668,400千円)
昭和	52年	12月	中館2階分娩室改修工事完了
昭和	53年	3月	X線新型テレビ装置設置
		4月	八尾市立病院院内学級開設
		11月	スプリンクラー設置
昭和	54年	11月	病院事業経営健全化団体指定の認可
昭和	55年	9月	南館病棟増改築工事完成。病床数446床(一般380床、伝染66床)
昭和	56年	11月	理学療法科開設
昭和	57年	12月	コバルト60線源入替え
昭和	58年	3月	病院事業経営健全化措置実施要領による経営健全化完了
		9月	全身用コンピュータX線断層撮影装置設置
昭和	59年	9月	多項目自動血球計数装置設置
昭和	60年	9月	医事業務を中心にコンピュータ導入
昭和	62年	10月	X線テレビ撮影装置(ジャイロ)入替え、カセットレスX線テレビ装置設置
		11月	人間ドック開設
昭和	63年	5月	内科改装
		7月	中館2階病棟基準看護『特3類』実施
		11月	病棟科別再編成
平成	元年	5月	外科・整形外科・皮膚科改装
平成	2年	1月	循環器X線検査システム及びDSA装置設置
		5月	小児科・泌尿器科改装
		7月	コバルト60線源入替え
		12月	内視鏡ビデオ情報システム設置
平成	3年	3月	東側駐車場増設整備
		5月	産婦人科・眼科改装
平成	4年	5月	耳鼻咽喉科改装
平成	5年	1月	CT装置新機種に更新設置

	4月	内科、外科、小児科以外の診療科につき土曜日休診を実施
	8月	来院者用駐車場有料化実施
	9月	中館3階、南館3階病棟『特3類』実施
		病棟科別病床再編成
	12月	北館4階病棟『特3類』実施
平成 6年	4月	産婦人科 土曜日の外来診療を開始
		医局を診療局と改称し、診療局長を置く。看護科は医局より独立
	8月	MR I 装置設置
平成 7年	10月	内視鏡室改装
	5月	南館1階・2階病棟『特3類』実施
	7月	新看護2.5対1、A加算、13対1看護補助に移行
平成 8年		病棟科別病床再編成
	2月	適時適温給食実施
		病診連携窓口設置
	3月	八尾市立病院建設基金条例施行
	4月	病衣貸与実施
		看護相談窓口開設
	7月	J R八尾駅に広告看板を設置
平成 9年	12月	理学療法科をリハビリテーション科と改称
	3月	中館2階病棟詰所及び新生児室他改修
	4月	病院建設準備室設置
	5月	正面玄関増改築
	6月	新看護2対1、A加算に移行
平成 10年		薬の相談窓口設置
	1月	夜間小児急病診療開始(平日の火曜日・木曜日午後5時から午後12時まで)
		入院患者(内科、整形外科、眼科)に対する服薬指導実施
	3月	コバルト60線源入替え
	4月	救急告示認定(内科・外科・産婦人科)
		産婦人科の土曜日休診を実施
平成 11年	8月	貸与病衣の使用料徴収開始
	1月	外来患者に対する薬剤情報提供の実施
	3月	伝染病床廃止、病床数380床
	9月	入院患者に対する服薬指導の拡大 (耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科の患者にも拡大)
平成 12年	12月	伝染病棟取り壊し、跡地を駐車場利用
	1月	夜間小児急病診療の拡大 (第2、4、5土曜日午後5時から午後12時までについても実施)
	3月	新病院建設用地の購入
		中館2階病棟、分娩室改修
		新市立病院建設事業に伴う久宝寺遺跡発掘調査着手
	6月	夜間小児急病診療の拡大 (第2、4金曜日午後5時から午後12時までについても実施)
	7月	市立病院創立50周年記念行事「健康バンザイ」開催 NHK総合テレビジョン「関西クローズアップ」で市立病院新人看護職員の 看護体験放映
平成 13年	2月	医療事故防止マニュアルの発行
	3月	八尾市医師会地域医療情報ネットワークに参画
	8月	新病院起工式
平成 14年	10月	市民参加の患者サービス検討会議設置
	2月	北館4階病棟に24時間監視体制の病室(HCU)を設置
	4月	院外処方箋の全面实施
平成 15年	9月	P F I 事業(新病院維持管理・運営事業)実施方針の公表
	4月	臨床研修病院の指定(医科)
	11月	新病院定礎式(21日)
平成 16年	12月	新病院建物の引き渡し(26日)
	3月	八尾医療P F I 株式会社と維持管理・運営事業契約の締結(26日)
	4月	新病院竣工式(21日)
		新病院市民見学会(24、25日)
	5月	新病院開院(1日)新たに循環器科、神経内科、脳神経外科、歯科口腔外科を 設置し、全16診療科となる。病床数380床 小児救急診療を輪番制(火曜日・木曜日・土曜日)で開始 地域医療連携室設置 総合医療情報システムを導入 新しく高度医療機器(結石破碎装置、磁気共鳴画像診断装置、放射線治療装置、 血管造影撮影装置、X線テレビシステム、X線CT、ガンマカメラ、骨密度測定 検査装置、乳房X線撮影装置)を導入

		I C U、H C U、N I C Uを完備
		新病院外来診療開始(7日)
	7月	P F I 事業に関し、モニタリング委員会、事業評価部会を設置
		大阪府自治体病院開設者協議会会長就任
	8月	日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver. 4 認定(一般病院)
	11月	女性専門外来開始
平成 17年	2月	自治体病院協議会見学会
	3月	病院建設準備室が解散
	5月	新病院移転一周年記念講演会開催
	10月	分娩休止
		病院各委員会見直し・再編
		まちなかステーションにインターネットコーナー設置
平成 18年	3月	まちなかステーションに住民票等自動交付機設置
		旧病院解体工事着手
	4月	分娩再開
		院内敷地内全面禁煙開始
	5月	ナースキャップ廃止
	10月	2階フロアに市民ギャラリー設置
	11月	旧病院解体工事完了
平成 19年	4月	病院事務局機構改革(一課へ統合)
		診療情報管理室設置
	5月	小児病棟にプレイルーム設置
		N I C U増床(3床→6床)
	10月	臨床研修病院の指定(歯科)
平成 20年	11月	大阪府地域周産期母子医療センターの認定
	2月	がん相談支援センター設置
	4月	クレジットカードによる診療費の精算開始
		医療安全管理室設置
	5月	I C U施設基準届出
	6月	7:1入院基本料に移行
	7月	乳がん検診の拡大(土曜日)
		D P C(診断群分類別包括評価)開始
	11月	従来の16科に、形成外科・病理診断科を加え、全18診療科となる
平成 21年	2月	八尾市立病院改革プラン策定
	3月	院内保育開始
	4月	地方公営企業法全部適用体制への移行(病院事業管理者を設置)
		大阪府がん診療拠点病院指定
	5月	新型インフルエンザ発生のため拠点型発熱外来を設置
	6月	女性専門外来休止
	7月	八尾市立病院P F I 事業検証のための実態調査・分析実施
	8月	日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver. 6.0 認定
平成 22年	1月	太陽光発電システム設置
	2月	M R I 装置を増設
	3月	陰圧病床設置
		医局拡張工事実施
	7月	心臓オンコール開始
	9月	八尾市災害医療センターとして、大規模災害を想定したトリアージ訓練を実施
	10月	八尾市立病院開院60周年記念講演会開催
	12月	八尾市立病院開院60周年記念誌発行
平成 23年	3月	J R久宝寺駅2階部分ペDESTリアンデッキ接続に伴い、2階南エントランス開通
		東日本大震災の被災地(宮城県石巻市)に看護協会を通じて看護師を派遣
	4月	従来の18科に、消化器内科・腫瘍内科を加え、全20診療科となる
	5月	東日本大震災の被災地(岩手県大槌町)に日本医師会災害医療チーム(J M A T)として医療チームを派遣(医師2名、看護師2名、薬剤師2名、事務員2名)
		登録医制度、開放型病床の運用開始
	6月	電子カルテシステム更新
平成 24年	2月	八尾市立病院経営計画策定
	4月	血液内科、乳腺外科を標榜し、神経内科を取り下げ、全21診療科となる
		ボランティア「スマイル」活動開始
		糖尿病センター設置
		中河内地域感染防止対策協議会立ち上げ
	10月	大阪府がん診療拠点病院指定更新
		せせらぎの運用開始
	11月	地域医療支援病院承認
	12月	病院・診療所・薬局連携ネットワークシステム稼働
平成 25年	3月	マンモグラフィ機器を更新
		C T装置を更新(16列から80列へ)

	8月	院内インターネット環境整備 病棟へ薬剤師の常駐配置開始
	10月	市立病院看護師による健康相談の開始 海外招請講演会（MEET THE EXPERTS）を開催
	12月	肝臓がんよろず専門外来開設
平成 26年	1月	機能拡充のための施設整備に向けた北部駐輪場の解体
	4月	緩和ケアセンター設置 臨床研究センター設置 出前講座開始
	5月	薬剤師によるお薬相談の開始 市立病院機能拡充工事開始
	6月	第36回日本癌局所療法研究会を開催
	8月	日本医療機能評価機構機能評価3rdG:Ver. 1.0認定
	12月	新型インフルエンザ等対応訓練を実施
平成 27年	2月	八尾市立病院経営計画（Ver. II）策定
	3月	北館工事完成、北館内覧会実施 中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会がんシンポジウム実施（毎年開催）
	4月	基本理念、基本方針の改訂 地域がん診療連携拠点病院指定
	5月	八尾市立病院PFI事業検証実施
	6月	ICU増床、外来化学療法室増床
	7月	患者サポート・ケアセンター設置
	8月	駐輪場ラック設置
	9月	血管撮影装置を更新 市立病院機能拡充工事竣工
平成 28年	2月	放射線治療装置を更新
	4月	感染対策管理室設置
	5月	熊本地震の被災地（熊本県阿蘇郡西原村、上益城郡御船町）に看護師を派遣
平成 29年	2月	血管撮影装置を増設 PFI事業期間終了後の八尾市立病院の維持管理・運営事業に関する検討報告書作成
	5月	禁煙外来開設
	6月	自治体立優良病院表彰（全国自治体病院開設者協議会および 全国自治体病院協議会会長表彰）を受賞
	9月	八尾市立病院維持管理・運営事業（第2期）実施方針の公表
	10月	電子カルテシステム更新
	11月	全国公立病院連盟会員病院の優良病院表彰を受賞
	12月	八尾市立病院維持管理・運営事業（第2期）の特定事業の選定
平成 30年	2月	八尾市立病院経営計画（Ver. III）策定
	3月	ガンマカメラを更新
	4月	認定看護師による同行訪問看護を開始 病診薬連携システムに訪看・地域包括ケアセンター介護事業所拡大
	6月	自治体立優良病院表彰（総務大臣表彰）を受賞
	7月	6階病棟改修工事实施
	12月	MRI装置を更新
平成 31年	2月	新型インフルエンザ対応訓練を実施
	3月	大阪大学電子カルテシステム相互参照システム導入 八尾医療PFI株式会社と維持管理・運営事業（第2期）契約の締結（25日） 中河内医療安全対策連携協議会立ち上げ
	4月	入退院支援センター設置
令和 元年	8月	日本医療機能評価機構機能評価3rdG:Ver. 2.0認定 患者向け院内フリーWiFi 設置
令和 2年	2月	新型コロナウイルス感染症対応のため帰国者・接触者外来を設置
	3月	70周年記念ロゴマークを作成 CT装置を増設（救急外来）
	4月	地域がん診療連携拠点病院（高度型）指定 卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定 発達障がいに係る拠点医療機関指定 院内フォーミュラリを設定
	5月	八尾市立病院新型コロナウイルス対策に対する寄附金制度の創設 紹介救急外来の設置
	6月	八尾市立病院 You Tubeチャンネル開設
	7月	選定療養費改定
	8月	5階西病棟にインターネット環境拡張
	8月	大阪府新型コロナウイルス感染症重点医療機関（軽症中等症）指定
	9月	地域外来・検査センター指定
	10月	ハイブリッド研修・講演会対応 オンライン会議対応

			診療・検査医療機関（A型）指定 新型コロナ外来抗体療法バックアップ病院の登録
	12月		八尾市立病院特設診療・検査センター（YSKセンター）を設置 検温所設置 電話再診開始
令和	3年	2月	八尾市立病院経営計画（Ver.Ⅳ）策定
		3月	8階西病棟にインターネット環境拡張
		4月	従来の21診療科に、精神科・消化器外科・呼吸器外科を加え、全24診療科となる
			看護部を看護局へ名称変更
		6月	オンライン立会分娩開始 新型コロナワクチン集団接種開始
		7月	新型コロナワクチン個別接種開始
		8月	手術支援ロボットの導入
令和	4年	3月	小児（5歳から11歳）の新型コロナワクチン接種開始 診療支援・相談窓口を設置 地域医療連携センター・入退院支援センターを1階に移設
		10月	選定療養費改定
		11月	4階通院治療センター及び2階中央処置室整備
令和	5年	1月	2階内視鏡センター拡張整備
		3月	8階高度治療室（HCU）整備
		5月	第15回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会を開催
		9月	胃がん検診（胃内視鏡検査）の開始
		10月	電子処方せん導入に伴う先行対応
		12月	AI問診の導入
令和	6年	1月	石川・能登半島地震の被災地に日本医師会災害医療チーム（JMAT）及び 災害支援ナースとして医療チームを派遣（医師2名、看護師6名、助産師1名、 薬剤師2名、事務員2名）
		2月	八尾市立病院第5期経営計画策定
		4月	マイナンバーカードでのオンライン資格確認の開始 産後ケアサービスの開始 院内スマートフォンの導入
		5月	電子処方箋の利用開始
		5月	子ども食堂の開始
		12月	八尾市立病院PFI事業（第2期）検証実施

認 定 ・ 指 定

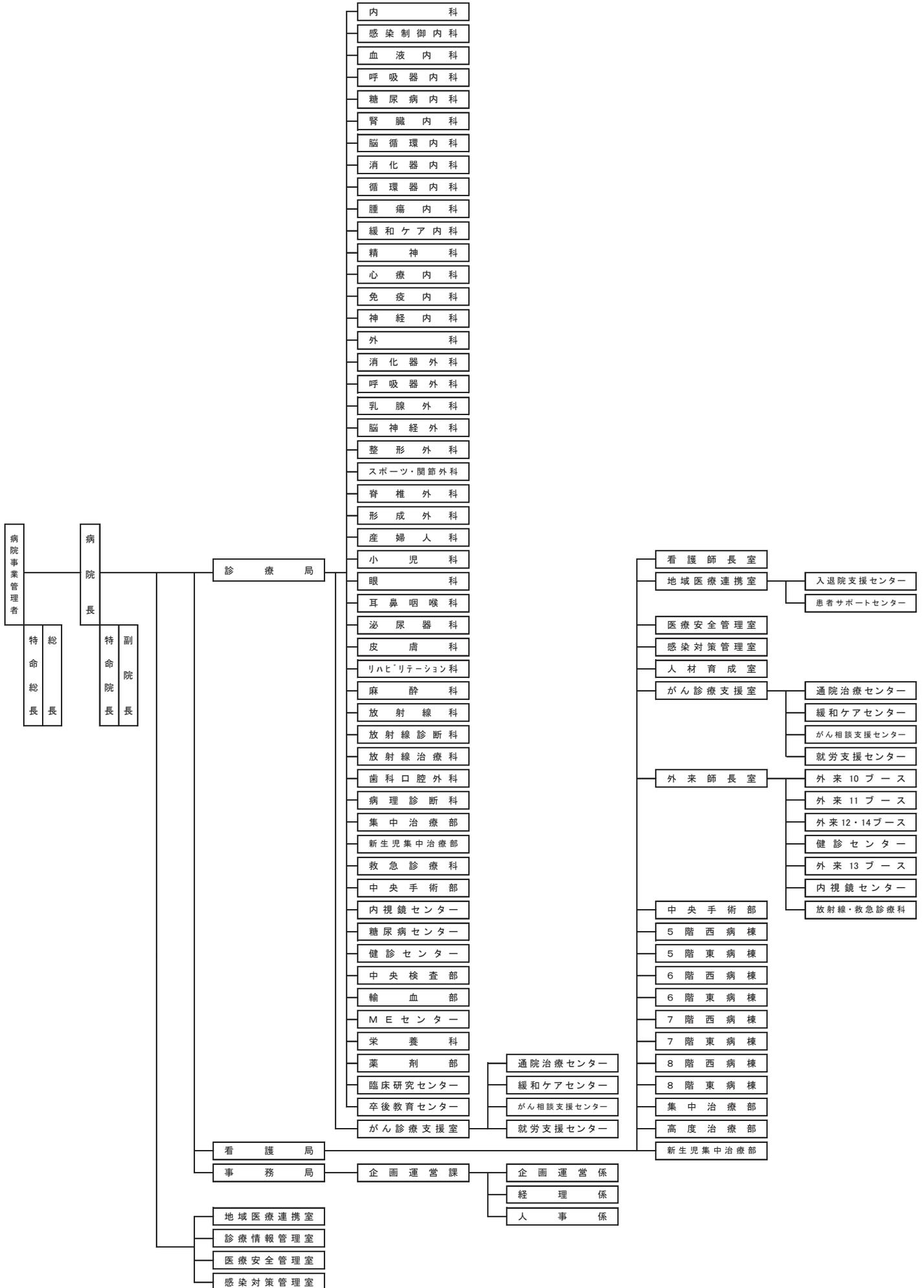
<各種学会認定（専門）医制度による研修施設>

日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本血液学会認定専門研修施設
日本麻酔科学会研修施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本乳癌学会専門医制度認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本周産期・新生児医学会専門医制度
周産期専門医（新生児）指定施設、周産期母体・胎児
専門医補完研修施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本肝臓学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士認定教育施設
日本臨床細胞学会認定施設
日本臨床細胞学会教育研修認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設（B 認定）
日本形成外科学会認定施設
日本緩和医療学会認定研修施設
日本病理学会専門医制度研修登録施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本ペインクリニック学会指定研修認定施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本産婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本気管食道科学会気管食道科専門医研修施設
日本大腸肛門病学会認定施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
薬学教育協議会薬学生実務実習受入施設
一次脳卒中センター（PSC）認定施設
母体保護法指定医師研修機関
日本食道学会食道外科専門医準認定施設
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
日本手外科学会認定基幹研修施設
日本緩和医療薬学会緩和医療専門薬剤師研修施設
新専門医制度による 大阪大学研修プログラム
内科研修施設、循環器内科研修施設、消化器内科研修
施設、外科連携施設、脳神経外科連携施設、耳鼻咽喉
科連携施設、整形外科連携施設、放射線科総合修練機
関、呼吸器外科連携施設
日本胃癌学会認定施設 A
日本消化器内視鏡学会指導施設

<指定医療機関>

日本医療機能評価機構認定病院
臨床研修指定病院（医科・歯科）
保険医療機関
労災保険指定医療機関
労災保険二次健診等給付医療機関
結核予防法指定医療機関
生活保護法指定医療機関
障害者指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）
障害者指定自立支援医療機関（精神通院医療）
児童福祉法育成医療指定医療機関
母子保健法未熟児養育指定医療機関
原子爆弾被爆者一般疾病指定医療機関
救急告示指定病院
母体保護法指定医療機関
難病医療費助成制度指定医療機関
小児慢性特定疾病医療費助成制度指定医療機関
妊婦一般健康診査取扱機関
乳児一般健康診査取扱機関
B型肝炎母子感染防止事業取扱機関
国民健康保険療養取扱機関
母子保健法指定養育医療機関
児童福祉施設（助産施設）
公害健康被害補償法取扱医療機関
マンモグラフィ検診施設・画像認定施設
特定給食施設
新生児聴性脳幹反応（ABR）実施病院
日本臨床栄養代謝学会 NST 稼動施設
大阪府地域周産期母子医療センター認定施設
地域がん診療連携拠点病院
大阪府地域医療支援病院
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
インプラント実施施設
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
エキスパンダー実施施設
産婦人科診療相互援助システム（OGCS）参加病院
新生児診療相互援助システム（NMCS）参加病院
JCOG 乳がんグループ参加施設
日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
下肢静脈瘤血管内治療実施管理委員会認定実施施設
日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術術前症例登録施設
大阪府小児地域医療センター指定医療機関
大阪府感染症予防及び感染症患者に関する法律第 38 条第 2
項協定指定医療機関（第 1 種及び第 2 種）
NCD 施設会員（外科領域）
日本心血管インターベンション治療学会浅大腿動脈ステント
グラフィト実施施設

組 織



院内会議・委員会

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長
1	企画会議	基本理念、基本方針、診療機能等、病院経営における重要かつ基本的事項について、病院幹部職員の円滑な意思形成に基づいた確かな意思決定を期する	必要の都度	植野 茂明
2	組織・機構改革プロジェクト	八尾市立病院の組織的なマネジメント、ガバナンスの強化を目指し、持続可能な組織運営を行うための組織・機構を改革することを目的とする	必要の都度	藤田 淳也
3	職員任用採用委員会	八尾市立病院に勤務する企業職員の任用採用に関して必要な事項を定める	必要の都度	
4	職員分限懲戒審査委員会	職員の分限懲戒に関して適正を期する	必要の都度	
5	幹部会議	病院事業の充実・発展と効率的運用を期する	毎週木曜日	藤田 淳也
6	総合医療情報システム更新プロジェクト	総合医療情報システムの仕様及び運用を検討し、同システムを更新することを目的とする	必要の都度	藤田 淳也
7	医師等の働き方改革を進めるためのプロジェクト	医師等の働き方改革を進めるための検討を行う	必要の都度	藤田 淳也
8	病院機能評価受審準備プロジェクト	病院機能評価の更新認定を受けるため、必要な医療体制や医療機能などを整え、当院の医療サービスの客観的評価を確保することを目的とする。	必要の都度	藤田 淳也
9	コスト適正化プロジェクト	コストの適正化を目指す	必要の都度	田村 茂行
10	臨床研究審査委員会	医薬品の製造販売承認申請又は承認事項一部変更承認申請の際に提出すべき資料の収集の為に、行う治験、使用成績調査、特定使用成績調査、製造販売後臨床試験および副作用・感染症報告および医療行為について倫理的な観点から審議する	年8回(4・5・7・8・10・11・1・2月)の第3金曜日	森本 卓
11	危機管理対策委員会	危機管理の対策を行う	必要の都度	藤田 淳也
12	危機管理マニュアル部会	危機管理の対策に関するマニュアル作成を行う	必要の都度	箕輪 秀樹
13	運営会議・各科代表者合同会議	円滑な管理運営を期するために連絡・調整を行う	第4水曜日	藤田 淳也
14	安全衛生委員会	労働安全衛生法の規定に基づき、職場における安全および衛生の維持向上並びに職員の健康保持増進を図る	第4月曜日	小枝 伸行
15	医療事故対策会議	医療事故の適切な対応を図る	必要の都度	藤田 淳也
16	医事紛争対策委員会	医事紛争等の問題対策を行う	必要の都度	藤田 淳也
17	診療情報開示判定委員会	診療情報の開示に係る事務を適正かつ迅速に処理する	必要の都度	藤田 淳也
18	業務入札審査委員会	委託業務等に関し、入札業者指名等の決定等を行う	必要の都度	小枝 伸行
19	経営計画評価委員会	八尾市立病院経営計画に基づく経営改善の取組み状況を点検・評価するため	年 1 回	植野 茂明
20	行財政改革(経営健全化)推進会議	市財政改革推進本部による「新しい行財政改革大綱」に基づき、八尾市立病院の運営および財政改革並びに経営の健全化を推進する	必要の都度	植野 茂明
21	経営健全化推進会議専門部会(収益部会)	病院経営健全化を推進する上で、増収に向けての内容について検討する	必要の都度	箕輪 秀樹
22	経営健全化推進会議専門部会(費用部会)	病院経営健全化を推進する上で、コスト削減に向けての内容について検討する	必要の都度	渡部 徹也
23	維持管理・運営事業にかかるモニタリング委員会	維持管理・運営事業の実施にともない、PFI事業に関する事業評価を適正に行う	年 4 回	小枝 伸行
24	維持管理・運営事業にかかる事業評価部会	業務ごとの個別のモニタリング評価を行う	第3火曜日	宮田 辰弥
25	市立病院維持管理・運営事業検討委員会	PFI契約期間終了後の維持管理・運営事業の検討に伴う重要な方針等を決定する	必要の都度	小枝 伸行
26	PFI事業検証証書事業者選考委員会	PFIの動向等を調査・整理し、状況を把握・分析するとともに、当院のPFI事業の評価を行い、今後の維持管理運営業務のあり方について検討する。	必要の都度	小枝 伸行
27	職員被服委員会	八尾市立病院に勤務する職員に対する被服の種類および貸与数量等の変更に際して、意見の調整を行う	必要の都度	小枝 伸行
28	情報管理委員会	病院で取り扱う個人情報を含む全ての情報管理や院内の情報機器、外部記録ネットワーク媒体(USBメモリ等)、ネットワーク及び外部とのデータ通信等における保安管理、セキュリティ及び適切な運用を図る	必要の都度	小枝 伸行
29	医療DX委員会	システム運用に係る院内の全体調整や方針の策定、システム機器の管理に関する検討、およびシステム利用に係る管理運営を行う	第3月曜日	榎原 充
30	DPC・コーディングに関する委員会	DPC請求にかかる検討を行う	第4火曜日	福井 弘幸
31	診療報酬部会	保険診療の適正化を図る	偶数月の第4月曜日	福井 弘幸
32	診療情報・がん登録管理委員会	診療録の管理を適切に行うことにより病院機能の向上を図る	第3金曜日	福井 弘幸
33	広報・年報編集委員会	市民等へ病院事業の広報、記録保存を行う	必要の都度	小枝 伸行
34	医療機器等整備委員会	資産購入および適正使用に関する事項を検討し、その合理的運用を図る	第1火曜日	藤田 淳也

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長
35	エコー部会	エコー装置の稼働状況の把握や機器の更新、増設、新規購入の要望があった場合の一次審議を行う	必要の都度	福井 弘幸
36	診療材料検討委員会	診療材料の採用・取消および適正価格・適正使用等に関する事項を検討し、院内で使用する材料の合理的な管理運営を図る	第2火曜日	福井 弘幸
37	図書委員会	図書の適切な購入と管理を行う	必要の都度	大江 洋介
38	大規模修繕検討委員会	大規模修繕に関する事項を検討し、修繕・更新計画の審議や実施内容の検討を行う	必要の都度	藤田 淳也
39	病院勤務医等負担軽減検討委員会	医師の事務作業負担を軽減することを目的として医師事務作業補助者を配置するにあたり、その業務の内容と役割分担を整理把握する体制を確保する	必要の都度	箕輪 秀樹
40	省エネルギー推進委員会	院内における省エネルギー活動を効率的に推進する	必要の都度	小枝 伸行
41	接遇改善委員会	八尾市立病院の理念を踏まえた患者サービスの向上を図る	第2木曜日	箕輪 秀樹
42	倫理問題検討委員会	日常診療の中で起こる様々な倫理的問題を、医学的、倫理的及び社会的観点から公正な立場で協議、助言する	年4回(3・6・9・12月) 第1金曜日	箕輪 秀樹
43	虐待防止委員会	院内における虐待に関する対応方針等を明確にし、虐待の早期発見、被害者への保護・救済への迅速な対応及び組織的な対応を行う	必要の都度	箕輪 秀樹
44	虐待防止(APT)部会	院内における虐待防止に関する具体的な対策を検討する	必要の都度	箕輪 秀樹
45	外来運営委員会	外来診療部門の運営の円滑化、効率化および患者サービスの向上を図る	第2金曜日	益永 信隆
46	救急医療等運営委員会	救急医療の円滑な推進を図る	第3金曜日	渡部 徹也
47	病棟運営委員会	病棟の業務の円滑な推進を図る	偶数月の 第4月曜日	吉岡 慎一
48	病床運営委員会	病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	奇数月の 第2月曜日	神田 ゆか
49	ICU・HCU運営委員会	ICU・HCU病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	年4回(5・8・11・2月) 第1月曜日	東 浩司
50	小児周産期運営委員会	NICU病床利用の効率化により、病院運営の向上を図る	奇数月の 第4月曜日	箕輪 秀樹
51	中央手術部運営委員会	所轄の機器・施設整備等に関する調整、所轄の業務内容変更等に伴う各診療科の調整を行う	年4回(4・7・10・1月) 第4金曜日	黒木 慶和
52	術後疼痛管理対策部会	術後の疼痛管理対策について検討する	必要の都度	本田 博嗣
53	周術期血栓対策部会	周術期の血栓対策について検討する	必要の都度	黒木 慶和
54	中央検査部運営委員会	業務運営の円滑かつ効率的な運用を行う	偶数月の 第1月曜日	服部 英喜
55	放射線科運営委員会	所轄の機器・施設整備等に関する調整、所轄の業務内容変更等に伴う各局間の調整を行う	奇数月の 第1月曜日	吉田 重幸
56	地域医療連携業務運営委員会	地域医療連携の推進を図るために、院内の関係部門・部署、関係職員間の連携と調子を円滑かつ効率的に取り組むことを目的とする	第3木曜日	藤田 淳也
57	がん診療支援委員会	地域がん診療連携拠点病院に指定されたことを受け、八尾市立病院及び地域のがん診療の向上を目指す	必要の都度	佐々木 洋
58	がんゲノム医療連携病院検討ワーキング	がんゲノム医療連携病院の指定にむけて、必要な要件の確認、検討を行う	必要の都度	益澤 徹
59	がん相談支援・就労支援部会	がん患者の相談支援・就労支援を行う	第4水曜日	田村 茂行
60	緩和ケアセンター運営委員会	八尾市立病院の緩和ケアの方向を決定する	奇数月の 第3水曜日	蔵 昌宏
61	がん薬物療法運営委員会	がん化学療法を安全かつ効率的な実施を目指す	奇数月の 第2火曜日	桑山 真輝
62	レジメン審査部会	各種悪性腫瘍に対する抗がん剤化学療法の診療計画・実施プロセスの標準化を図り、管理する	必要の都度	桑山 真輝
63	リハビリテーション運営委員会	八尾市立病院のリハビリテーションの方向を決定する	必要の都度	岡本 道雄
64	骨粗鬆症リエゾン部会(チーム)	骨粗鬆症の予防と治療、脆弱性骨折減少のために、骨粗鬆症リエゾンサービスを推進する	必要の都度	本田 博嗣
65	褥瘡・排尿ケア運営委員会	褥瘡・排尿ケア対策に関して、患者が安心して医療が受けられる環境を整えること、そして患者が医師および医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第3火曜日	仲野 雅之
66	認知症ケア・身体拘束最小化委員会	認知症ケアに関する専門性と実践能力の向上に資する	第1水曜日	田中 政宏
67	パス委員会	診療計画・実施プロセスの標準化による、医療の質の向上、効率化、医療安全対策等、病院運営の向上を図る	偶数月の 第2火曜日	森 鑑二
68	パスワーキング	パスの整備、標準化について検討を行う	毎週木曜日	山下 春美
69	薬事委員会	薬品の購入および適正使用等に関する事項を検討し、院内で使用する薬品の合理的な管理運営を図る	偶数月の 第3水曜日	榊原 充
70	栄養委員会	給食業務および臨床栄養業務が病院の本義に則したものであるとして、適切に推進され、かつ円滑な運用を行う	奇数月の 第3金曜日	木戸 里佳

No.	会議・委員会名	目的	開催日	議長・委員長
71	輸血療法委員会	輸血療法の安全性確保と適正化を図る	奇数月の 第4木曜日	服部 英喜
72	チーム医療推進委員会	医療の高度化、細分化に対応しつつ、医師及び各部門職員のパートナーシップのもとに質の高い医療を提供する	必要の都度	田村 茂行
73	がん薬物療法チーム	各種悪性腫瘍に対する抗がん剤化学療法の診療計画・実施プロセスの標準化による、医療の質の向上、効率化、医療安全対策等、病院運営の向上を図る	奇数月の 第3金曜日	桑山 真輝
74	院内感染防止対策チーム(ICT)	病院内の感染症の防止、発生時に必要な対策に関する情報収集、院内の啓発活動、施設・設備の点検および改善、微生物学的検査を実施する	第3水曜日	福盛 達也
75	抗菌薬適正使用支援チーム(AST)	抗菌薬曝露による耐性菌化の抑止に努めるとともに、抗菌薬治療最適化のために、種類や用法・用量・治療期間が適切かをモニタリングし、必要に応じて抗菌薬ラウンドまたは主治医へのアドバイスをを行う	第3水曜日	福盛 達也
76	栄養管理(NST)チーム	栄養管理のための調査・研究、および、医療従事者への教育を行う	第2水曜日 第4水曜日	田村 茂行
77	褥瘡対策チーム	褥瘡対策を実践する	必要の都度	仲野 雅之
78	緩和ケアチーム	緩和ケア医療を実践する	毎週水曜日	蔵 昌宏
79	ACPチーム	八尾市立病院におけるACP実装推進に係る道筋を具体的に示す	必要の都度	井谷 嘉男
80	糖尿病診療チーム	糖尿病のある方の腎機能の低下を早期に発見し、腎機能の低下と透析導入を予防する、および入院、外来の糖尿病治療を横断的な診療チームで行う	必要の都度	木戸 里佳
81	入退院支援チーム	入退院支援センターを円滑に運用し、リスクコントロールによる医療事故の防止や入退院患者の満足度の向上を図る	必要の都度	田村 茂行
82	認知症ケア・身体拘束減少チーム	院内の認知症ケアラウンドおよび、認知症ケアカンファレンスを通じて、認知症ケアの実践、指導、相談を行う	毎週金曜日	田中 政宏
83	排尿ケアチーム	排尿ケアを実践する	毎週木曜日	黒木 慶和
84	摂食嚥下支援チーム	摂食嚥下のための調査・研究を行い、嚥下障害がある方の日常生活における活動性の向上を目指す	必要の都度	有田 都史香
85	医療安全管理委員会	患者が安心して医療を受けられる環境整備を促進し、患者が医師および医療機関を信頼するとともに、医療提供者が安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第4月曜日	箕輪 秀樹
86	医療安全推進部会	医療安全管理委員会における事故の発生原因、再発防止策の検討結果・決裁事項の職員への周知、毎月1回の院内ラウンドの実施、内部監査の実施、および危険予知トレーニングを実施する	第2月曜日	村上 味徳
87	特定看護師推進部会	八尾市立病院における特定看護師(特定行為研修を修了した看護師)に関する事項等を審査し、特定行為の臨床における円滑な実施を図る	年 1 回	山下 春美
88	報告書確認対策部会	報告書確認対策を実践する	必要の都度	福井 弘幸
89	院内迅速対応(RRS)部会	院内迅速対応対策を実践する	必要の都度	益永 信隆
90	入院時重症患者対応部会	入院時重症患者の対応を実践する	必要の都度	神田 ゆか
91	透析機器安全管理委員会	透析治療の安全と品質管理の向上を図る	必要の都度	上水流 雅人
92	医療ガス安全管理委員会	実施責任者に保守点検業務を実施させる。医療ガス設備に係る新設および増設工事、部分改造、修理等に当たっては臨床各部門にその旨、周知徹底を図るとともに、その使用に先立ち、厳正な試験および検査を行い、安全確認を行う	年 1 回	黒木 慶和
93	放射線安全委員会	放射線施設従事者等の放射線障害発生の防止、放射線施設の整備・計画やその他、管理上必要な事項について検討する	必要の都度	箕輪 秀樹
94	院内感染対策委員会	感染対策に関して、患者が安心して医療を受けられる環境を整えること、そして患者が医師および医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療を提供するシステムを病院全体として組織的に構築する	第3木曜日	服部 英喜
95	医療放射線管理委員会	診療用放射線の安全利用に係る管理を行う	必要の都度	吉田 重幸
96	教育研修委員会	八尾市立病院の理念を踏まえ、病院職員の資質と能力の向上を図り、安全で高度な医療サービスを提供する	必要の都度	渡部 徹也
97	内科専門医プログラム管理委員会	日本専門医機構が制定する専門医制度新整備指針に基づき、専攻医教育に関する事項を所掌する	必要の都度	大江 洋介
98	臨床研修管理委員会	医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を協力型臨床研修病院と臨床研修協力施設と共に臨床研修病院群として行う	必要の都度	藤田 淳也
99	臨床研修プログラム部会	臨床研修に関する情報収集及びプログラムを作成する	必要の都度	渡部 徹也
100	臨床研修活性化部会	臨床研修に関するプログラムの内容を検討する	必要の都度	渡部 徹也
101	地域医療支援委員会	地域医療支援病院の承認に向けた取り組みについて、地域医療機関の意見を聞き、承認後は地域における医療の確保のための必要な支援業務を審議する	年 4 回	藤田 淳也
102	病業連携推進協議会	病院と薬局の連携を通じて地域で適正な薬物療法を行い、市民の健康な生活を確保することを目的とする	必要の都度	西岡 達也
103	看看連携院内会議	地域の看護職との連携を通じて、病院での治療と在宅療養における情報交換や専門的知識・技術等の向上を図り、地域完結型医療の推進と地域住民の健康な生活及び地域医療連携の発展を目指す	年 4 回	西村 勢津子

病 院 職 員

1. 病院事業管理者

植 野 茂 明 R7. 3. 31退職

2. 病院職員

所 属 名	補 職	氏 名	備 考
幹 部 (医 師)	特 命 総 長	佐々木 洋行	(兼診療局がん診療支援室長)
	病 院 長	田 村 茂 行	(地域医療連携室長補佐事務取扱・診療局がん診療支援室がん相談支援センター長事務取扱・診療局がん診療支援室就労支援センター長事務取扱・診療局病理診断科部長事務取扱)
	特 命 院 長	藤 田 淳 也	(地域医療連携室長事務取扱・診療局がん診療支援室室長補佐事務取扱)
	特 命 院 長	兒 玉 憲 憲	R7. 3. 31退職
	特 命 院 長	西 山 謹 司	(診療局放射線治療科部長事務取扱)
	副 院 長	福 井 弘 幸	(診療情報管理室長・地域医療連携室室長補佐)
	副 院 長	箕 輪 秀 樹	(兼診療局長・医療安全管理室長事務取扱)
医 療 顧 問	副 院 長	渡 部 徹 也	(診療局循環器内科部長事務取扱・診療局救急センター長事務取扱・診療局卒後教育センター長事務取扱)
	医 療 顧 問	星 田 四 朗	R7. 3. 31退職
内 科	部 長	大 江 洋 介	(兼診療局がん診療支援室緩和ケアセンター副医長)
	医 長	太 田 充 幸	
	医 長	岡 本 正 幸	
	副 医 長	渡 瀬 晴 人	
感 染 症 内 科	医 長	福 盛 達 也	
血 液 内 科	診 療 局 次 長	服 部 英 喜	(兼診療局血液内科部長・診療局中央検査部医長事務取扱・診療局輸血部医長事務取扱・感染対策管理室長)
	部 長	桑 山 真 輝	(兼診療局がん診療支援室通院治療センター長)
消 化 器 内 科	部 長	榊 原 充	R7. 3. 31退職
	医 長	末 村 茂 樹	
	医 長	小 倉 智 志	
	医 長	岡 部 純 弥	
	副 医 長	中 田 明 宏	
	副 医 長	辻 俊 佑	
	副 医 長	中 渡 瀬 浩 仁	R7. 3. 31退職 R6. 4. 1採用 R7. 3. 31退職
循 環 器 内 科	部 長	益 永 信 隆	R6. 4. 1採用 R7. 3. 31退職
	医 長	南 坂 朋 子	
	医 長	乾 礼 興	
	医 長	網 屋 亮 平	
	会 計 年 度 任 用 職 員	藤 原 柁 斗	
	会 計 年 度 任 用 職 員	村 上 阿 理 紗	
緩 和 ケ ア 内 科	部 長	井 谷 嘉 男	(兼地域医療連携室係長・診療局がん診療支援室・緩和ケアセンター医長) R6. 12. 31退職
精 神 科	部 長	田 中 政 宏	(兼診療局心療内科医長)
外 科	部 長	吉 岡 慎 一	R7. 3. 31退職
	会 計 年 度 任 用 職 員	岡 内 義 隆	
	会 計 年 度 任 用 職 員	丸 山 南	
	会 計 年 度 任 用 職 員	植 村 耕 平	
消 化 器 外 科	部 長	益 澤 徹	R7. 3. 31退職 R6. 4. 1採用 R6. 4. 1採用 R6. 4. 1採用 R6. 6. 30退職 R6. 4. 1採用 R6. 6. 30退職
	医 長	大 澤 日 出 樹	
	医 長	飛 鳥 井 慶	
	医 長	谷 口 嘉 毅	
	医 長	池 嶋 遼	
	医 長	丸 川 大 輝	
	副 医 長	野 村 知 礼	
	副 医 長	池 田 裕 二	

所 属 名 科	補 職	氏 名	備 考
呼 吸 器 外 科	部 長 副 医 長	桃 實 徹 竹 原 洋 士	
乳 腺 外 科	診 療 科 特 任 部 長 医 長 医 長	森 本 卓 高 本 香 尾 澤 宏 美	兼 診 療 局 臨 床 研 究 セ ン タ ー 長 R6. 4. 1 採 用 R7. 2. 28 退 職 R7. 3. 31 退 職
脳 神 經 外 科	部 長 医 長 医 長 副 医 長	森 鑑 二 有 田 都 史 香 田 中 將 貴 中 川 僚 太	R6. 4. 1 採 用
整 形 外 科	部 長 医 長 会 計 年 度 任 用 職 員 会 計 年 度 任 用 職 員	山 田 裕 三 平 井 宏 昌 小 山 拓 也 田 辺 隆 司	(兼 診 療 局 ス ポ ー ツ ・ 関 節 外 科 医 長) R6. 4. 1 採 用 R6. 4. 1 採 用 R7. 3. 31 退 職 R6. 7. 1 採 用 R7. 3. 31 退 職
脊 椎 外 科	部 長	本 田 博 嗣	(兼 診 療 局 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科 医 長)
形 成 外 科	部 長 副 医 長 会 計 年 度 任 用 職 員	仲 野 雅 之 胡 内 佑 規 玉 峰 舜 也	R7. 3. 31 退 職 R7. 3. 31 退 職
産 婦 人 科	部 長 部 長 医 長 医 長 医 長 医 長 副 医 長 会 計 年 度 任 用 職 員	山 田 嘉 彦 永 井 景 中 西 隆 司 佐 々 木 高 綱 重 光 愛 子 木 村 麻 衣 松 浦 美 幸 植 田 陽 子 藤 井 健 太	R6. 7. 1 採 用 R6. 6. 30 退 職 R6. 7. 31 退 職
小 児 科	部 長 部 長 医 長 副 医 長 副 医 長 副 医 長 副 医 長 会 計 年 度 任 用 職 員	井 崎 和 史 濱 田 匡 章 川 口 侑 加 山 口 侑 加 佐 々 木 彩 久 保 昂 司 杉 村 憲 市 平 尾 桜 子	R7. 3. 31 退 職 R6. 4. 1 採 用 R6. 10. 1 採 用 R6. 4. 1 採 用
耳 鼻 咽 喉 科	部 長 医 長 医 長 副 医 長 副 医 長 会 計 年 度 任 用 職 員	川 島 貴 之 金 井 悠 行 坂 田 正 謙 野 崎 謙 吾 松 川 奈 々 央 李 愚 姫	R7. 1. 31 退 職 R6. 4. 1 採 用
泌 尿 器 科	部 長 医 長 医 長 副 医 長 会 計 年 度 任 用 職 員	上 水 流 雅 人 山 本 与 毅 上 宮 健 太 郎 吉 内 皓 樹 宇 井 俊 貴	(兼 診 療 局 中 央 手 術 部 医 長) R7. 3. 31 退 職 R7. 3. 31 退 職
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	部 長 係 長	岡 本 道 雄 岩 崎 悟	(兼 診 療 局 整 形 外 科 医 長)
麻 酔 科	部 長 医 長 医 長 医 長 医 長	小 多 田 英 貴 乾 大 資 桐 山 圭 司 汲 田 衣 里 武 山 ま ゆ 子 畠 中 由 里 恵	R6. 4. 1 採 用 R6. 4. 1 採 用
放 射 線 科	部 長 診 療 科 特 任 部 長	吉 田 重 幸 荒 木 裕	R7. 3. 31 退 職
	技 師 長 係 長 係 長 係 長	西 川 一 期 河 野 和 男 松 村 圭 司 真 田 庸 市 難 波 昭 典	
放 射 線 診 断 科	会 計 年 度 任 用 職 員	金 澤 達	R6. 4. 1 採 用 R7. 3. 31 退 職
放 射 線 治 療 科	医 長	豊 福 隆 将	
歯 科 口 腔 外 科	部 長 副 医 長	濱 口 裕 弘 川 田 創	R6. 4. 1 採 用

所属名	補職	氏名	備考
病理診断科	医 長 係 長 係 長	佐藤 和明 政岡 佳久 福田 文美	R6. 4. 1採用
集中治療部	部 長	東 浩 司	(兼診療局麻酔科医長・兼高度治療部医長)
新生児集中治療部	部 長	道之前 八重	
中央手術部	部 長	黒木 慶和	(兼診療局泌尿器科医長)
内視鏡センター	セ ン タ ー 長	木津 崇	(兼診療局消化器内科医長)
糖尿病センター	部 長 医 長 副 医 長	木戸 里佳 徳田 如 高橋 隼也	(兼診療局内科医長) (兼診療局内科副医長) (兼診療局内科副医長)
健診センター	診療科特任部長	山本 俊明	
中央検査部	技 師 長 技 師 長 補 佐 係 長 係 長 係 長	浅岡 伸光 寺西 ふみ子 細井 亮二 駒 美佳子 西野 多江子	(兼診療局輸血部技師長) (兼診療局輸血部勤務) (兼診療局輸血部勤務) (兼診療局輸血部勤務) (兼感染対策管理室・診療局輸血部勤務)
MEセンター	セ ン タ ー 部 長 係 長	篠田 幸紀 長山 俊明	(兼診療局循環器内科医長)
栄養科	係 長	早川 裕起子	
薬剤部	部 長 薬 剤 部 長 補 佐 薬 剤 部 長 補 佐 係 長 係 長 係 長 係 長	西岡 達也 香川 雅一 中谷 成美 森本 千徳 藤本 史朗 佐藤 浩二 小川 充	(兼診療局臨床研究センター長補佐) (兼医療安全管理室勤務) (兼診療局臨床研究センター係長)
がん診療支援室・緩和ケアセンター	部 長 部 長 セ ン タ ー 長 補 佐	蔵 昌宏 井谷 嘉男 長谷 圭悟	(兼診療局麻酔科医長) (兼地域医療連携室係長) R6. 12. 31退職 (兼地域医療連携室係長)
卒後教育センター	会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員 会計年度任用職員	浅尾 江里奈 井村 優作 北 優斗 北 尾 文 田中 光一 古谷 昂平 青山 知暉 伊藤 優吾 勝井 菜々子 川上 大輝 田中 良樹 種村 侑紀 西垣 敦司 河原 大雅 辻井 順也	(臨床研修医) R7. 3. 31退職 (臨床研修医) R7. 3. 31退職 (臨床研修医) (臨床研修医) (臨床研修医) (臨床研修医) R7. 3. 31退職 (臨床研修医) R6. 4. 1採用 (臨床研修医) R6. 4. 1採用 R7. 3. 31退職 (臨床研修医) R6. 4. 1採用 R7. 3. 31退職
地域医療連携室	室 長 補 佐 係 長	北村 尚洋 大和 裕香	(兼がん診療支援室がん相談支援センター係長・兼がん診療支援室就労支援センター係長)
看護局	看 護 局 長 看 護 局 次 長 看 護 局 次 長 副 看 護 局 長 副 看 護 局 長 副 看 護 局 長 看 護 師 長 看 護 師 長 看 護 師 長	山田 智子 神田 ゆか 山下 春美 大石 馨 西村 勢津子 多田 由佳 横山 敬子 上岡 いづみ 甲斐 幸代	看護師長室 看護師長室 看護師長室 看護師長室 (兼看護局人材育成室看護師長) 看護師長室 (兼地域医療連携室室長補佐・兼看護局外来師長室看護師長・兼看護局がん診療支援室看護師長・兼看護局がん診療支援室緩和ケアセンター副看護師長) 看護師長室 (兼看護局7階西病棟看護師長) 看護師長室 (兼褥瘡管理専従看護師) 看護局医療安全管理室 (兼医療安全管理室室長補佐) 看護局感染対策管理室 (兼感染対策管理室室長補佐)

所 属 名	補 職	氏 名	備 考
	看 護 師 長	吉 野 知 子	看護局がん診療支援室（兼看護局がん診療支援室がん相談支援センター副看護師長・看護局人材育成室副看護師長）
	看 護 師 長	浅 井 真 由 美	看護局外来師長（兼看護局がん診療支援室緩和ケアセンター副看護師長・兼 地域医療連携室室長補佐）
	看 護 師 長	杉 村 美 貴 子	看護局外来師長室
	看 護 師 長	播 本 靖 子	看護局外来師長室
	看 護 師 長	冲 本 桂 子	看護局中央手術部
	看 護 師 長	吉 井 孝 子	看護局5階西病棟
	看 護 師 長	近 藤 純 代	看護局5階東病棟
	看 護 師 長	楠 本 恵 代	看護局6階西病棟
	看 護 師 長	西 原 君 代	看護局6階東病棟
	看 護 師 長	松 本 美 保	看護局7階東病棟
	看 護 師 長	比 嘉 和 歌 子	看護局8階西病棟
	看 護 師 長	城 内 陽 子	看護局8階東病棟
	看 護 師 長	中 西 千 賀 子	看護局集中治療部
	看 護 師 長	村 上 雅 美	看護局高度治療部
	看 護 師 長	村 上 味 穂	看護局新生児集中治療部
	副 看 護 師 長	下 田 美 鈴	看護局地域医療連携室入退院支援センター
	副 看 護 師 長	山 崎 香 名	看護局地域医療連携室入退院支援センター R7.3.31退職
	副 看 護 師 長	仲 村 繁 美	看護局地域医療連携室患者サポートセンター R7.3.31退職
	副 看 護 師 長	島 田 敏 江	看護局がん診療支援室通院治療センター（兼看護局がん診療支援室がん相談支援センター主任看護師）
	副 看 護 師 長	藤 原 美 智 代	看護局がん診療支援室がん相談支援センター（兼看護局がん診療支援室就労支援センター副看護師長） R7.3.31退職
	副 看 護 師 長	佐 藤 雅 子	看護局外来師長室外来10ブース
	副 看 護 師 長	北 村 亜 矢 子	看護局外来師長室外来11ブース
	副 看 護 師 長	奥 田 清 美	看護局外来師長室外来12・14ブース
	副 看 護 師 長	柴 田 美 宝	看護局外来師長室外来13ブース
	副 看 護 師 長	宮 本 久 美 子	看護局外来師長室内視鏡センター
	副 看 護 師 長	藤 島 陽 子	看護局外来師長室放射線・救急診療科
	副 看 護 師 長	青 木 ひ と み	看護局中央手術部
	副 看 護 師 長	門 埜 奈 津 代	看護局中央手術部
	副 看 護 師 長	西 脇 小 百 合	看護局中央手術部
	副 看 護 師 長	首 藤 妙 子	看護局5階西病棟
	副 看 護 師 長	西 条 洋 美	看護局5階西病棟
	副 看 護 師 長	蓬 郷 千 里	看護局5階東病棟
	副 看 護 師 長	黒 木 好 深 子	看護局5階東病棟
	副 看 護 師 長	藤 田 美 奈 子	看護局6階西病棟
	副 看 護 師 長	石 川 文 乃 子	看護局6階西病棟
	副 看 護 師 長	尾 野 優 子	看護局6階東病棟
	副 看 護 師 長	垣 内 千 恵 美	看護局6階東病棟
	副 看 護 師 長	角 友 紀 子	看護局7階西病棟
	副 看 護 師 長	城 つ づ み	看護局7階西病棟
	副 看 護 師 長	村 上 裕 美	看護局7階西病棟
	副 看 護 師 長	森 有 美 子	看護局7階東病棟
	副 看 護 師 長	岩 崎 綾 子	看護局7階東病棟
	副 看 護 師 長	袖 川 聖 子	看護局7階東病棟
	副 看 護 師 長	村 上 こ ず え	看護局8階西病棟
	副 看 護 師 長	片 山 愛	看護局8階西病棟
	副 看 護 師 長	堀 尾 明 香	看護局8階東病棟
	副 看 護 師 長	瀬 古 佳 奈	看護局8階東病棟
	副 看 護 師 長	上 河 内 美 紀	看護局集中治療部
	副 看 護 師 長	岩 崎 奈 美 紀	看護局集中治療部
	副 看 護 師 長	嶽 下 登 紀	看護局集中治療部
	副 看 護 師 長	林 正 美 子	看護局高度治療部
	副 看 護 師 長	植 木 豊 子	看護局高度治療部
	副 看 護 師 長	増 井 由 衣 子	看護局新生児集中治療部
	副 看 護 師 長	岡 崎 恵 子	看護局新生児集中治療部
事 務 局	事 務 局 長	小 枝 伸 行	(兼企画運営課長)
	次 長	丸 谷 泰 寛	

所 属 名	補 職	氏 名	備 考
企 画 運 営 課	課 長 補 佐	松 尾 努	(兼企業出納員) R7. 3. 31退職 (兼医療安全管理室勤務) (兼医療安全管理室勤務) R6. 9. 30退職
	課 長 補 佐	宮 田 辰 弥	
	課 長 補 佐	中 田 亮 太	
	課 長 補 佐	坂 手 重 衣 子	
	保 安 統 括	岸 本 智 満	
	保 安 副 統 括	西 口 修 弘	
	企 画 運 営 係 長	高 草 恒 平	
	企 画 運 営 係 長	大 谷 亮	
	経 理 係 長	藤 原 和 也	
	人 事 係 長	戸 井 田 明 良	

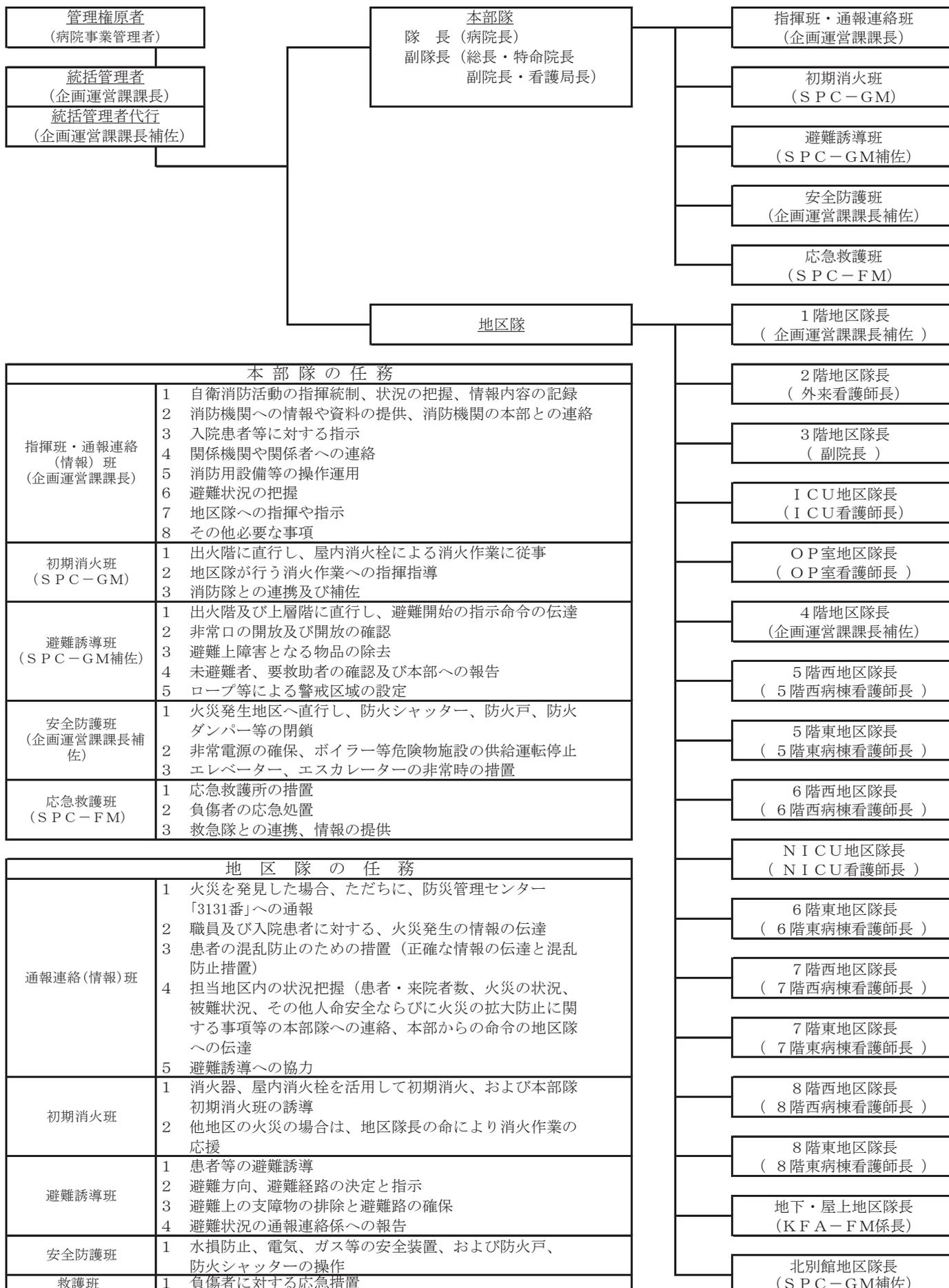
人員配置表（令和7年3月31日現在）

	医師	医療技術員	看護師	准看護師	事務職	技能労務職	合計	
総長 特命総長 病院長 特命院長 医療顧問 副院長	3 [6]						3 [6]	
診	内科	兼3 4					4	
	感染症内科	1					1	
	血液内科	2					2	
	消化器内科	兼1 7					7	
	循環器内科	兼2 4 [2]					4 [2]	
	腫瘍内科							
	緩和ケア内科							
	精神科	1					1	
	心療内科	兼1						
	外科	1 [3]					1 [3]	
	消化器外科	6					6	
	呼吸器外科	2				[1]	2 [1]	
	乳腺外科	1 [1]					1 [1]	
	脳神経外科	4					4	
	整形外科	兼1 2 [2]					2 [2]	
	スポーツ・関節外科	兼1						
	脊椎外科	1					1	
	形成外科	2 [1]					2 [1]	
	産婦人科	6 [1]					6 [1]	
	小児科	7 [1]					7 [1]	
	耳鼻咽喉科	4 [1]	[3]				4 [4]	
	泌尿器科	兼1 4 [1]					4 [1]	
	皮膚科							
	リハビリテーション科	兼1 1	5 [1]				6 [1]	
	麻酔科	兼2 6					6	
	療	放射線科	1 [1]	23 [2]				24 [3]
		放射線診断科	[1]					[1]
		放射線治療科	兼1 1					1
		歯科口腔外科	2	[2]				2 [2]
		病理診断科	兼1 1	4 [1]				5 [1]
		集中治療部	1					1
		高度治療部	兼1					
		新生児集中治療部	1					1
救急診療科								
中央手術部		兼1 1					1	
内視鏡センター		1					1	
糖尿病センター		3					3	
健診センター		[1]					[1]	
局		中央検査部	兼1	13 [3]				13 [3]
		輸血部	兼1	兼16				
		MEセンター	1	3 [1]				4 [1]
		栄養科		5 [2]				5 [2]
	薬剤部		23 [5]			[2]	23 [7]	
	臨床研究センター	兼1	兼2	[1]			[1]	
	卒後教育センター	兼1 [15]					[15]	
	がん診療支援室	兼1						
	がん診療支援室通院治療センター	兼1						
	がん診療支援室緩和ケアセンター	兼1 1	1				2	
	がん診療支援室がん相談支援センター	兼1	兼9					
	がん診療支援室就労支援センター	兼1	兼1					
	医師事務作業補助者					[4]	[4]	

	医師	医療技術員	看護師	准看護師	事務職	技能労務職	合計
地域医療連携室	兼3	兼1 5 [8]					5 [8]
診療情報管理室	兼1				兼1		
医療安全管理室	兼1	兼1			兼1		
感染対策管理室	兼1	兼2					
看護局	看護師長室		8			[51]	8 [51]
	地域医療連携室		兼1				
	地域医療連携室入退院支援センター		5 [4]				5 [4]
	地域医療連携室患者サポートセンター		1				1
	医療安全管理室		兼1 1				1
	感染対策管理室		兼1 1				1
	人材育成室		兼6				
	がん診療支援室		兼1 1				1
	がん診療支援室通院治療センター		3 [4]				3 [4]
	がん診療支援室緩和ケアセンター		兼1 2				2
	がん診療支援室がん相談支援センター		兼3 2				2
	がん診療支援室就労支援センター		兼1				
	外来師長室		1	兼1 8 [8]	1 [2]	[19]	10 [29]
	外来師長室外来10ブース			2 [2]			2 [2]
	外来師長室外来11ブース			1 [1]	[1]		1 [2]
	外来師長室外来12・14ブース			2 [5]	[1]		2 [6]
	外来師長室外来13ブース			2 [4]			2 [4]
	外来師長室内視鏡センター			3 [3]			3 [3]
	外来師長室放射線・救急診療科			8 [4]			8 [4]
	中央手術部			21 [5]			21 [5]
5階西病棟			28 [3]		[1]	28 [4]	
5階東病棟			31 [1]		[1]	31 [2]	
6階西病棟			22 [3]		[2]	22 [5]	
6階東病棟			23 [1]		[1]	23 [2]	
7階西病棟			兼1 26 [2]		[1]	26 [3]	
7階東病棟			30 [1]		[1]	30 [2]	
8階西病棟			26 [3]		[1]	26 [4]	
8階東病棟			27 [2]		[1]	27 [3]	
集中治療部			21			21	
高度治療部			16			16	
新生児集中治療部			19 [1]			19 [1]	
事務局	管理職	1			5 [1]		6 [1]
	企画運営課企画運営係				4 [1]		4 [1]
	企画運営課経理係				2 [1]		2 [1]
	企画運営課人事係				4 [3]		4 [3]
合計	83 [37]	84 [28]	340 [58]	1 [4]	15 [41]	[51]	523 [219]

[]…会計年度任用職員

八尾市立病院自衛消防組織編成表



診 療 局

診療局

令和 6 年 4 月に病院長と 2 名の副院長が交代し、新体制でのスタートとなった。藤田副院長が病院長に就任し、新たに渡部副院長と箕輪が副院長として着任した。箕輪は診療局長および医療安全管理室長を兼任した。令和 6 年度の病院の理念として、藤田病院長は「Be Reborn」を掲げ、コロナ以前の診療体制に戻すのではなく、地域医療を担う中核病院として新たに再出発することを目標とした。地域医療機関からの紹介率は 71.0%（前年度 68.9%）、逆紹介率は 106.4%（前年度 103.8%）と前年度を上回る結果となった。

令和 6 年 4 月からは医師の働き方改革が始まった。当院では、一部を除きほとんどの当直業務において労働基準監督署から宿日直許可を取得することができた。また、勤務医の業務負担を軽減するために医師事務作業補助者によるタスクシフトや、各委員会を就業時間内に終了することを徹底した。さらに、電子処方箋の運用や AI による問診、スマートフォンの導入により医師の職場環境の改善を推し進めた。その結果、患者へ提供する医療の質を低下させることなく、当院が取得している A 水準を医師全員が満たすことができた。

令和 7 年 2 月には日本医療機能評価機構による機能評価を受審し、「地域住民の健康を守るため、地域の中核病院として、高度で良質な医療を提供している」ことが認定された。

地域医療連携も積極的に推進し、医療機関への訪問活動は延べ 2,923 件に及び、このうち 242 件に医師が同行した。中河内医療安全対策連携協議会および中河内地域感染防止対策協議会に参加し、各病院との連携を強化した。公開講座は「循環器疾患の予防」、「前立腺がんロボット手術」、「糖尿病予防」、「耳鼻咽喉科のおはなし」、「肝・胆・膵の病気」、「フレイル予防」をテーマに計 6 回開催し、いずれも好評であった。

今年度の主な人事として、福井病院長が特命院長に就任、益永循環器内科医長が同部長に就任、仲野形成外科医長が同部長に就任した。また、福盛感染症内科医長が非常勤から常勤医となり、当院の感染症診療の充実がはかられた。新しく迎えた医師として、益澤消化器外科部長と佐藤病理診断科医長が着任した。臨床研修医は当院採用のマッチング枠 7 名に加え、大阪大学および奈良県立医科大学の襷がけのそれぞれ 1 名ずつを採用した。年度末には、長年に渡り当院に貢献された兒玉特命院長と星田医療顧問が退職された。

診療局長 箕輪 秀樹

内科

1. 診療内容

- 1) 感染制御内科
- 2) 腎臓内科
- 3) 脳循環内科

脳卒中循環器病対策基本法 2020 に基づく一次脳卒中センターの指定を受け、脳梗塞急性期の入院診療と脳梗塞ハイリスク患者の外来診療を行っている。また、脳神経外科と緊密な連携をとっており、合同カンファレンスを随時行っている。院内発症の脳梗塞のコンサルテーションも受けている。

- 4) 緩和ケア内科
- 5) 精神科

2. 診療実績

入院治療件数

(単位：件)

	疾患	症例数
呼吸器疾患	肺炎	137
	喘息	3
	間質性肺炎	3
	胸水貯留	1
	COVID-19	45
	その他	9
	腎尿路疾患	尿路感染症
	急性腎不全	4
神経疾患	脳梗塞	26
	その他	5
腫瘍	血液腫瘍	2
	肺がん	3
	食道がん	1
その他	敗血症	7
	蜂窩織炎	10
	脱水・電解質異常	13
	アレルギー蕁麻疹	10
	その他	45
合計		368

循環器内科・腫瘍内科・血液内科・糖尿病内科で担当した一般疾患は除く

血液内科

1. 診療内容

血液内科は白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫をはじめとする造血器腫瘍を中心に診療を行い、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血、免疫性血小板減少症などの特定難病疾患にも対応している。中でも造血器腫瘍においては、分子標的治療薬や、大量化学療法（必要時には自己末梢血幹細胞移植併用）などにて治癒・寛解をめざした治療を積極的に行っている。高齢者・合併症併発症例にはQOL療法を図るなど、個々の患者様の病態・年齢・背景に応じた治療を選択している。

2. 診療実績

令和6年度に血液内科で診療した血液疾患新規入院患者数は92人であった。内訳は悪性リンパ腫35人、急性白血病4人、多発性骨髄腫6人、骨髄異形成症候群15人、再生不良性貧血4人、免疫性血小板減少症8人、その他20人（成人T細胞性白血病/リンパ腫、自己免疫性溶血性貧血、骨髄増殖性腫瘍など）であった。

母集団の比較的多い悪性リンパ腫 非ホジキン型 びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の初発例での治療成績は完全寛解率 83.3%（10例/12例）であった（高齢・合併症などでQOL療法のみとなった症例などは省き、治療評価可能例に限る）。

また2例に自己末梢血幹細胞移植を施行した。

消化器内科

1. 診療内容

毎日、初診外来・専門外来業務を担当、内視鏡検査下・超音波検査下の検査処置を毎日担当、病棟では地域連携紹介あるいは救急からの入院を中心とした病棟業務を担当している。

専用透視室を備えた内視鏡センターを運営し、あらゆる内視鏡下治療手技（EST・ENBD・ステントなど）を施行している。地域連携経由の紹介や救急入院が多いこともあり EST などの治療内視鏡件数が増加している。超音波下治療手技である PTCD・ステントなども専用透視室で施行している。膵腫瘍や胃粘膜下腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺生検（EUS-FNA）も多数施行している。シングルバルーン小腸内視鏡装置にて小腸病変・挿入困難な大腸病変の診断に役立てている。また、術後再建などによる通常 ERCP 困難症例にも対応している。

早期胃がん・大腸がん・食道がんに対する内視鏡下治療の粘膜剥離術（ESD）は症例が増加中である。ESD は長時間の治療になりがちであるが低侵襲であり、技術の向上や治療開始時間の工夫により多くの症例に適用していきたい。

C 型肝炎に対する治療はインターフェロンフリーの内服薬（DAA）治療を行っており、非代償性肝硬変でも副作用なく完治できる時代になっている。中河内地区の全ての診療所・病院と連携して C 型肝炎撲滅を目標に診療を進めている。一方 B 型肝炎ウイルス感染は常に一定の割合で存在しており、特に他疾患で免疫抑制療法・化学療法を行う場合のウイルス再活性化予防について他科から相談を受ける機会が増えている。薬剤性肝障害や代謝機能障害関連脂肪性肝疾患（MASLD）についても他科や地域との連携を深化し、より積極的に対応していく。

肝がんに対する治療はラジオ波焼灼術（RFA）を平成 14 年から開始している。治療技術の向上や人工胸腹水などによる工夫により治療可能な病変が多くなっている。進行肝がんに対する分子標的薬・免疫チェックポイント阻害剤の選択肢が増えており、奏効率も高くなっている。従来では予後不良であった症例もその高い奏効率から根治性の高い局所治療にコンバージョンできるようになった。

2. 診療実績

令和 6 年度外来患者数	15,044 人
令和 6 年度初診外来患者数	1,533 人
令和 6 年度延入院患者数	13,642 人

令和 6 年度 代表的な入院消化器疾患件数（上位 10 疾患：大腸腺腫・検査入院をのぞく）（単位：件）

胆道結石	97	HCC	59	急性膵炎	32
早期胃がん	75	憩室炎	40	胃潰瘍	32
膵がん	64	憩室出血	33	進行大腸がん	30

循環器内科

1. 診療内容

診療内容としては、心筋梗塞・狭心症といった虚血性心疾患を中心に、心不全、末梢血管疾患、不整脈など、ほぼすべての循環器疾患を扱っている。

外来診療でも 3D 描出可能な心エコー図検査、冠動脈が描出可能な 320 列マルチスライス CT が可能である。特に CT 検査では、これまで描出困難であった心房細動症例においても鮮明な冠動脈描出が可能となり、冠動脈病変に対する診断精度の向上に繋がっている。心臓核医学検査は非侵襲的に心筋への集積を検査する。心筋虚血の有無を検出する運動負荷・薬物負荷心筋シンチ、心アミロイドーシス(ピロリン酸骨シンチ)の診断、心臓交感神経活性(MIBG)をみる RI 検査を行うことができる。3 テスラの MRI も導入されており心臓 MRI 検査も撮像可能である。各種心筋症に対する心筋性状分析も可能である。

外来の検査にて冠動脈疾患が疑われた場合、入院の上、カテーテル検査や治療を行う。急性冠症候群(急性心筋梗塞・不安定狭心症)に対するカテーテル治療は原則 24 時間対応を行っている。人口の高齢化の伴い冠動脈石灰化を呈する症例が多くみられる。そのような病変に対しても適応を見分け、ロータブレード、ダイヤモンドバック、血管内石灰化破砕術(IVL)などを用い病変に応じた治療が可能となっている。下肢閉塞性動脈硬化症に対する末梢血管、下肢静脈、透析シャントに対するインターベンション治療にも力を入れている。2つの血管造影撮影室があり、臨機応変により迅速な対応が可能である。不整脈疾患では、心房細動や上室性頻拍などの頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療や、徐脈性不整脈に対するリードレスペースメーカーも植込み可能となった。

心不全パネミックと言われて久しいが、高齢心不全患者数も増加している。至適薬物治療だけでなく、多職種連携での包括的心臓リハビリテーションの提供も行っている。

当科では日本内科学会認定医 6 名/総合内科専門医 7 名、日本循環器学会専門医 7 名、日本不整脈心電学会不整脈専門医 6 名、日本心血管インターベンション学会認定医 2 名/専門医 2 名、日本超音波医学会指導医 1 名、日本心臓リハビリテーション学会指導士 1 名が常勤で勤務しており、様々な循環器疾患に対応可能である。また、日本循環器学会認定施設、日本不整脈心電学会認定施設、日本心血管インターベンション学会研修施設群連携施設にもなっており、循環器領域だけでなくオールラウンドな内科医としての臨床能力向上に日々努力している。

2. 診療実績

代表的な手術・検査件数

(単位: 件)

心臓カテーテル検査	397	下大静脈フィルター	11
経皮的冠動脈形成術 (PCI)	220	心エコー図	6, 155
ペースメーカー植え込み術	66	(経食道エコー含む)	
アブレーション	213	ホルター心電図	658
末梢血管形成術 (EVT)	129	心筋シンチ	401

病診連携を広めつつ、病院全体としての救急充実を図り、もっと幅広く循環器診療を提供することで地域の医療、福祉に貢献していきたい。

精神科（心療内科）

1. 診療内容

当科は令和2年1月に開設された。精神科としての入院病床はないため、主な業務は 1) 外来診察、および 2) 当院内科・外科における入院患者の精神科的諸問題への対応（院内リエゾン診療）、具体的には、せん妄、うつ状態、不眠、不安、認知症周辺症状、幻覚妄想状態、などへの対応であった。外来では、当院の内科・外科の外来通院患者に対し、同様の問題についても必要に応じてサポートを行っている。令和3年度からは八尾市内および近隣地域の診療所からの紹介に基づく精神科・心療内科外来診療を開始し、外来のみで対応できる事例の診断と治療を行っている。

2. 診療実績

外来については初診31件。院内リエゾン診療74人（それぞれ実数）。外来日は月、水、金曜の午後であるが、他科の外来受診がある場合は同日に受診できるように柔軟に対応している。

消化器外科

1. 診療内容

当科では、上部消化管（食道・胃）、下部消化管（大腸・肛門）、肝胆膵領域といった疾患別に担当医を明確に分け、各領域で専門性の高い診療を行っている。悪性疾患に対しては、手術療法のみならず化学療法や緩和医療も含めた包括的な治療を提供している。急性腹症をはじめとする救急疾患にも24時間オンコール体制で対応し、地域における外科診療の中核を担っている。

本年度は、ロボット支援手術の対象を拡大し、より低侵襲かつ高精度な手術を推進している。また、悪性疾患に加え、胆石症や鼠径ヘルニアといった良性疾患においても質の高い手術を提供することに注力している。

2. 診療実績

代表的疾患の手術件数

(単位：件)

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
総数	826	809	911
食道がん	2	6	12
胃がん	53	48	75
腹腔鏡	16	10	28
ロボット支援	29	15	5
大腸がん	153	184	199
結腸がん	95	100	108
直腸がん	58	84	91
腹腔鏡	29	29	69
ロボット支援	89	107	54
胆石症・胆嚢炎	135	134	171
腹腔鏡	135	133	169
肝がん	21	31	27
肝切除	20	33	27
胆・膵がん	17	27	27
鼠径ヘルニア	169	174	192
腹腔鏡	146	154	173
虫垂炎	79	68	70
腹腔鏡	79	67	70

呼吸器外科

1. 診療内容

呼吸器外科では、移植と先天性疾患を除くほぼすべての呼吸器外科疾患（縦隔、胸壁・胸膜の腫瘍性病変（がん、肉腫、良性腫瘍）、炎症（非結核性）、気胸、嚢胞性疾患、外傷など）の診断と治療を行っています。肺がんは病期を問わず、診断と治療を一貫して行っています。

肺がんの手術に関しては、アプローチ法については標準開胸手術からロボット支援下手術まで対応しています。肺切除量については縮小手術の際の肺切除断端（マージン）の再発予防のため、マージン洗浄細胞診を定型化しています。

手術不能の進行肺がんに関しては、化学療法（細胞障害性抗癌剤、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤）、放射線療法で、さらに一定の条件下では手術（肺切除）も追加、いわゆる集学的治療を行い、治療成績の向上に努めています。

2. 診療実績

手術件数 (全身麻酔症例のみ)	疾 患	術 式	(単位：件)		
			症例数	在院死	
手術件数 (全身麻酔症例のみ)	原発性肺がん	肺部分切除	19	0	
	<術式（切除範囲）>	肺区域切除	3	0	
		肺葉切除	43	0	
		肺全摘	0	0	
		その他	0	0	
		開胸	17	0	
	原発性肺がん <アプローチ法>	胸腔鏡下	27	0	
		ロボット支援下	21	0	
		転移性肺腫瘍	9	0	
	肺良性腫瘍	0	0		
	縦隔腫瘍	4	0		
	胸壁・胸膜腫瘍	0	0		
	気胸	12	0		
	膿胸	3	0		
	炎症性肺疾患	6	0		
	その他	0	0		
	治療手術 合計			99	0
	生検手術（胸膜・肺・リンパ節）			12	0
	治療手術・生検手術 合計			111	0

新規化学療法件数 (術前・術後補助化学療法を除く)	治療法	症例数
新規化学療法件数 (術前・術後補助化学療法を除く)	細胞障害性抗がん剤のみ	10
	分子標的治療	4
	免疫チェックポイント阻害剤	13
	合 計	27

乳腺外科

1. 診療内容

乳がんの診断、治療全般を関連診療科と連携して行っている。乳がん検診で要精査となった方の2次検診（精密検査）や初期乳がんの治療、進行再発乳がんの治療及び遺伝性乳がんのカウンセリング及び検査を行っている。ガイドラインに基づいた標準治療を行いつつ、臨床試験・先進医療・治験に参加し、よりよい診療・新しい治療の提供を目指している。金曜日の午後、土曜日は、八尾市乳がん検診を行っている。

2名の乳がん認定看護師が診断から手術・薬物療法までシームレスに関与し、また再発症例には心理面も含め支援した。多職種での患者サポートを行っている。

2. 診療実績

代表的な手術件数及び検査件数

原発乳がん初回手術	256 件（乳房温存 88 件 乳房切除 149 件 同時再建 19 件）
乳腺良性腫瘍手術	24 件 ステレオガイド下マンモトーム生検 67 件

原発乳がんの手術数は近畿地区でも有数である。

臨床試験では、全国規模の JCOG（乳がんでは全国のがんセンター・大学など 51 施設、近畿で 5 施設） JBCRG CSPOR-BC 近畿地区では KBCSG-TR に参加している。多くの臨床試験に参加することにより、先進的な治療の機会を提供している。また医師主導治験にも参加している。

脳神経外科

1. 診療内容

脳神経外科が対象としている疾患は幅広く、脳血管疾患、脳腫瘍、頭部外傷、神経機能的疾患、小児脳神経外科、脊椎・脊髄の6領域に分類されることが一般的である。当科では主に小児脳神経外科と脊椎・脊髄外科を除く4領域を担当している。

- 1) 脳血管疾患：開頭による直達手術、血管内治療ともに対応している従来の脳血管造影検査に加え、MD-CTによる高解像度の画像データやMRIデータを3D画像ワークステーションで処理することにより、低侵襲で精緻な解剖学的情報を利用することが可能になっている。また、脳血流SPECTによる血流動態評価を加えて、より適切な手術適応の決定や安全な治療に役立てている。
- 2) 脳腫瘍：神経内視鏡(Endo Arm)、手術用ナビゲーションシステム、専門性や難易度の高い部位の手術にも対応している。原発性脳腫瘍の診断に関しては多施設との共同研究により遺伝子解析を行うなど、最先端の情報やエビデンスを積極的に取り入れている。転移性脳腫瘍に対しては大きさ、局在、病巣数により摘出術、当院での放射線治療、他院での定位的放射線治療を選択し、実施している。
- 3) 頭部外傷：軽症から中等症の頭部外傷に対する外科的・内科的治療を行っている。
- 4) 神経機能的疾患：大阪大学脳神経外科と連携し、不随意運動の診断、治療に取り組んでいる。

2. 診療実績

外来延患者数 3,353 人、初診患者数 307 人、入院延患者数 3,065 人、新入院患者数 198 人であった。手術件数は 75 件(脳血管障害 31 件、脳腫瘍 12 件、頭部外傷 23 件など)。脳血管内治療専門医が着任し、脳卒中の救急診療、脳血管内手術件数が増加している。

整形外科

1. 診療内容

スポーツ外傷（靭帯・半月板・軟骨損傷・アキレス腱断裂）、変形性膝関節症、脊椎（頸椎・胸椎・腰椎）疾患、手外科の専門的な治療を行っている。また、一般外傷（大腿骨頸部骨折や肘関節や手関節、足関節の骨折）の治療も行っている。

スポーツ外傷および膝関節疾患は、山田裕三が担当し、関節鏡を使用した靭帯再建手術、半月板縫合術・切除術、軟骨修復術、人工膝関節全置換術、膝周囲骨切り術を専門とする。患者のニーズに合わせた治療選択が当院の膝関節疾患治療の特徴である。アキレス腱断裂に対しては超音波検査を駆使してスポーツ復帰までの治療経過を詳細に評価している。

脊椎外科領域は、本田博嗣、平井宏昌が担当し、頸椎疾患から腰椎疾患にいたるまで幅広く対応している。腰椎に対してはヘルニア摘出術・部分椎弓切除術・後方進入椎体間固術を、頸椎に対しては頸椎椎弓形成術を行っている。また、脊椎圧迫骨折に対しては早期離床を目指して椎体形成術（BKP）を行っている。

手外科領域は、岡本道雄が腱損傷、神経損傷、手指関節・手関節・肘関節の靭帯損傷や骨折、絞扼性末梢神経障害（手根管症候群、肘部管症候群）、変形性関節症（母指CM関節症）、腫瘍（ガングリオン、その他の良性腫瘍）、関節拘縮などに対する治療を専門とする。また、一般外傷は、岡本道雄が中心となり観血的整復固定術や経皮的ピンニングを行なっている。

2. 診療実績

（単位：件）

変形性膝関節症	人工膝関節全置換術	60
	膝周囲骨切り術	17
膝関節鏡手術	靭帯再建術	21
	半月手術	21
アキレス腱断裂	アキレス腱縫合術	7
脊椎疾患	頸椎手術	33
	胸椎手術	11
	腰椎手術	108
手外科・骨折、外傷	上肢外傷（成人）	206
	上肢外傷（小児）	29
	下肢外傷	46
	神経手術	34
	炎症性疾患に対する手術	54
	腫瘍摘出	11
	関節症に対する手術	7
	その他（腱移行、デュピュイトラン拘縮、矯正骨切り、偽関節）	7
大腿骨近位部骨折	人工骨頭置換術	16
	髄内釘（γネイル）	19
	C-CHS（compression hip screw）	18

形成外科

1. 診療内容

当科は、平成20年7月1日に開設し、切断指救急を積極的に受け入れるとともに形成外科一般の診療にあたっている。切断指など手指外傷の救急診療には24時間オンコール体制をとっている。緊急手術に対応しながら、市立病院として表皮嚢腫、母斑、脂漏性角化症、脂肪腫などの良性腫瘍や基底細胞がん、有棘細胞がんなどの悪性腫瘍、瘢痕、眼瞼下垂、多合指症、耳介変形、顔面外傷など幅広い疾患の診療を行っている。また、他科と連携した再建や血行再建後の難治性創傷の治療にもあたっている。近年は下肢静脈瘤の低侵襲治療（血管内グルー治療やラジオ波治療）やマイクロサージャリー技術を生かしたリンパ管手術なども行っており良好な成果をあげている。

2. 診療実績

(単位：件)

	外傷	先天異常	腫瘍	瘢痕ケロイド	難治性潰瘍	炎症変性疾患	その他	合計
入院手術	167	23	104	15	54	33	48	444
外来手術	106	2	515	20	9	56	13	721

産婦人科

1. 診療内容

- 1) 産科：当院は NICU6 床を有し、産婦人科治療相互援助システム（OGCS）の参加病院として、地域の先生方からの母体搬送を受け入れている。産婦人科周産期専門医と産婦人科超音波専門医の資格を持った医師が 1 名在籍している。
- 2) 婦人科：産婦人科内視鏡学会技術認定医 3 名が在籍し、日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設であり、低侵襲な手術に積極的に取り組んでいる。日本女性医学会専門医制度認定研修施設であり、月経困難症、子宮内膜症及び更年期障害に対するホルモン療法を行っている。婦人科悪性腫瘍手術の腹腔鏡下手術を、積極的に導入している。遺伝子検査を用いた抗がん剤の選択を積極的に行っている。

2. 診療実績

令和 6 年度の分娩数は 552 件で、帝王切開術は 187 件であった。腹腔鏡下悪性腫瘍手術は 19 件であった。

主な婦人科疾患に対する手術実績 （重複あり 単位：件）

子宮頸部上皮内病変	31	円錐切除術	30	腹腔鏡下異所性妊娠手術	6
浸潤子宮頸がん	9	腹式単純子宮全摘術	51	ロボット支援下手術	0
子宮内膜増殖症	7	腹式子宮筋腫核出術	8	子宮鏡手術	14
子宮体がん	25	腹式付属器腫瘍手術	17	拡大子宮全摘術 (準広汎含む)	6
卵巣がん (境界悪性含む)	11	腹式異所性妊娠手術	0	広汎子宮全摘術	1
外陰がん	0	腹腔鏡下子宮全摘術	70	悪性腫瘍手術 (大網切除術まで)	30
卵巣腫瘍	85	腹腔鏡下子宮筋腫核出術	6	悪性腫瘍手術 (骨盤リンパ節郭清まで)	8
骨盤臓器脱	18	腹腔鏡下付属器手術	69	悪性腫瘍手術 (傍大動脈リンパ節郭清まで)	5

小児科

1. 診療内容

小児科医 10 名が小児科と新生児集中治療部 (NICU) の診療に携わっており、新生児から中学生までの診療を行っている。外来では発熱や感染症に関連した急性疾患の診療が中心だが、専門外来では呼吸器・アレルギー疾患 (食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息など)、腎疾患 (ネフローゼ症候群・慢性腎炎・尿路感染症・夜尿症など)、神経疾患 (てんかん・発達障害など)、内分泌疾患 (成長ホルモン分泌不全性低身長症・思春期早発症・甲状腺機能異常など) などに対する診療を行っている。また、中河内地区の小児科輪番制度の担当病院として、土曜日と火曜日の夜間は救急外来で小児救急患者の診療を行っている。病棟では入院が必要な患児の入院治療ほか、食物アレルギー児の食物経口負荷試験や成長ホルモン分泌刺激試験などの検査入院を多く行っている。

2. 診療実績

外来患者数

() は前年度の実績 単位: 件

外来患者 (総数)	12,727 (12,531)	救急外来患者 (総数)	5,286 (6,315)
紹介患者	1,932 (1,612)	救急搬送患者 (総数)	765 (856)
逆紹介患者	1,608 (1,354)	八尾救急	322 (415)
		東大阪救急	137 (246)
		大阪市救急	211 (124)
		柏羽藤救急	91 (69)
		その他の地域の救急	4 (2)

疾患別入院患者数

() は前年度の実績 単位: 件

肺炎・気管支炎	254 (244)	消化器疾患 (胃腸炎・腸重積症を除く)	14 (12)
上気道炎・インフルエンザ・扁桃腺炎	90 (131)	新生児・未熟児疾患	147 (135)
胃腸炎	51 (42)	川崎病	46 (40)
クループ・喘息性気管支炎・気管支喘息	68 (64)	リウマチ性疾患とその周辺疾患	6 (9)
その他の感染症	132 (138)	アレルギー疾患	31 (24)
髄膜炎・脳炎・脳症	20 (23)	食物アレルギー	377 (352)
熱性痙攣・てんかん・神経疾患	70 (90)	血液・凝固異常	13 (14)
腎炎・ネフローゼ・尿路感染症	59 (51)	新型コロナウイルス感染症	18 (29)
内分泌・代謝疾患	128 (128)	その他	51 (45)
腸重積症	3 (7)	総計	1,578 (1,578)

新生児集中治療部

1. 診療内容

当院は地域周産期母子医療センターの認定を受けており、産婦人科は基礎疾患や産科的合併症のある母体の分娩と緊急母体搬送を積極的に受け入れており、当科はハイリスク妊婦から出生した早産児や多胎を含む病的新生児、地域の開業産婦人科病院または大阪新生児相互援助システム（NMCS）から紹介となった病的新生児を診療している。

- 1) 主な対象疾患：新生児呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、胎便吸引症候群、空気漏出症候群、児無呼吸発作、軽症の先天性心疾患、黄疸、ビタミン K 欠乏症、低血糖、新生児乳児消化管アレルギー、新生児痙攣、先天性肺炎、敗血症、染色体疾患など。外科的治療が必要な場合は NMCS を介して高次の NICU に紹介している。
- 2) 診療の内容：新生児特定集中治療室管理料の加算対象は 6 床、緊急時は 8 床まで対応（24 時間以内）。産婦人科と母体と胎児、新生児の情報交換を行い、ハイリスク分娩と緊急入院に 24 時間対応している。急性期の治療に加え、将来の健常な発育と発達につながる栄養管理と developmental care を大切にし、育児支援につなげている。
- 3) 外来診療：当院 NICU を退院または他院の NICU から紹介された早産児、SGA (small for date) 児の患者様の発育と発達をフォローし、低身長と診断した場合は、成長ホルモン治療の適応があるかを早期に診断している。脳室周囲白質軟化症などによる脳性麻痺の早期発見に努め、八尾市立医療型児童発達支援センターなど、小児のリハビリテーションが可能な施設に紹介している。在宅人工呼吸管理、在宅酸素、気管切開、胃瘻などの医療的ケアが必要な患者様の診療を行っている。RS ウイルス（RSV）の流行時期は、早産児、先天性心疾患他の患者様を対象に、RSV を予防する注射薬の投与を行っている。

2. 診療実績

NICU 入院総数は 106 人。大阪府新生児相互援助システム（NMCS）から新生児搬送が 1 人。OGCS と八尾市内の開業産婦人科からの緊急母体搬送後に分娩、NICU 入院となった新生児は 17 人。極低出生体重児（出生体重<1500g）は 14 人。気管内挿管・人工呼吸管理を施行したのは 9 人。

在胎週数別入院数	(単位：人)	出生体重別入院数	(単位：人)
在胎 28～32 週	11	出生体重 < 1,500 g	14
在胎 33～34 週	21	緊急母体搬送後直ぐに出生	17
在胎 35 週以上	74	新生児搬送（NMCS）の受け入れ	1

眼科

1. 診療内容

当科では白内障、緑内障、糖尿病網膜症及び入院中の未熟児網膜症診察を主に行っている。
現在は外来診療を中心とした診療体制になっており、外来診療を超え蛍光眼底造影検査、入院、手術が必要になった場合はしかるべき施設へと紹介している。

2. 診療実績

眼科検査では裸眼視力、矯正視力、光干渉断層計による黄斑部及び視神経の撮影を施行している。また網膜光凝固術、後発白内障に対する YAG レーザー切開術の外来処置を行っている。

耳鼻咽喉科

1. 診療内容

例年通り、耳鼻咽喉科領域における急性疾患、手術・入院を要する疾患などを中心に診療を行っている。近隣にはこのような耳鼻咽喉科疾患に対応できる施設が少ないこともあり、八尾市内外からの当科への期待は大きい。その役割を果たすため、当科では初診外来を紹介患者のみに限り、地域の病院や診療所からのニーズに可能な限り対応するようにしている。また病状の安定した患者を積極的に近隣耳鼻咽喉科診療所へ逆紹介することで、病院と診療所での役割分担を行っている。

手術治療では、顕微鏡や内視鏡を用いた耳科手術を積極的に行っている。また内視鏡による鼻・副鼻腔手術ではナビゲーションを使用し、安全に手術を行っている。その他、扁桃やアデノイドに対する手術や声帯ポリープ・喉頭腫瘍に対して行う喉頭微細手術も積極的に行っている。ここ数年、耳下腺・顎下腺・甲状腺などの良性腫瘍に対する手術が増加しているが、神経モニタリングを行い、低侵襲な手術を心がけている。なお、現時点では頭頸部悪性腫瘍に対しては診断のみを行い、治療については他院関連病院への紹介にて対応している。

2. 診療実績

- 1) 外来診療：令和6年度の外来延患者数は11,821人で、対前年度比は110%であった。紹介件数も1,716件と増加傾向である。
- 2) 入院診療：入院延患者数は4,160人であり、令和5年度と比較すると増加した。また、手術室で行った手術の主な内訳を以下に示す。

令和6年の主な手術件数（一側を一件として計算）

(単位：件)

鼓室形成術	57	口蓋扁桃摘出術	283
鼓膜形成術	2	アデノイド切除術	86
アブミ骨手術	3	舌・口腔・咽頭腫瘍摘出術	13
顔面神経減荷術	1	喉頭微細手術	13
外耳道腫瘍摘出術（悪性含む）	4	気管切開術	2
内視鏡下鼻副鼻腔手術	120	甲状腺腫瘍手術	24
鼻中隔矯正術	74	耳下腺手術	10
下鼻甲介手術	93	顎下腺手術	7
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	2	頸嚢胞・頸部膿瘍手術	3
涙嚢鼻腔吻合術	0	リンパ節生検	16

泌尿器科

1. 診療内容

当科では腎・膀胱・前立腺・精巣などの泌尿生殖器がん、副腎腫瘍や前立腺肥大症などの良性腫瘍、尿路結石症、尿路感染症、停留精巣などの小児泌尿器科、尿失禁や膀胱脱などの婦人科との関連疾患を含め、ほぼすべての泌尿器科疾患を治療している。特に泌尿器がんの治療に重点を置き、手術療法、化学療法、放射線療法やこれらを組み合わせた集学的治療を行っている。

前立腺がんは病期・年齢・全身状態に応じて手術・放射線治療（IMRT）・内分泌療法などの可能な治療選択を患者に提示し、患者の意思を尊重して治療を行っている。また令和3年10月より da Vinci X を導入し、ロボット補助前立腺全摘術を行っている。

膀胱がんは可能な限り膀胱を温存できる治療をめざし、手術の場合もより侵襲の少ない腹腔鏡手術を積極的に取り入れている。

腎がん・腎盂尿管がんは腹腔鏡にて手術を施行し、進行がんに対しては化学療法や免疫療法を行っている。また da Vinci X を導入後はロボット補助腎部分切除手術も行っている。

尿路結石に対しては経尿道的尿管碎石術、経皮的腎碎石術を行っている。平成26年度より軟性尿管鏡下レーザー碎石術を行っている。

慢性腎不全患者の血液透析導入を循環器内科と協力し行っている。また外科手術が必要になった維持透析患者の周術期維持透析も適宜施行している。

2. 診療実績

外来延患者数は12,904人であった。入院延患者数は5,407人で、新入院患者数は795人であった。手術室を利用した総手術件数は761件（前立腺生検158件を含む）であった。慢性腎不全患者の透析導入は18人であった。

代表的な手術件数

(単位：件)

◆悪性疾患に対する手術		◆良性疾患に対する手術	
経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR - Bt)	117	経尿道的尿管碎石術(TUL)	107
鏡視下膀胱全摘除術 + 尿路変更術	6	経皮的腎・尿管碎石術(PNL)	7
鏡視下根治的腎摘除術(腎がん)	7	経尿道的前立腺切除術(TUR - P)	29
鏡視下腎尿管全摘除術(腎盂・尿管がん)	14	ロボット補助腎盂形成術	2
ロボット補助腎部分切除術	13	ブラッドアクセス造設術	20
ロボット補助前立腺切除術	20		

皮膚科

1. 診療内容

皮膚科全般の疾患について診療を行っている。また、皮膚生検、慢性疾患診療も行っている。疾患の検査や治療内容について患者に対して最良の医療を提供している。皮膚生検は皮膚疾患を解明するためには非常に重要で、当科では積極的にこれを行い治療に役立てている。また、脂漏性角化症、色素性母斑などの良性腫瘍や、日光角化症などの悪性腫瘍の治療も症例により形成外科への紹介も含め積極的に行っている。また、掌蹠膿疱症や尋常性乾癬といった難治性皮膚疾患に対してはUVBを正確なジュール数で照射可能な光線療法機器を用いて治療を行っている。

2. 診療実績

外来延患者数は990人である。一人ひとりきめ細かい診療を心がけている。

代表的処置・治療及び手術件数

(単位：件)

いぼ焼灼	1
いぼ冷凍凝固	26
ガングリオン穿刺術	1
ストーマー処置 1 個	2
鶏眼・胼胝処置	12
細菌顕微鏡検査	56
生検術	23
創傷処置	8
爪甲除去術	1
皮膚科軟膏処置	7
皮膚光線療法	17
総計	154

リハビリテーション科

1. 診療内容

リハビリテーション科では当院入院中の患者を中心に、運動器、がん、心臓、呼吸器、脳血管の領域における急性期のリハビリテーションを行っている。全身状態に応じて早期離床、筋力訓練を開始することにより早期退院、転院をめざしている。

- 運動器リハビリテーション : 整形外科手術後（骨折に対する観血的整復固定術、変形性関節症に対する人工関節置換術・膝周囲骨切り術、スポーツ関連手術、脊椎手術、手の外科）のリハビリテーションを実施している。
- がんのリハビリテーション : がんの周術期、放射線治療・化学療法中の患者に対してリハビリテーションを実施している。
- 脳血管リハビリテーション : 脳血管疾患、脳神経外科手術後患者に対してリハビリテーションを実施している。
- 呼吸器リハビリテーション : 呼吸器疾患を持つ患者に対してリハビリテーションを実施している。
- 廃用症候群リハビリテーション : 入院治療前後より下肢筋力、日常生活動作が低下した患者に対してリハビリテーションを実施している。
- 心大血管リハビリテーション : 心不全、心筋梗塞、狭心症、心臓手術後患者に対して、安全面の管理（血圧、脈拍、酸素飽和度、心電図）をしながらリハビリテーションを実施している。

2. 診療実績

令和6年度のリハビリテーション取得単位（全体と各領域別）

全体	22,134
運動器	12,931
がん	2,490
心血管	3,676
脳血管	1,363
呼吸器	536
廃用	1,138

麻酔科

1. 診療内容

手術麻酔に対応（365日、24時間）。予定6列、緊急1列。

ペインクリニック外来診療（火、木、金曜日）

緩和診療（水、金曜日）

2. 診療実績

麻酔科管理全症例数	3,548 件
脊椎麻酔	440 件
ペインクリニック外来延患者数	1,725 人

放射線科・放射線診断科

1. 診療内容

一般撮影、X線CT検査、磁気共鳴断層(MRI)検査、消化管造影検査、血管造影検査、核医学(RI)検査など、画像検査全般およびその診断を行っている。また、画像を治療に応用する以下のような手技(IVR: interventional radiology)を行っている。

- ・肝腫瘍に対する抗がん剤動注・塞栓術
- ・動脈性出血に対する緊急塞栓術
- ・バルン閉塞下逆行性胃静脈瘤塞栓術(B-RT0)
- ・画像(超音波、X線透視、CT)ガイド下のドレナージ・生検など

他院からの依頼については原則的にCD-Rへの出力を行い、依頼元の医療機関に提供している。

また、他院から当院に紹介された症例の検査画像について、フィルム、デジタル・データともに当科の画像データ・サーバーに取り込みを行っている(画像ファイリング)。

2. 診療実績

- 1) X線CT検査は2台体制(320列、80列)で行っており、320列(2階)は通常予約検査や病棟の緊急用、80列(1階救急外来)は、救急や外来緊急用として運用している。検査の予約待ちは現在ほとんどない状態となっている。
- 2) 胸部CTの読影については、AIを利用した肺結節検出ソフトを導入し、肺結節性病変の見落としがないうように努めている。
今後は、胸部X線写真の読影についてもAIを導入し、(依頼医師による)読影に対して補助を行うことが望まれる。
- 3) MRIについても2台体制(3.0T、1.5T)で行っており、対象部位や検査目的によって機器の振り分けを行っている。検査の予約待ちはほとんどない状況であり、緊急検査にもできる限り対応している、
- 4) 夜間・休日の検査については、応援医師および常勤医師の遠隔読影によりできる限り迅速に読影を行っているが、各医師の個人的な対応となっており、システム化がなされていないのが現状である。

検査種類	件数	検査種類	件数
一般撮影検査	46,383	骨密度	991
透視造影検査	1,588	画像ファイリング	10,797
血管造影検査	1,288	(出力)	6,721
核医学検査	929	(取込)	4,076
X線CT検査	18,368		
MRI検査	8,541		

放射線科・放射線治療科

1. 診療内容

当科ではがんの放射線治療を担当している。

治療対象は脳腫瘍、頭頸部がん、肺がん、乳がん、食道がん、直腸がんなどの消化管がん、肝がん、膵臓がんなどの消化器がん、前立腺がん、膀胱がんなどの泌尿器がん、子宮頸がんなどの婦人科がん、悪性リンパ腫などの造血器腫瘍などほとんどすべてのがんにわたっている。

また、骨転移の疼痛緩和などの緩和照射、良性疾患であるケロイドの発生予防の照射も行っている。

平成 28 年 3 月からは照射装置（リニアック）が更新され、強度変調放射線治療（IMRT：対象疾患は前立腺がん、頭頸部がん、肺がん、脳腫瘍など）、体幹部定位照射（SBRT：対象疾患は早期肺がん、転移性肺がん、肝がん、転移性肝がんなど）なども可能となっている。

2. 診療実績

代表的な新患症例数

(単位：件)

乳がん	156	消化管がん（食道がん・直腸がんなど）	34
肺がん	72	頭頸部がん	16
前立腺がん	42	肝・胆・膵がん	13

令和 6 年度の新規患者数は 361 人であり、主な疾患は上記のとおりである。この中で近隣の主要病院から放射線治療科に直接紹介された患者は 97 人（26%）あった。

高精度照射の強度変調放射線治療（IMRT）は肺がん 32 例、前立腺がん 26 例など総数 111 例（111 部位）に、体幹部定位照射（SBRT）は肺がん（転移性肺がんを含む）25 症例（28 部位）、肝がん 4 症例の 29 症例に行った。

歯科口腔外科

1. 診療内容

歯科口腔外科では外来ならびに入院診療を行っている。診療は、歯肉の切開や骨の削除を必要とする埋伏歯の抜歯はもとより腫瘍や嚢胞・外傷・感染症をはじめとする顎口腔疾患の治療を行っている。また、心臓疾患などの基礎疾患を有する患者様の抜歯や歯科処置は院内各科との連携をとりながら行い、病院歯科として地域医療に貢献できるよう取り組んでいる。なお、当科での診療は、基本的には一般のかかりつけ歯科医院からの紹介により口腔外科を主体とした臨床を行っており、う蝕や歯周病・歯牙欠損による補綴などの一般歯科治療は入院患者のみを対象としている。平成 25 年度から外科系の手術前後の口腔ケア（周術期口腔ケア）を行っている

2. 診療実績

外来初診患者数	2,853 人
新入院患者数	192 人
紹介率	52.3%
外来手術件数	1,434 件
入院手術件数	206 件
全身麻酔症例	152 件

初診患者数は 2,800 人以上あり、前年度に比較して外来手術件数・入院患者数・入院手術・全身麻酔症例が共に増加している。コロナ禍の影響はなくなったと考えられる。患者紹介率は常にほぼ 50%以上あり例年どおりである。外来では埋伏歯抜歯が 1,000 件を突破した。入院ではベッド稼働率は 4.0、平均在院日数約 6.6 日で稼働していた。入院手術は例年の如く抜歯術とのおろし摘出術が多数を占めていた。悪性腫瘍手術では腫瘍の切除は 13 例と減少した。今年度は遊離皮弁再建を 1 例行った。

代表的な入院手術件数

(単位：件)

抜歯術	108
消炎術（含：腐骨除去）	10
のう胞摘出術+抜歯術	22
骨折手術	2
顎下腺摘出術（含む唾石）	3
顎変形症手術	1
悪性腫瘍手術	13

代表的な外来手術件数

(単位：件)

埋伏歯抜歯術	1134
難抜歯術	91
口唇粘液のう胞摘出術	11
口腔内消炎術	13
嚢胞摘出・歯根端切除	3

病理診断科

1. 診療内容

病理診断科では、技師5名と共に医師・技師の枠を越え、全員が一致協力して病理診断業務を行っている。病理専門医は1名のみであるが、生検標本は一部外部委託も併用しながら、手術・生検標本の病理組織診と細胞診を行っている。さらに、若草第一病院、大阪医療センター、大阪大学、鹿児島大学、大手前病院より病理専門医の応援を得て、迅速・正確な病理診断・細胞診断ができる体制を構築している。

当院は国指定の地域がん診療連携拠点病院でもあり、各臓器のがんが増加していることから、腫瘍の診断・治療が診療の大きな柱で、良性・悪性に関する診断が非常に大きなウエイトを占めている。さらに近年では、有効ながん治療を行うために、良悪判定のみならず、悪性度や治療に対するコンパニオン診断など、必要に応じて院内での免疫組織化学染色や外注検査による遺伝子学的検索も必要となっており、最終診断とともに臨床に対して付加的な情報提供も行っている。

また、がん手術の現場においては、術中迅速組織診・細胞診を行う体制をとっているが、病理専門医の対応ができない時間帯については、八尾徳洲会総合病院の病理診断科のご協力により対応している。令和6年度は組織診件数は約6,800件、細胞診件数は約4,800件で、また術中迅速組織診は約390件である。少ない病理医・病理技師、限られた検査機器・業務スペースの中での対応は厳しい状況ではあるが、全員の協力、臨床各科の協力と他施設の病理診断科や応援医師の協力により対応している。技師とともに診断の質を保ち、がん治療に有益な病理診断報告を常に心がけ業務にあたっている。

免疫染色の質や、遺伝子検索検体の質については外部精度管理に参加し、質の維持・向上に努めている。

診断困難症例については他院病理医への積極的なコンサルテーションも行っている。細胞診についても、液状細胞診を導入し細胞検査士と細胞診専門医の両者の協力、および随時臨床医との検討も行い、できるだけ正確な情報を臨床に伝えることができるように心がけている。

2. 診療実績

	件数	標本枚数
病理組織診	6,777	22,446
術中迅速組織診(内数)	391	1,273
免疫組織染色	1,240	-
細胞診	4,799	7,304
病理解剖	0	-

病理診断業務は昨年度と比較して、組織診は約500件の増加、術中迅速組織診は昨年より約50件の増加となった。免疫組織染色の実施件数はほぼ変化がなかった。外注用の遺伝子検索他の検体準備も多く、技師の業務量の増加があるが、適切に対応し、がん治療に役立っていると思われる。全体として、昨年より件数が増加しており、スタッフの努力と検査の外注や応援医師の協力などにより、病理診断の質の維持に尽力した。

集中治療部

1. 診療内容

当院 ICU は外科系患者、循環器をはじめとした内科系患者、救急患者、小児患者の重症例の受け入れを行っている General ICU の特徴がある。

【主要疾患】

胸部外科術後患者、腹部外科術後患者、脳神経外科術後患者、重篤な合併症を有する外科系術後患者の集中治療を行っている。また敗血症患者、心筋梗塞患者、心不全、重症肺炎などの内科系疾患の集中治療、小児重症患者にも対応可能である。

【主要検査】

血液ガス分析、電解質乳酸分析、循環動態モニター、各種エコー（経食道エコーはなし）、IABP、PCPS、HD、CHDF などにも対応している。

2. 診療実績

令和 6 年度 ICU 延患者数は 1,336 人であった。7 日以内の入床が 70%以上におよぶ 949 人で、8-14 日の入床は 134 人、14 日超入床患者は 253 人であった。人工呼吸施行患者は 378 人、IABP 施行患者は 12 人、PCPS 施行患者は 2 人、血液浄化（HD、CHDF、PE、PMX）施行患者は 66 人であった。

救急診療科

1. 診療内容

当院は救急告示指定病院として二次救急診療を行っている。救急車により搬送された患者、他の医療機関から紹介された患者、当院かかりつけで急変された患者を主な対象としている。

平日日勤帯、夜勤帯および休日いずれも院内の各科の当番医師が専任で救急診療に携わっている。入院・専門的治療・手術が必要な場合は各診療科と連携して診療を行っている。各診療科および地域連携室と綿密な連携のもと、可能な限り 24 時間 365 日、断らない救急をめざしている。

2. 診療実績

令和 6 年度の救急取扱い患者数 16,668 人(令和 5 年度 16,643 人)、うち搬送患者数 3,937 人(令和 5 年度 3,771 人)、うち入院患者数 2,764 人(令和 5 年度 2,892 人)であった。

中央手術部

1. 活動状況

令和6年度は、外科・整形外科・産婦人科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・歯科口腔外科・形成外科・乳腺外科・呼吸器外科・脳神経外科・消化器内科などの手術が行われ、総手術件数は4,531件で、全身麻酔手術は3,160件施行した。令和3年10月より消化器外科・呼吸器外科・婦人科・泌尿器科でロボット補助手術を開始し、令和6年度は202件施行した。全身麻酔患者に対する術前後の病棟訪問も従来通り継続しており、術中のみならず、周術期の身体的及び精神的ケアに寄与している。また、令和5年8月より術後疼痛管理を開始し、質の高い医療の提供を目指している。手術部看護師はこれまで同様、患者・部位・術式を術前に担当医及び麻酔科医と厳重に確認し、ミス予防を図っている。手術看護認定看護師の認定資格を取得した看護師もおり、技術の向上に努めている。

以上、患者が安心して快適に手術治療を受けられるようにスタッフ一同努力している。

2. 診療実績

手術件数の推移

	(単位：件)
令和4年度	4,366
令和5年度	4,277
令和6年度	4,531

令和6年度手術件数及び麻酔項目

	(単位：件)
手術件数	4,531
全身麻酔	3,160
脊椎麻酔	440

内視鏡センター

1. 診療内容

- 1) 上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査、小腸シングルバルーン内視鏡検査
⇒うち NBI 拡大内視鏡検査、経鼻内視鏡検査（上部消化管）も適宜施行。
- 2) 食道、胃、大腸腫瘍などに対する、内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)、内視鏡的粘膜切除術 (EMR)、ポリープ切除術 (polypectomy)
- 3) 内視鏡的逆行性胆道膵管造影 (ERCP)、超音波内視鏡検査 (EUS・IDUS)
- 4) 総胆管結石に対する、内視鏡的乳頭切開術 (EST)、内視鏡的乳頭拡張術 (EPBD)
- 5) 胆、膵など悪性腫瘍による閉塞性黄疸に対する、内視鏡的胆道ドレナージ (EBD)
- 6) 粘膜下腫瘍、膵腫瘍に対する超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診検査 (EUS-FNA)
- 7) 吐血時などの緊急内視鏡検査、引き続きに行う内視鏡的止血術
⇒EVL、高周波凝固止血など
- 8) 静脈瘤に対する、内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL)、内視鏡的硬化療法 (EIS)
- 9) 誤嚥、胃内圧改善のための、胃瘻造設術 (PEG)
- 10) 異物誤飲に対する、内視鏡的異物除去術 (PTP 包装、義歯など)
- 11) 経鼻内視鏡を使用したイレウス管挿入、大腸内視鏡を使用した経肛門的イレウス管挿入
- 12) 食道アカラシアや術後狭窄に対する、内視鏡的消化管拡張術
- 13) 気管支鏡検査 など主に内視鏡を使用し行う検査、治療全般。
また他に以下のような透視装置・超音波を使用した処置も行っている。
 - ・PTCD（経皮的胆道ドレナージ）
 - ・PTAD（経皮的肝膿瘍ドレナージ）
 - ・肝嚢胞穿刺

2. 診療実績

検査・治療件数

(単位：件)

上部消化管内視鏡	3,220	EUS-FNA	54
食道 ESD	11	PTCD/PTAD/PTGBD	18
胃 ESD	61	EIS/EVL	13
下部消化管内視鏡	2,167	消化管ステント	28
大腸 ESD	26	イレウス管	32
ERCP	243	気管支鏡	25
EUS	82		

内分泌代謝・糖尿病センター

1. 診療内容

令和6年4月より糖尿病センターから内分泌代謝・糖尿病センターに、名称を改めた。以前より内分泌疾患の診療も行っていたが、ご紹介元の医療機関を含めて皆様により利用していただきやすいように、名称変更を行った。糖尿病のほかに、下垂体、甲状腺/副甲状腺、副腎等の内分泌疾患の診療を行っている。おもな疾患としては、バセドウ病、橋本病、原発性アルドステロン症（二次性高血圧）、副腎不全等で、必要に応じて入院での内分泌機能検査（負荷試験）を行っている。

糖尿病については、引き続き専門外来を行っている。糖尿病専門医と、糖尿病療養指導士の資格を有する看護師、管理栄養士、薬剤師、医師事務作業補助者などの多職種から成る『糖尿病診療チーム』を構成して、糖尿病診療を行っている。とくに、教育入院を含め糖尿病教育に重点を置いたチーム医療の実践に取り組んでいる。早期腎症以上に進行した腎臓合併症を有する患者を対象に、透析予防を目的として、毎回受診時に、看護師による問診・療養指導、管理栄養士による個別の食事指導を行っている（糖尿病透析予防指導）。透析予防指導対象外の患者についても、療養指導、栄養指導など個別の指導を随時行っている。糖尿病患者に多くみられる大血管障害や悪性疾患の早期診断に心掛け、必要に応じて循環器内科、腎臓内科、形成外科など他科と積極的に連携し、集学的治療を目指している。合併症の進行した患者の足切断につながる糖尿病性足病変の予防・早期発見を目的に、常駐するフットケア指導士の資格を有する看護師によるフットチェックおよびフットケア指導も積極的に実施している。

そのほか、インスリンポンプ療法および持続血糖モニターなどの専門性の高い機器も積極的に導入、活用している。インスリンポンプ療法は1型糖尿病患者をおもな対象としており、カーボカウント法を用いた食事指導も行っている。これらの機器を導入した症例は、チームでの管理・指導を継続して行っている。

2. 診療実績

外来延患者数は5,119人であり、そのうち糖尿病透析予防指導管理料を算定した延患者は845人、糖尿病合併症管理料を算定した延患者は312人、在宅療養指導料を算定した延患者は838人であった。糖尿病教育入院患者数は126人であった。8月を除く毎月第3木曜日（13時から）に、医師・薬剤師・管理栄養士など糖尿病診療チームスタッフによる糖尿病教室を開催しており、当院糖尿病患者会（いちょう会）会員をはじめ一般市民に参加いただいている。新型コロナウイルス感染症の影響でしばらく中止していたが、令和4年度から通常の形態で再開している。参加者はコロナ禍前に比べるとまだ少ない状況ではあるが、令和6年度の延参加者数は145名まで回復し、活気を取り戻しつつある。当院糖尿病教室はどなたでも気軽に参加いただける、地域住民への啓発活動の一環として実施している。令和5年度に引き続き11月は、世界糖尿病デー関連のイベントとして、八尾市の糖尿病予防集中キャンペーンと合同で市民公開講座を開催した。

健診センター

1. 診療内容

- 1) がん検診
大腸がん、乳がん、子宮がん検診
令和5年9月から胃がん検診（胃内視鏡検査）を開始する。
- 2) 公害検診、被爆者検診
- 3) 就職・受験時健診、海外渡航前健診など
- 4) 2次健康診断（労災保険）
- 5) 特殊検診（有機溶媒、金属アーク溶接など）
- 6) 各種予防接種（インフルエンザ、破傷風、B型肝炎ワクチンなど）

2. 診療実績

一般検診（47件）
企業健診（21件）
公害検診（232件）
がん検診（1,531件）
（乳がん、子宮がん、大腸がん、胃がん）
被爆者検診（119件）
各種予防接種（943件）
職員健診（176件）

中央検査部

1. 診療内容

◆検体検査

検体検査室では、生化学検査、血液・凝固学検査、一部の免疫学検査、尿一般検査、輸血検査の5分野について院内検査項目として365日24時間の緊急検査体制を実現し、常に迅速かつ正確な検査結果の報告を心掛けている。また、染色体検査や遺伝子検査などの高精度な特殊検査についても臨床医のニーズに合わせ、外注検査項目として幅広い検査分野の委託を可能にしている。

◆細菌検査

細菌検査室では、一般細菌の塗抹検査、培養・同定検査、薬剤感受性検査、抗酸菌の塗抹検査を実施している。また、検査業務に加え、院内感染情報を集計・解析し情報提供することで院内感染の防止に貢献している。

◆生理検査

生理検査室では、心電図検査、脳波検査、呼吸機能検査、血圧脈波検査、自律神経検査、超音波検査を行っている。超音波検査の項目は心臓、血管（頸動脈、腎腹部血管、末梢動脈、末梢静脈、シャント）、腹部、甲状腺、乳腺、表在・整形外科領域と多岐にわたる。基本予約制であるが、緊急の依頼にも柔軟に対応している。また、病診連携では地域医療連携室を通した院外の超音波検査を随時受け入れている。

2. 診療実績

◆検体検査

(単位: 件)

検査項目	入院	外来	計
血液ガス	2,479	1,587	4,066
尿検査	5,488	26,088	31,576
糞便等検査	393	507	900
血液学検査	29,415	58,365	87,780
凝固検査	6,320	15,196	21,516
生化学検査	30,004	59,520	89,524
内分泌検査	2,416	12,527	14,943
甲状腺検査	603	6,966	7,569
腫瘍関連検査	1,720	22,673	24,393
免疫学検査	639	3,389	4,028
感染症検査	1,261	8,512	9,773
肝炎検査	1,352	10,307	11,659
自己抗体	370	3,196	3,566
アレルギー	324	570	894
微生物検査	504	1,687	2,191
病理検査	45	214	259
負荷検査	32	140	172
薬物検査	385	441	826
輸血検査	1,285	5,289	6,574
細胞機能	452	777	1,229
その他	118	2,611	2,729
合計	85,605	240,562	326,167

◆生理検査

(単位: 件)

検査項目	入院	外来	計
心電図	1,431	9,707	11,138
負荷心電図	0	18	18
トレッドミル	0	43	43
CPX (心肺運動負荷試験)	50	41	91
ホルター心電図	6	651	657
自律神経機能検査(CVRR)	2	344	346
血圧脈波検査	183	1,211	1,394
携帯型心電図	0	7	7
24時間血圧測定	0	7	7
皮膚灌流圧(SPP)	22	31	53
簡易PSG検査	12	9	21
肺機能	50	1,228	1,278
脳波	19	291	310
心臓エコー	1,175	5,098	6,273
経食道エコー	47	7	54
腹部エコー	519	4,048	4,567
頸部血管エコー	204	496	700
末梢静脈エコー	186	481	667
末梢動脈エコー	66	289	355
腎・腹部血管エコー	10	72	82
甲状腺エコー/体表エコー	71	1,696	1,767
乳腺エコー	19	725	744
整形エコー	5	77	82
合計	4,077	26,577	30,654

◆細菌検査

(単位: 件)

検査項目	入院	外来	計
一般細菌塗抹	2,466	1,917	4,383
培養検査 総件数	6,918	6,143	13,061
呼吸器系培養	733	484	1,217
消化器系培養	396	152	548
泌尿・生殖器系培養	510	1,339	1,849
血液・穿刺液系培養	1,902	1,562	3,464
※ 上記内血液培養件数	1,673	1,498	3,171
その他の材料の培養	394	229	623
一般細菌嫌気培養	2,983	2,377	5,360
一般細菌感受性検査	1,683	1,234	2,917
感受性 1菌種	783	759	1,542
感受性 2菌種	228	125	353
感受性 3菌種以上	129	65	194
抗酸菌塗抹	247	162	409
TB-PCR	182	67	249
MAC-PCR	145	49	194
抗酸菌液体培養	172	87	259
抗酸菌固体培養	47	53	100
抗酸菌同定培養	0	22	22
抗酸菌感受性培養	0	15	15
新型コロナPCR検査			1,835
新型コロナ抗原定量			1,792

輸血部

1. 診療内容

輸血部の役割は、輸血前検査を行い、血液製剤を安全に供給することである。検査体制を整え、血液製剤・自己血貯血の管理、輸血後副作用の監視や輸血製剤の使用記録の保管管理を行っている。定期的に輸血療法委員会を開催し、輸血療法が安全に行われるシステムの構築や改善について病院全体で取り組んでいる。

◆血液製剤の管理

成分別に調整された血液製剤「赤血球製剤」、「新鮮凍結血漿」、「血小板製剤」は、製剤の種類別に適した条件下で保管管理している。貴重な血液を無駄にしないよう有効期限に注意を払いつつ、緊急輸血が必要な症例に迅速に対応できるよう、常に在庫調整を行っている。

血液製剤ならびにアルブミン製剤の使用記録は、厳格に保管管理している。

◆自己血貯血

手術中に予想される出血に備え、必要に応じて手術前に患者自身の血液を採取し、輸血部で保管管理している。

2. 診療実績

製剤名称	年間	
	R6年度	R5年度
血小板製剤（PC）の使用量（袋数）		
照射濃厚血小板－LR「日赤」 10単位約200・	267	294
照射濃厚血小板－LR「日赤」 15単位約250・	7	10
照射濃厚血小板－LR「日赤」 20単位約250・	8	25
廃棄率%（購入費用）	0.3	0.3
赤血球製剤（RBC）の使用量（袋数）		
照射赤血球液－LR「日赤」 血液200・に由来する赤血球（1単位）	1	4
照射赤血球液－LR「日赤」 血液400・に由来する赤血球（2単位）	1379	1361
廃棄率%（購入費用）	0.9	1.2
新鮮凍結血漿製剤（FFP）の使用量（袋数）		
新鮮凍結血漿－LR日赤240 血液400・相当に由来する血漿（2単位）	120	92
廃棄率%（購入費用）	8.1	14.4
アルブミン製剤（ALB）の使用量（瓶数）		
献血アルブミン5%静注12.5g/250・「タケダ」	589	405
献血アルブミン2.5%静注12.5g/50・「タケダ」	699	635
輸血管理料Ⅰ 輸血適正使用加算指数		
FFP/RBC 基準：0.54未満	0.09	0.07
ALB/RBC 基準：2未満	1.91	1.55

ME センター

1. 役割・展望

*臨床部門（臨床工学技士）

- ・ 高度な医療技術の進歩に伴い、ME 機器の複雑多様化が進む中、それらの操作を行う。
- ・ 臨床での医師をはじめとした、スタッフと医療機器を、円滑に結びつける医療工学の境界面を、簡便でより安全性の高いものにする。
- ・ 中核病院としての機能を維持し、安全で良質な医療を提供する
- ・ 多様性と専門性を両立し、患者さん、医療者にとって不可欠な存在となる
- ・ 激変する医療に対応できる柔軟な思考の醸成

*機器管理部門（SPC 協力企業）

- ・ 医療機器の中央管理体制をとり、機器の効率的利用と同時に、保守点検・整備・管理業務を担う事で、必要な時に・必要な機器を・必要な部門に、高い安全性をもって供給し、医療機器のライフサイクルコスト・デッドタイムの短縮を図っている。

2. 業務体制

*臨床部門

臨床工学技士 3 名にて、心臓カテーテル検査、集中治療室、透析室、手術室、etc で業務を行っている。

夜間・休日・緊急時にはオンコール体制をとっている。

*機器管理部門

SPC 協力企業職員（臨床工学技士 3 名+ α 、業務スタッフ 1 名+ α ）にて機器管理、運営を行っている。

夜間・休日・緊急時にはオンコール体制をとっている。

3. 業務実績

◆令和6年度 臨床業務集計

カテーテル検査 (件)

総件数	955
CAG	397
待期的PCI	171
緊急PCI	49
ABL	213
Af	175
Balloon	58/Af
PSVT	57
VT/PVC	2
心筋生検	21
右心カテーテル検査	38
上肢PTA	5
下肢PTA	80
腹部PTA	0
VAIVT	44
IVC フィルタ	11

ペースメーカー (件)

新規埋め込み 件数	55
電池交換 件数	11
ILR 植え込み 件数	4

補助循環

	患者数	件数
IABP	11	33
PCPS	2	4

人工呼吸器

	患者数	件数
一般病棟	4	54
NICU	10	25
ICU	82	378
HCU	32	158
救急外来	9	9

血液浄化

	患者数	件数
HD (7 東)	66	273
HD (ICU)	5	14
CHDF	1	2
PMX	1	2
DHP	0	0
GCAP	0	0
PE	0	0
DFPP	0	0
PA	0	0

その他件数

da Vinci	204
PBSCT	2
CART	24

◆令和6年度 機器貸出件数集計

(単位:件)

	輸液ポンプ	シリンジポンプ	小型シリンジ	ベッドサイドモニター	人工呼吸器	低圧持続吸引器	その他	合計		輸液ポンプ	シリンジポンプ	小型シリンジ	ベッドサイドモニター	人工呼吸器	低圧持続吸引器	その他	合計
5 階 西	747	31	5	0	0	0	3	786	ICU	997	567	3	1	105	3	20	1696
5 階 東	310	74	22	23	0	2	0	431	NICU	1	207	0	9	18	0	5	240
6 階 西	1098	105	0	3	0	0	1	1207	中央手術部	1	12	0	0	0	1	0	14
6 階 東	275	15	1	3	0	0	0	294	外来	0	0	0	0	0	0	5	5
7 階 西	859	202	4	0	0	0	5	1070	救急外来	1	0	0	0	8	0	0	9
7 階 東	270	61	19	0	0	1	2	353	通院治療センター	946	0	0	0	0	0	0	946
8 階 西	268	41	17	0	0	11	2	339	内視鏡センター	0	6	0	1	0	0	1	8
8 階 東	412	58	11	0	1	8	1	491	放射線科	2	12	0	1	35	0	1	51
HCU	576	341	7	0	25	3	2	954	合計	6763	1732	89	41	192	29	48	8894

◆令和6年度 機器修理件数集計

(単位:件)

部 署	外注修理	ME修理	合計	部 署	外注修理	ME修理	合計
5 階 西	82	29	111	外 来	137	56	193
5 階 東	50	75	125	救急外来	38	20	58
6 階 西	36	26	62	中央検査部	31	7	38
6 階 東	58	32	90	通院治療センター	10	2	12
7 階 西	65	49	114	内視鏡センター	41	12	53
7 階 東	70	31	101	放射線科	162	16	178
8 階 西	78	38	116	薬 剤 科	52	3	55
8 階 東	45	33	78	病理診断科	46	5	51
H C U	17	14	31	リハビリテーション科	14	2	16
I C U	25	13	38	医 事 課	10	6	16
N I C U	32	20	52	まちなかステーション	0	4	4
中央手術部	287	50	337	そ の 他	28	26	54
MEセンター	65	0	65	合 計	1479	569	2048

◆令和6年度 機器定期点検件数集計（日常点検は除く）

（単位：件）

機 種 名	部 署	点検件数	点 検 者	機 種 名	部 署	点検件数	点 検 者
麻 酔 器	手 術 室	8	メーカー	CT (320列マルチスライス)	放 射 線 科	4	メーカー
人 工 呼 吸 器	ICU、NICU、BCU、ICU、ICU	42	ME/メーカー	CT(80列マルチスライス)	放 射 線 科	1	メーカー
搬 送 用 呼 吸 器	ICU、救急外来	4	ME/メーカー	S P E C T - C T	放射線科(RI室)	2	メーカー
体外式ペースメーカー	ア ンギオ室	6	ME	MRI (1.5T アーチバ)	放 射 線 科	1	メーカー
P C P S	ア ンギオ室	1	メーカー	MRI (3.0T エリシオン)	放 射 線 科	2	メーカー
I A B P	ア ンギオ室	1	メーカー	造影剤注入装置	放 射 線 科	8	メーカー
保 育 器	5西、6西、NICU	12	ME	マンモグラフィ装置	放 射 線 科	2	メーカー
新生児テーブル	5 西	1	ME	ア ンギオ撮影装置	放 射 線 科	5	メーカー
搬 送 用 保 育 器	5西、NICU	2	ME	X線テレビ装置(放射線・内視鏡)	放 射 線 科	4	メーカー
除 細 動 器	各 部 署	22	ME	一 般 撮 影 装 置	放 射 線 科	6	メーカー
心 電 計	各 部 署	11	ME	移動型X線撮影装置	放 射 線 科	5	メーカー
セントラルモニタ	各 部 署	29	メーカー	DR システム一式	放 射 線 科	1	メーカー
ベッドサイドモニタ	各 部 署	99	ME/メーカー	全身骨密度測定装置	放 射 線 科	1	メーカー
電 気 メ ス	ICU、NICU、NICU、NICU	18	ME/メーカー	外科用X線透視装置	放射線科(手術室)	2	メーカー
マルチカラーレーザー	眼 科 外 来	1	メーカー	ミニCアームX線診断装置	放射線科(手術室)	1	メーカー
Y A G レーザー	眼 科 外 来	1	メーカー	基 準 線 量 計	放射線科、放射線治療科	2	メーカー
C O 2 レーザー	耳鼻咽喉科外来	1	メーカー	サーバイメーター	放射線科(RI室)	3	メーカー
新生児聴覚スクリーニング装置	耳鼻咽喉科外来	1	メーカー	ポケット線量計	放射線科(RI室)	3	メーカー
輸 液 ポ ン プ	各 部 署	143	ME/メーカー	歯科用デンタル撮影装置	歯科口腔外科外来	1	メーカー
シ リ ン ジ ポ ン プ	各 部 署	131	ME/メーカー	歯科用断層パノラマ撮影装置	放 射 線 科	1	メーカー
小型シリンジポンプ	MEセンター	5	ME/メーカー	P A C S	放 射 線 科	2	メーカー
P C A ポ ン プ	MEセンター	6	ME/メーカー	薬剤支援システム	薬 剤 部	2	メーカー
無菌操作用装置	7 西	4	ME/メーカー	全自動錠剤分包機	薬 剤 部	2	メーカー
低圧持続吸引器	ICU、8東、MEセンター	7	ME	全自動散薬分包機	薬 剤 部	1	メーカー
人工透析装置	7東、ICU	7	メーカー	全自動散薬分包ロボット	薬 剤 部	1	メーカー
RO水製造装置(透析・薬剤)	7東、ICU、薬剤部	3	メーカー	注射薬自動払出装置	薬 剤 部	1	メーカー
血液成分分離装置	7 西	1	メーカー	薬液滅菌装置	薬 剤 部	1	メーカー
血液浄化装置	7 東	1	メーカー	卓上型滅菌装置	手 術 室	1	メーカー
心臓カテーテル用検査装置	ア ンギオ室	1	メーカー	製 剤 機 器 一 式	薬 剤 部	1	メーカー
手術ロボット	手 術 室	2	メーカー	安全キャビネット	薬 剤 部、細菌検査室、PCR検査室	4	メーカー
ナビゲーションシステム	手 術 室	1	メーカー	自動遺伝子解析装置	PCR 検査室	3	メーカー
Navigator 2.0システム	手 術 室	1	メーカー	細菌検査システム一式	細菌検査室	1	メーカー
メイフィールド頭部固定器具一式	手 術 室	2	メーカー	全自動採血管準備システム	採 血 室	1	メーカー
神経機能検査装置	手 術 室	1	メーカー	眼科診療支援システム	C P U 室	1	メーカー
血液ガス分析装置	N I C U	1	メーカー	生体情報管理システム	C P U 室	1	メーカー
経皮血中ガスモニタ	N I C U	1	メーカー	生理機能検査システム	C P U 室	1	メーカー
心肺運動負荷装置一式(CPX)	心 電 図 室	1	メーカー	製 氷 機	各病棟、ICU	9	メーカー
リニアック関連	放射線治療科	4	メーカー	自動精算機システム	医事課、救急外来	10	メーカー
放射線治療計画システム	放射線治療科	1	メーカー	窓口支払システム	医 事 課	1	メーカー
放射線治療計画支援システム	放射線治療科	1	メーカー	再来受付システム	医 事 課	3	メーカー
治療情報システム(治療RIS)	放射線治療科	1	メーカー	診 察 券 発 行 機	ICU、救急外来、救急外来	3	メーカー
位 置 決 め C T	放射線治療科	2	メーカー	合 計		693	

栄養科

1. 業務内容

- 1) 病院給食業務：治療の一環として食事をとらえ、食事を通して疾病の改善に寄与することを目標にSPCと協働で病院給食を提供している。
- 2) 栄養指導業務：医師の指示に基づき個々の疾病と生活習慣に合わせた個人栄養指導と、糖尿病教育入院中に、糖尿病食事療法について理解していただくことを目的とした集団栄養指導を実施している。内分泌代謝・糖尿病センターでは、管理栄養士が1名常駐し、糖尿病透析予防指導管理の食事療養や糖尿病患者の個人栄養指導を実施している。
- 3) 栄養管理業務：入院患者に対して栄養管理計画書の作成及び実施、NST（栄養管理チーム）や褥瘡対策チームなどの各医療チームへの参画により、入院中の栄養管理を行っている。周術期患者には、手術前から栄養評価、栄養スクリーニングを実施し、手術後は医師と連携して栄養状態の維持・改善に努めている。

2. 業務実績

給食業務実施状況については、特別食（加算食）の比率は36.4%であった。

栄養指導実施状況については、昨年度実績数より292件の増加であった。消化管術後の指導が昨年度より大幅に増加した。栄養指導の内外の内訳は、入院は1,473件、外来が701件、入院栄養指導件数は昨年1,296件に比べ177件、外来栄養指導件数は昨年586件に比べ115件の増加となっている。糖尿病透析予防指導管理料の算定件数は、昨年と大きく変化はないが、内分泌代謝・糖尿病センターでの1型糖尿病患者への継続指導や教育入院退院後の初回外来栄養指導などを積極的に医師に提案し、個人栄養指導件数は増加している。

令和5年11月から周術期栄養管理実施加算の算定を開始し、今年度は749件算定している。手術患者への栄養サポートに努めると同時に増収に貢献している。来年度は、周術期栄養管理実施加算の対象科の増加、新たに早期栄養介入管理加算の算定を開始することを目標に取り組んでいく。

◆給食業務状況

区分	食数(食)	比率(%)
食 種	常食	85,722 37.6
	軟食	34,546 15.2
	流動食	4,219 1.85
	特別食(加算食)	82,950 36.4
	特別食(非加算食)	20,274 8.9
	合計	227,711 100.0
1日平均	588	-

◆特別食(加算)実施状況

区分	食数(食)	比率(%)
食 種	糖尿病食	25014 30.2
	腎臓病食	5707 6.9
	肝臓病食	4349 5.2
	心臓病食	19694 23.7
	膵臓病食	4685 5.6
	潰瘍食	5041 6.1
	術後食	4397 5.3
	その他	14063 17.0
	合計	82950 100.0

◆栄養指導実施状況

区分	単位:件
糖尿病	1177
腎臓病	45
消化管術後	332
心臓病	467
その他	153
合計	2,174

◆その他加算件数

糖尿病透析予防指導管理料	842
--------------	-----

周術期栄養管理実施加算	749
-------------	-----

薬剤部

1. 業務内容

例年通り、薬剤部では調剤業務をはじめ、注射薬の混合・調製業務（中心静脈栄養・抗悪性腫瘍剤）、医薬品の情報管理業務や抗菌薬の薬物血中濃度解析業務などを行った。病棟部門では病棟薬剤業務を全病棟で実施するとともに、手術室に薬剤師を配置して、周術期における薬剤管理業務を行った。外来部門では通院治療センターと入退院支援センターで服薬指導や術前中止薬の確認などの業務を行った。また、これらの業務を行いながら院内のチーム活動（がん薬物療法、緩和ケア、周術期血栓防止対策、糖尿病、感染制御、栄養サポート、褥瘡、認知症など）にも積極的に参加した。

そのほか、八尾市医師会・八尾市歯科医師会・八尾市薬剤師会と連携して運用している「病診薬連携システム」に関わり、処方薬の重複投与防止など八尾市全体において医療の安全性が高まる取り組みを支援した。薬剤師の後進育成の一環として6年制薬学教育制度下の薬学部学生に対して、臨床現場における実践的能力を培うための実務実習を受け入れ、チーム医療や地域医療に参画できる臨床薬剤師の育成にも積極的に取り組んだ。

2. 業務実績

(ア) 処方箋関連

項目	総計
(院外) 処方箋枚数	62,012
(院外) 処方箋発行率 (%)	(平均)87.1
(院外) 処方疑義照会件数	1,716
(院内) 外来処方箋枚数	9,366
(院内) 処方箋枚数	58,846

(イ) 注射薬の混合・調製

項目	総計 (件数)
(外来) 抗悪性腫瘍剤混合調製	12,748
(入院) 抗悪性腫瘍剤混合調製	3,409
(入院) 中心静脈栄養混合調製	1,145

(ウ) 薬物血中濃度解析 (抗菌薬)

項目	総計 (件数)
初期投与量設計	102
投与量設計	190

(エ) 院内製剤数量

品名	数量		品名	数量	
1%フラジール軟膏	9,600	g	ブロー氏液	200	mL
10%硝酸銀液	130	mL	ボアラ軟膏+ヘパリン用クリーム(1:1)	2,880	g
3%酢酸水	4,000	mL	0.1%ピオクタニンブルー	0	mL
マンドル氏液	0	mL	ルゴール氏液(内視鏡)	3,500	mL
CMCアズノール軟膏	0	g	院方ルゴール	1,500	mL
CMC亜鉛華単軟膏	0	g	柿煎	23,000	mL
G-1軟膏	0	g	含嗽用アロプリノール液	0	mL
PA・ヨード点眼・洗眼液	120	mL	鼓膜麻酔液	0	mL
アズノール・クリダマシ軟膏	2,000	g	白色ワセリン+ヘパリン用クリーム(1:1)	9,600	g
アンテベート軟膏+ヘパリン用クリーム(1:1)	11,280	g	滅菌2%ピオクタニン液	330	mL
ウリナスタチン膾坐薬	280	個	滅菌オリーブ油	8,000	mL
バンコマイシン点眼液	0	mL	滅菌墨汁	120	mL
アレルギー(ダニ)	6	本	B i r c h M i x	11	本

(オ) 病棟関連

項目	総計
病棟薬剤業務実施加算1件数	17,735
病棟薬剤業務実施加算2件数	2,812
① 薬剤管理指導料1件数	5,115
② 薬剤管理指導料2件数	9,361
ハイリスク薬指導割合(①/①+②)	(平均)35.4
退院時薬剤情報管理指導料件数	714

(カ) 手術室

項目	総計(件数)
周術期薬剤管理加算	95

(キ) 通院治療室

項目	総計(件数)
連携充実加算	853

(ク) 入院前支援

項目	総計(件数)
入院前支援②	3,422

臨床研究センター

1. 業務内容

臨床研究センターでは、治験・調査及び臨床研究のすべてを区別せず、一体化した運営を図り、多くの試験・調査に携わることによって、各診療科の医師や院内スタッフとの連携をさらに密にし、円滑な試験の運営を目指している。

令和6年度は、医師主導治験及び公知申請を目指す公的な研究事業について参加申請を行った結果、医師主導治験を受託し標準業務手順書を制定したが、公知申請を目指す公的な研究事業は参加施設選定から漏れる結果となった。これにより当院では、治験・臨床研究におけるすべてのレギュレーションで試験が実施できることとなった。

今後も全研究における実態把握をしっかりと行い、実施から文書保管に至るまでを一任できるミニマムな実施体制を院内に構築するためにも被験者保護を含めた実施体制に精通し評価・確認できるメンバーの継続的な確保に努めていきたいと考えている。

2. 業務実績

▶ 臨床研究審査委員会業務（フルサポート）（単位：件）

研究区分	審議内容	令和6年度
臨床研究	《試験の実施の妥当性・科学性》	1
	《安全性情報に伴う試験実施の継続》	23
	《迅速審査 実施計画書等の軽微な変更に伴う試験実施の継続》	132
	《迅速審査 実施計画書の妥当性・科学性》	20
	《特定臨床研究への対応》	173
	《学会発表・論文公表申請》	36
開発治験 医師主導治験	《試験の実施の妥当性・科学性》	1
	《安全性情報に伴う試験実施の継続》	0
	《迅速審査 実施計画書等の軽微な変更に伴う試験実施の継続》	0
製造販売後調査	《調査実施の妥当性・科学性》	8
	《副作用報告》	2
	《実施要綱等の軽微な変更に伴う調査実施の継続》	4
臨床研究以外	《未承認薬・院内製剤・新規医療技術の実施の倫理性》	0

▶ クリニカルリサーチコーディネーター（データマネージャー含む）業務

研究区分	サポート内容	対応試験数	延べ症例数
臨床研究	フルサポート（介入試験）	14 試験	302 症例
	フルサポート（観察研究）	10 試験	140 症例
	試料及び検体管理のみ	8 試験	96 症例
製造販売後調査	CRF作成（調査）	7 調査	48 症例
	CRF作成（副作用報告）	2 調査	2 症例

卒後教育センター

1. 活動内容

卒後教育センターは大学医学部を卒業後に 2 年間当院で初期研修を行う臨床研修医が所属している。当院の臨床研修の基本理念は、(1) 医師として必要とされる人格を涵養し、社会的使命と公衆衛生への寄与、利他的な態度、人間性の尊重、自ら高める姿勢の 4 つの基本的価値観（プロフェッショナリズム）を身につける (2) プライマリ・ケアを実践するための基本的な診療能力を習得する (3) 地域医療を担う公立病院の果たすべき社会的役割を理解する、の 3 点である。また、基本方針として、(1) 患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立する (2) チーム医療の意義を理解し、多職種メンバーと協調する (3) 根拠に基づいた医療（EBM）による問題対応能力を身につける (4) リスクマネジメントの重要性を理解し、より安全な医療を実践する (5) 地域の病院・診療所との連携を通じ、地域医療支援のあり方を理解する、の 5 点を掲げている。

今年度は当院のマッチング枠 7 名に対し 31 名の応募があり、最終的には徳島大学、滋賀医科大学、大分大学、関西医科大学、和歌山県立医科大学(2 名)、奈良県立医科大学を卒業した医師 7 名が当院で 2 年間の臨床研修を行うことになった。加えて、大阪大学と奈良県立医科大学の襻掛けがそれぞれ 1 名ずつ採用され、2 年次 6 名と合わせて臨床研修医は計 15 名となった。NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）による認定更新のための訪問調査を受けた際に JCEP から指摘された事項をもとに、今後も臨床研修の質の向上に取り組んでいきたい。

通院治療センター

1. 診療内容

がんに対する主な治療法としては、「手術療法」、「放射線治療」、「薬物療法」があり、がんの種類や進行度に応じてこれらの治療法が単独あるいは併用で適切に選択され、安全に実施される必要がある。近年、化学療法で用いられる薬剤として「抗がん剤」、「ホルモン剤」、「分子標的治療薬」、「免疫チェックポイント阻害剤」など種類も増え、その効果も期待できるようになり、化学療法の果たす役割は大きくなっている。薬物療法を効果的にしかも安全に使用するためには、使用する薬剤の特性を理解し、有害事象に適切に対応し実施する必要がある。通院治療センターでは、種々のがん腫に対する薬物治療が外来で安全に行われ、患者のQOLが保たれるような治療環境を整備するよう心掛けている。

2. 診療実績

令和6年度のがん薬物療法延べ患者数は7,966名、化学療法件数（ホルモン療法を除く）は5,609件であった。新規患者に対する化学療法前オリエンテーションは303件実施し、安全で質の高い化学療法の提供を目指している。

緩和ケアセンター

1. 診療内容

緩和ケアセンターのスタッフは、以下の体制整備のために活動している。

- ① がんと診断された時からの苦痛のスクリーニングと迅速な緩和ケアの提供
- ② 緩和ケアチームによる支援活動の強化と関連職種による緩和ケア外来提供体制の充実
- ③ 多職種スタッフによる協働を意識したチーム医療の連携強化
- ④ 緊急緩和ケア病床の活用と地域医療機関との切れ目のない緩和ケア連携体制構築

緩和ケアセンタースタッフは種々のカンファレンス（診療科・病棟・個別・地域医療連携など）に積極的に参加し相談や助言を行うことで、緩和ケアチームの支援が、より依頼元のニーズに細やかに対応できるように活動している。必要に応じて緩和ケアチーム介入依頼のない患者の苦痛軽減も精力的に行っている。がん相談支援センター、地域医療連携室との連携を強化することで、切れ目のない緩和ケアを継続して提供できるように活動している。

2. 診療実績

緩和ケアチーム介入件数は 208 件/年、緩和ケア診療加算件数は 2,616 件であった。

がん性疼痛緩和指導管理算定件数は 522 件、薬剤管理指導麻薬加算指導算定件数は 759 件/年、公認心理師による緩和ケアを要する患者の対応件数は 108 件/年であった。

がん診療担当主科の外来診療における緩和ケア提供に、緩和ケアチームメンバーがより一層支援できるような体制強化を開始している。

<令和 6 年度の活動実績>

緩和ケアチーム介入依頼件数（入院）	208 件
外来緩和ケア管理料算定件数	39 件
退院前カンファレンス参加件数	18 件
緩和ケアチーム看護師の IC 同席数	90 件
緩和ケア看護外来件数	268 件
病棟カンファレンス参加件数	199 件
診療科カンファレンス参加件数	150 回
多施設多職種連携カンファレンス	2 回

がん相談支援センター

1. 活動内容

当センターは、がんに関するあらゆる相談に対応する窓口として平成 20 年 2 月より活動を開始した。診断前から治療、療養生活、仕事・学校、家族関係、社会復帰など、生活全般にわたる不安や疑問に対して、患者・家族・地域住民・医療関係者など誰でも無料・匿名で相談可能としている。電話や来院による相談のほか、情報提供や啓発活動も行っている。

① 相談業務

看護師、MSW、公認心理師などが対応し、院内外の専門職や地域機関と連携。

予約がなくても相談可能で、費用は無料（※一部サービスは有料）。

② 情報提供・啓発活動

- ・がん患者サロン「きらきら若ごぼうの会」を月 1 回開催し、情報提供と交流の場を提供。
- ・図書コーナーやPC 設置により、自由にごん情報を見たり・検索可能。
- ・「生活のしやすさ」の配布により来所促進を試みるも、未だ効果は乏しい。

③ 拠点病院との連携

がん診療連携拠点病院として、地域医療の質向上を目指し、他施設との連携を強化。

2. 診療実績

◆がん相談件数

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	220	280	189	177	246	156	272	234	187	141	179	161	2442
外来	238	268	239	201	188	124	171	195	147	80	107	143	2101
合計	458	548	428	378	434	280	443	429	334	221	286	304	4543
内新規	148	197	143	133	181	81	112	135	89	67	105	106	1497

◆がんサロンの内容と参加者数

(単位：人)

	テーマ	講師	参加人数
4月	ウィッグ相談会	外部講師	中止
5月	がん治療中のスキンケア	当院看護師	6
6月	こころのケア	当院心理師	6
7月	アピアランスケア	外部講師	9
8月	休み		
9月	抗がん剤について	当院薬剤師	12
10月	栄養	当院栄養士	11
11月	笑いヨガ	外部講師	11
12月	緩和ケア	当院医師	10
1月	Dr とのおしゃべり会	当院医師	11
2月	ACP	当院看護師	9
3月	お金のはなし	外部講師	11

就労支援センター

1. 活動内容

がん患者およびサバイバーに対する就労支援と治療との両立支援を継続的に実施している。

①相談業務

看護師・医療ソーシャルワーカー・臨床心理士が連携して支援を行っており、予約がない場合でも可能な限り対応している。令和5年4月より、診断時に質問票などを配布・回収し、生活面および就労面における早期介入を図っている。

②長期療養者への就労支援

ハローワーク布施と連携し、月1回の出張相談を院内で実施している。患者の治療状況を共有の上、本人の希望に沿った職業相談や職業紹介を行っている。

③情報提供・啓発活動

院内各所にポスターや冊子を設置し、就労に関する情報を自由に閲覧・持ち帰りできるようにするなど、積極的な情報発信に努めている。

2. 診療実績

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ハローワーク	0	1	2	2	2	2	1	2	3	1	1	0	17
相談	10	23	26	15	17	18	26	25	27	20	19	19	245

当院では、がん患者の社会復帰支援の一環として、就労支援を実施している。令和6年度は、患者一人ひとりの状況に応じた個別支援を行い、その結果、3名が新たに就労へとつながった。

そのうち1名は、病気を契機に一度退職したものの、「短時間でも働きたい」という希望を持ち続けておられた。治療継続中で薬の副作用による体調不良もあったが、関係職種との連携による支援を経て、実際に就労を開始するに至った。

本事例は、治療と就労の両立を目指す患者にとって、回復後の生活に希望を見出すきっかけとなり得るものであり、就労支援の重要性を示すものといえる。

看 護 局

看護局の現況

＜看護局理念＞

1. 地域住民のニーズを尊重し、療養と暮らしを支える心ある看護を提供します
2. 高度で良質な医療に伴った看護を推進します
3. 看護の力を活かし公立病院として品格ある病院運営を実践します

＜令和6年度看護局目標＞

1. 高い専門性と看護実践力を備えた人材を育成する
2. 看護の標準化を図り安全で信頼される医療を提供する
3. 看護の生産性を高め病院経営に参画する
4. 看護の力でチーム医療を推進し地域共生社会に貢献する

＜現況報告＞

令和6年度の職員数は、新規採用者23名を迎え常勤看護職員348名（助産師32名、看護師316名）、非常勤看護職員67名、看護補助者57名、医師事務作業補助者26名、保育士1名の合計499名であった。離職率は新規採用者11.1%から5.0%に、全体では8.0%から6.9%と減少した。継続して労働環境の調整を行い離職防止に努めるとともに、看護師養成施設での就職説明会にも積極的に参加し人材の確保に努めていく。

質の高い看護の提供ができるよう、看護実践能力の向上を目指し段階に応じたラダー研修を各職種で計画し実施した。また、専門性の向上に向けて院外への研修の受講を計画し受講できている。

地域医療支援病院として地域の訪問看護ステーションと協働し、看看連携会による研修会を4回実施した。「地域で暮らし続けよう。心不全患者の治療と看護」「訪問看護の制度と実際」「糖尿病看護の実際」をテーマに研修を行い、院内と地域の施設から現地参加209名とWeb参加161名、合計370名の多職種の参加があった。共に学び意見交換することで相互理解と継続看護について情報を共有し学びを深めることができた。また、看護職員によるがん教育や性教育などの出前講座への講師派遣や、市民イベントでの健康相談、救護活動、中高生の職業体験の受け入れなど地域での活動を行った。

小児周産期医療では、輪番での小児夜間救急の受け入れや医療ケア児のレスパイト入院を延べ30名、産後ケアの利用人数延べ50名・延べ日数157日、マタニティクラスは36回開催し、延べ参加人数365名（付き添い延べ人数122名）の参加があった。安心安全な療養環境を整えるため、6階西小児科病棟にセキュリティ扉を設置した。

1. 看護局委員会活動状況

業務委員会

看護業務の推進について、看護職と看護補助者が看護チームとして安全で効果的・効率的に協働していくために看護補助者手順、各部署の業務内容について見直しを行った。また看護補助者との協働についての研修を全看護師に実施した。

教育委員会

看護師ラダー研修Ⅰ～Ⅳ：計60回実施（レベルⅠ：18名・レベルⅡ：16名・レベルⅢ：16名・レベルⅣ：12名）看護補助者ラダー研修Ⅰ～Ⅲ：計8回実施（レベルⅡ：7名・レベルⅢ：6名）夜間看

護補助者ラダー研修：計 8 回実施、MC ラダー研修Ⅰ～Ⅲ：計 3 回実施 レベルⅠ：3 名・レベルⅡ：7 名・レベルⅢ：2 名)、実地指導者・エルダー研修：計 8 回実施した。

臨床指導者会

臨床実習の受け入れ 18 校、うち助産学生受け入れは 6 校で年間受け入れ延人数は 3,126 人(助産学生延 201 人)であった。

研究推進委員会

看護における科学的根拠を基に看護研究発表会を毎年継続して開催し、2024 年度は院内研究 8 題と卒後 3 年目研究 10 題の発表を行った。

接遇・倫理委員会

倫理カンファレンスを各部署で定期的に開催した。あわせて、E ラーニングシステムを用いて倫理・接遇に関する研修を実施し、職員の倫理的感受性を高めた。さらに、接遇ラウンドも定期的に行い接遇に対する意識向上に努めた。

2. 看護師の活動報告

<皮膚・排泄ケア認定・特定看護師> 横山敬子

特定行為 NPWT：121 回(外科 70 件・形成 51 件) マニュアル・フロー更新。デブリードマン：56 件、ドレーン抜去：4 件で入院患者の早期治癒が図れた。同行訪問は褥瘡 3 件出向。褥瘡管理 6 件、虚血創傷 1 件、術後 SSI2 件、ストーマは 16 人病棟と地域を繋ぐ継続看護を行った。外来ではストーマ指導加算 420 件で 469 件ストーマ処置を実施し合併症管理加算 59 人算定し対応した。排尿自立支援は 590 件・外来排尿自立支援 125 件患者指導を行った。

<乳がん看護認定看護師> 吉野知子

外来および入院中の患者に対し、がん相談や看護外来として 733 件対応し、がん患者指導管理料Ⅰは 52 件、Ⅱは 14 件を算定した。また、緩和ケアチームの一員として外来緩和ケアを新たに開始し、11 件の対応を行った。認定看護師として実践を通じて、患者の意思や生活背景に寄り添った支援に努めた。

<集中ケア認定看護師> 中西千賀子

Rapid Response System(RRS)活動では、40 人、延べ 79 件の介入を行い、院内の予期せぬ心停止や急変予防に携わることができた。院内ラダー研修で講師を行った。

<手術看護認定看護師> 青木ひとみ

手術看護学会、手術医学会、褥瘡学会などに参加し手術を受ける患者の看護に関する最新の知識と技術を習得し年間約 100 件の手術介助を行い手術看護の実践を通して役割モデルを示した。術後疼痛管理チームの一員として、医師、薬剤師と共に約 50 件/月の回診を行った。新人看護師のローテーション研修で 13 人の指導に携わった。

<感染管理認定看護師> 甲斐幸代

今年度も、入院患者からの COVID-陽性者の発生は多かったが、クラスターを発生させる事はなかった。感染対策マニュアルの更新を行い、発熱時などの迅速な検査や同室者の対応が出来た。地域での連携施設でのラウンドではクラスター発生時にラウンドを行い、感染対策の対応等の指導を行った。

<感染管理認定看護師> 道野真美亜

感染予防策ピクトグラムの運用、医療廃棄物の分別改定、末梢静脈カテーテルのロック製剤変更を多職種と連携し実施。「尿道カテーテル適正使用評価」の運用やカテーテル関連血流感染低減に向け、専

用物品の導入や「中心ライン挿入時チェックリスト」の作成・運用に向け調整、整備。VAE サーベイランスを実施と VAP 予防に向けた準備と体制整備。感染リンク会で手指衛生啓発活動を推進し、環境・デバイスチェックリストの使用にて対策指導、環境整備実施。感染対策の質向上と安全な医療環境の構築、コスト削減に努めた。

<がん化学看護認定看護師> 島田敏江

患者個々の治療選択において、医師の診察に同席し、意思決定支援を行った。がん薬物療法の副作用症状に対するセルフケアへの支援と、アピアランスケアを行った。また患者向けのがんサロン、ミニ勉強会や中学校のがん教育の講師を担当した。院内活動として、ラダー研修「IV Pro 技術認定」について研修を行った。院外活動として、兵庫県看護協会へ「がん薬物療法をアピアランスケア」のテーマで研修を行った。

<糖尿病認定看護師> 平山美紀

糖尿病リンクナース会で院内の糖尿病に関する情報共有と問題点に対する対策を実施し、業務改善に努めた。毎月の勉強会・糖尿病教室の運営・看護実践リフレクションを実施した。糖尿病に関する知識向上の為に、糖尿病の病態と安全な薬物療法について新人からラダーIVの教育研修を実施した。

<認知症看護認定看護師> 袖川聖子

身体的拘束最小化チームの体制整備を行い、1回/週ラウンドを実施し身体的拘束最小化に努めた。院内ラダーIの認知症看護研修を実施した。また、リンクナースによる研修実施へのアドバイスをを行った。リンクナース会ではせん妄リスクチェックの勉強会を行った。病棟カンファレンスに参加し、認知症高齢者の視点からアセスメントすること、身体的拘束最小化に向けたアセスメントの視点と対策の助言を行った。地域に向けた研修会を6回/年実施した。

<がん放射線療法看護認定看護師> 勝野真由美

放射線療法を受ける患者が、安心して治療を受け、完遂できるように、有害事象のマネジメント、セルフケアの支援を行った。看護外来における、がん患者指導管理料 178 件、がん相談 179 件であった。また、緩和ケアチーム、ACP チームでは、トータルペインへのケア、ACP の啓発とチーム医療に取り組んだ。地域活動は中学校のがん教育を実施した。臨床で院内の指導では、ラダー研修の「がん放射線療法看護」と「意思決定支援」の講義を担当した。

<がん看護専門看護師> 佐々木美保

緩和ケアチーム専従看護師として活動し、新規介入 208 件、延べ 3,198 件と増加した。5月から外来緩和ケア管理料を算定できるシステムを構築し年間 58 件（うち個人対応 24 件）算定した。緩和ケア看護外来は 175 件実施した。また、がん患者の意思決定支援として診察同席 78 件、がん看護外来 49 件を実施した。院内外の多職種や地域に対し、がんに関する教育を実施した。「がん教育」、「がんの基礎知識」、「看取りのケア（ラダーIV）」、「自殺予防の基礎知識」、「Bad News の伝え方」の講義を行った。

3. 院外活動状況

項目	内容	関係職員
OG CS	OGCS 会の運営・研修企画・調査研究 (メールでの情報交換) 3回/年	石黒紗代・川端綾香
教育	中学生 がん教育について	吉野知子・勝野真由美・渋谷和代・島田敏江・佐々木美保

	命の授業	首藤妙子・大坪恵莉加・田中夏姫
	上之島中学校職業講話	大石馨
	がん相談就労センター委員会・応急手当について	中西千賀子
救護	第8回八尾ボッチャオープン大会	河合ひとみ
	やお祭り	西原君代・大嶋真琴・垣内千恵美・森本美百・赤木麻由・山田美江子・大石馨・多田由佳
	ソフトボール大会	大嶋真琴
	フレンドリーコンサート救護班	神田ゆか
	大阪マラソン救護	赤木麻由・西原君代
講師派遣	大阪府看護協会ファーストレベル演習講師	神田ゆか
	田中のりクリニック 在宅における褥瘡発生	横山敬子
	第29回日本緩和医療学会・第37回日本サイコオンコロジー学会合同学術集会	吉野知子
	日本緩和医療学会第6回北海道支部学術大会 「乳がん治療と緩和について」	吉野知子
	フェスゴの各施設での運用を導入による変化について	浅井真由美
	高齢者・障害者施設 感染性胃腸炎対策・個人用防護具の着脱について	道野真美亜
	八尾柏原医療圏 新興感染症対策訓練	甲斐幸代・道野真美亜
	「認知症の不眠について」	袖川聖子
	大阪府看護協会府東支部「身体拘束低減についての取り組み」・柏原市病院・柏原市地域医療連携研修会/認知症ケアに関する研修会	袖川聖子
	兵庫県看護協会「がんとともに生きる-がん薬物療法とアピアランスケア-」	島田 敏江
	乳がん診療・連携セミナー	渋谷和代
	第13回南おおさか乳癌懇話「当院の乳がんの取り組み」	渋谷和代
	第16回下部尿路症状の排尿ケア講習会	徳上美智子・梶原千佳
	消防署 分娩症例に係る想定訓練	西条洋美・田中夏姫
健康相談	市民公開講座「循環器の予防・早期発見・予防について」	多田由佳・城つづみ・大西花奈・松尾怜奈
	市民公開講座「夜間頻尿で困っていませんか ロボットを用いた前立腺手術のお話」	大石馨・松本美保・前美希・山中麻央
	糖尿デー	西村勢津子・近藤純代・山田美江子・森安胡桃
	市民公開講座「耳鼻科のおはなし」	山下春美・尾野優子・垣内千恵美・西井敦子
	市民公開講座・「肝胆膵の病気について」	城内陽子・堀 明香・織田かりん
	市民公開講座 健康まちづくり科学センターと共催・今日からできる フレイル予防講座	大石馨・石川文乃・西村優子・水本久美子・山口由侑奈

その他	大阪公立病院部長会/大阪府看護部長会/大阪府がん診療連携協議会/中河内在宅医療懇和会/大阪府保険医療協議会/地域医療に係わる情報交換会	山田智子
	大阪府看護協会・防災・災害看護委員会	神田ゆか
	大阪府看護協会学会委員会/日本ホスピタルアライアンス委員	山下春美
	大阪府がん診療連会協議会（がん看護部会）中河内医療圏がん診療ネットワーク協議会/がん診療拠点病院訪問	西村勢津子
	大阪府選挙管理委員会	大石馨
	中河内安全対策協議会/令和6年度結核患者治療成績評価検討会/中河内感染防止対策協議会/大阪府看護協会感染管理地域ネットワーク	上岡いづみ
	大阪府がん診療連携ネットワーク協議会（がん相談支援部会）	吉野知子
	大阪府がん診療連携ネットワーク協議会（緩和ケア部会）	浅井真由美
	大阪府看護協会/府東支部助産師職能委員会/保健師・助産師・看護師合同職能集会	村上味穂
	性暴力被害ネットワーク協議会連携・協力会議	柴田美宝・首藤妙子
	大阪信愛学院大学 実習連絡協議会	吉井孝子
	大阪府糖尿病院顧問看護師会委員/第29回日本糖尿病教育・看護学会学術集会実行委員	平山美紀
	日本医療機能評価機構・第5回医療の質向上のためのコンソーシアム「身体拘束最小化に向けた取り組み」	袖川聖子
	園田学園女子大学・未来のワタン 「現在の仕事を通じて在校生へ語りたいこと」	河合桜実
令和5年度大阪府看護事業功労者表彰	横山敬子	

4. 実習受け入れ状況 延人数（実習日数）

白鳳短期大学 87人（129日）	信愛大学 114人（15日）	病院協会看護専門学校 40人（9日）
藍野短期大学 503人（68日）	宝塚大学 99人（43日）	大阪教育大学養護教諭 42人（7日）
四天王寺大学 426人（74日）	病院協会通信制 76人（12日）	京都女子大学養護教諭 30人（5日）
大和大学 291人（76日）	関西医療大学 72人（4日）	園田学園女子大学 24人（24日）
藍野大学 250人（23日）	小阪看護専門学校 30人（6日）	大成学院大学 129人（23日）
摂南大学 138人（49日）	大阪大学 25人（26日）	

5. 看護体験・職業体験受け入れ・多職種連携活動

看護体験（高校生）21人	こども食堂参加 15人
職業体験（中学生）9人	SPC 清掃活動参加
インターンシップ 21人	

事 務 局

事務局の現況

1. 業務内容

事務局は1課3つの係で病院事務業務を行っている。各係の業務内容は以下のとおり。

1) 企画運営係

病院事業の企画運営及び事業計画に関する業務、PFI 事業に関する業務、医療法その他関係法令に基づく諸手続きに関する業務、医療事故及び医事紛争並びに医事業務の総括に関する業務、医療情報開示に関する業務、総合医療情報システムの総括に関する業務、施設の管理の総括に関する業務、公印の管理及び文書事務に関する業務、調査・統計に関する業務、その他病院の庶務に関する業務

2) 経理係

病院事業の経営分析及び財政計画に関する業務、予算・決算及び出納検査等企業会計に関する業務、資金計画に関する業務、資産及び物品などの会計事務の検査及び指導連絡に関する業務、収入及び支出の審査に関する業務、現金出納その他会計事務に係る企業出納員所管事務の補助に関する業務、その他病院の経理に関する業務

3) 人事係

職員の人事及び給与に関する業務、職員の服務・研修及び福利厚生に関する業務、労働組合との連絡に関する業務、臨床研修に関する業務

直 轄 組 織

地域医療連携室

1. 活動内容

地域医療連携室は「地域医療連携センター」「入退院支援センター」として、医療機関の機能の役割分担と連携ができるよう、紹介患者の積極的な受け入れや医療機器の共同利用、外来・救急部門など他部門・多職種とも連携を図り、安心・安全で良質な医療提供ができるよう体制の構築に取り組んでいる。

1) 地域医療連携センター

(1) 連携事務業務

紹介患者の予約受付と窓口対応を行っている。事前予約受付（診察・各種検査）については、8：30～20：00での受入れ体制をとっている。また、FAXは365日24時間稼働している。

入院対応においても可能な限り当日対応を行っている。事前予約依頼は平均57件/日程度ある。事前予約は当院において最優先で診療される。待ち時間が少なく専門医の診察が受けられるように配慮している。当日受付の紹介患者来院数は平均79人/日となっている。また、逆紹介患者数は平均91人/日となっている。

(2) 前方支援・後方支援業務および相談業務

①前方支援業務

地域の医療機関との連携窓口として、地域医療連携室の看護師が各診療科の医師や他部門と連携を図り、紹介患者の病状の把握とトリアージを行って、スムーズな受け入れ・診療・入院へと繋げるよう対応し、安心・安全な医療の提供ができるよう取り組んでいる。

②相談業務

看護師の専門性を活かした看護相談と共に医療ソーシャルワーカーによる医療相談を充実させ、外来および入院患者や家族の様々な相談に対応している。

また、患者ご本人、およびご家族の方が安心して医療を受けられるようサポート（支援）するための窓口として、専従スタッフが「医療、看護相談」「受診科相談」「医療安全に関する相談」等、様々な相談に日々対応している。また、相談内容に応じて医療安全管理室や接遇改善委員会をはじめ、各担当部署と情報共有を行い、安心で安全な医療・看護の提供に向けて切れ目のない継続した対応や改善が速やかにできるよう取り組んでいる。

③後方支援業務

ニーズに沿った転院や退院支援を目指し、高齢社会にも対応した保健・医療・福祉サービスの支援を行っている。また、入退院支援センターとも連携を図り、患者情報を入院前から共有することで、スムーズな退院調整に繋がっている。更に退院後も在宅支援業者や他の医療機関・訪問看護ステーション・ケアマネージャー・介護・福祉などとも連携し、適切な医療・療養が継続できるようにしている。

(3) 広報・地域連携調整業務

広報誌の編集・発行や地域医療機関への訪問、地域医師会との連絡調整などを行っている。

ア)「やさしいえがお」：患者や一般向けのミニ広報誌。900部発行（毎月）

イ)「地域医療連携室だより」：医療機関向けの広報誌。900部発行（原則奇数月）

ウ)「地域医療連携室 診療のご案内」:年1回改定。1,200部発行(1回/年)

2) 入退院支援センター

入退院支援センターでは、専任の看護師が16診療科の予定入院患者へ、入院前より身体的、社会的、精神的背景を含む患者情報の把握をし、患者と医療関係者で共有することで、安心安全な入院生活および退院後の生活を見据えた支援に繋がっている。入院前支援件数は年々増加しており、疾患や検査、治療および生活の視点を持って、情報収集とアセスメントを行い、入院前から退院後まで安心・安全な医療・看護が切れ目なく受けることができるよう、主治医をはじめ病棟看護師・薬剤師・医療ソーシャルワーカー・退院支援看護師や地域の医療・介護・福祉関係者など院内外が多職種とも連携を行っている。

3) 心理相談

主には各科の依頼を受け、心理カウンセリングや心理検査をおこなっている。チーム医療活動としては緩和ケアチーム、認知症ケアチームに所属しており、回診でアセスメントをおこない、必要時に患者の心理カウンセリング、心理検査などを実施している。また職員相談や新規採用者へのストレスマネジメント研修などを実施しており、職員のメンタルヘルス向上を目指して活動している。

2. 診療実績

	令和6年度	令和5年度
紹介患者数(人)	19,263	17,887
紹介率(%)	71.0	68.9
逆紹介率(%)	89.4	103.8
登録医施設数(うち二次医療圏内)(件)	501 (366)	514 (343)
登録医数(うち二次医療圏内)(人)	629 (426)	615 (413)
医療機器共同利用数(件)	1,529	1,748
開放型病床(68床)利用率(%)	20.8	18.0
入院前支援数:MC(件)	1,184	950
入院前支援数:薬剤師(件)	4,189	3,886
入院前支援数:看護師(件)	4,599	4,186
退院支援数(件)	5,614	5,109
入退院支援加算1算定数(件)	7,168	6,327
65歳以上の入退院支援加算率(%)	87.8	90.1
入院時加算数(件)	3,597	2,935
公認心理師対応数(件)	2,306	2,234
患者サポート対応数(件)	1,186	1,508

診療情報管理室

1. 業務内容

- 1) 院内がん登録（院内がん登録全国集計・全国がん登録にデータ提出）、予後調査
- 2) 退院サマリ受取管理、同意書等受取管理
- 3) 診療録監査の実施
- 4) DPC 様式1の作成
- 5) 病院臨床指標などの統計データの作成
- 6) 大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム（ORION）への登録

院内がん登録を行い、院内がん登録全国集計・全国がん登録令和4年症例として1,327件のデータを提出した。また、医師との情報共有のために、令和4年症例の提出データを基にがんに関する分析を行い、結果をHIMnewsとして発行した。大阪府救急搬送支援・情報収集・集計分析システム（ORION）への登録を行った（全登録数3,931件、うち搬送困難症例468件）。その他、病院臨床指標データ抽出、病院統計の作成を随時行っている。

2. 退院患者統計

①対象患者

令和6年4月1日～令和7年3月31日の期間に退院（転院）した患者

② 集計方法

- ・集計に必要な情報は、退院時要約及び入院カルテより抽出
- ・1退院を1件として集計
- ・疾病分類は、「疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10（2013年版）準拠」を使用

③統計

- ・国際疾病分類統計別退院患者数
- ・年齢階層別・男女別 国際疾病分類統計
- ・診療科別 上位5位疾病退院患者数
- ・悪性新生物患者数（部位別・男女別）
- ・年齢階層別・男女別 国際疾病分類統計（死亡統計）

◆国際疾病分類統計別退院患者数

(単位：人)

章	ICD-10 分類	分類	退院患者						総計
			退院		死亡		男性計	女性計	
			男性	女性	男性	女性			
I	A00-B99	感染症および寄生虫症	151	142	3	4	154	146	300
II	C00-D48	新生物	1,272	1,448	53	48	1,325	1,496	2,821
III	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	35	36	2	2	37	38	75
IV	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	199	110	3	2	202	112	314
V	F00-F99	精神および行動の障害	1	13	0	0	1	13	14
VI	G00-G99	神経系の疾患	82	63	0	1	82	64	146
VII	H00-H59	眼および付属器の疾患	7	19	0	0	7	19	26
VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	88	70	0	0	88	70	158
IX	I00-I99	循環器系の疾患	742	495	21	8	763	503	1,266
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	609	406	19	3	628	409	1,037
X I	K00-K93	消化器系の疾患	1,197	845	8	6	1,205	851	2,056
X II	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	47	34	0	2	47	36	83
X III	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	172	189	0	1	172	190	362
X IV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	285	360	1	3	286	363	649
X V	O00-O99	妊娠、分娩および産褥	0	613	0	0	0	613	613
X VI	P00-P99	周産期に発生した病態	73	79	0	0	73	79	152
X VII	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	24	16	0	0	24	16	40
X VIII	R00-R99	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	28	16	0	0	28	16	44
X IX	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	505	408	1	3	506	411	917
X X I	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因 および保険サービスの利用	0	0	0	0	0	0	0
X X II	U00-U88	特殊目的用コード(COVID-19)	68	40	2	1	70	41	111
総計			5,585	5,402	113	84	5,698	5,486	11,184

◆年齢階層別・男女別 国際疾病分類統計

(単位：人)

章	ICD-10 分類	分類	6歳未満		6歳以上 10歳未満		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		80歳代		90歳以上		総計	
			男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性		
			I	A00-B99	感染症および寄生虫症	72	58	11	9	14	15	10	13	2	5	2	4	7	4	6	5	12	13	14		12
II	C00-D48	新生物	1	3	2	0	3	4	2	21	10	53	28	170	108	257	242	239	544	412	341	300	44	37	2,821	
III	D50-D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	13	1	1	1	1	2	0	1	1	4	0	3	0	2	1	2	11	12	8	8	1	2	75	
IV	E00-E90	内分泌、栄養および代謝疾患	14	14	10	8	6	5	2	2	7	2	11	9	23	16	15	11	35	18	17	22	3	5	314	
V	F00-F99	精神および行動の障害	0	1	1	2	0	3	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	14	
VI	G00-G99	神経系の疾患	9	18	9	2	18	6	2	3	3	3	5	2	9	8	7	5	18	8	1	9	1	0	146	
VII	H00-H59	眼および付属器の疾患	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3	8	1	8	0	2	26	
VIII	H60-H95	耳および乳様突起の疾患	21	16	4	4	9	2	4	5	9	2	10	9	7	9	9	8	14	13	1	2	0	0	158	
IX	I00-I99	循環器系の疾患	4	0	0	1	10	9	1	1	3	1	21	11	92	30	139	55	237	144	231	193	25	58	1,266	
X	J00-J99	呼吸器系の疾患	192	125	60	42	43	27	47	27	35	25	20	10	25	25	31	23	65	28	91	57	19	20	1,037	
X I	K00-K93	消化器系の疾患	17	7	11	5	23	24	27	27	33	29	57	57	189	110	220	115	362	257	244	193	28	27	2,056	
X II	L00-L99	皮膚および皮下組織の疾患	15	12	2	2	1	2	0	0	2	0	3	2	4	6	5	1	3	4	12	4	0	3	83	
X III	M00-M99	筋骨格系および結合組織の疾患	24	17	5	2	2	2	4	0	5	4	11	4	13	24	45	15	39	71	21	46	3	5	362	
X IV	N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	23	16	6	5	6	5	1	14	3	38	11	53	42	65	35	35	76	52	73	63	10	17	649	
X V	O00-O99	妊娠、分娩および産褥	0	0	0	0	0	8	0	219	0	337	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	613	
X VI	P00-P99	周産期に発生した病態	73	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	152	
X VII	Q00-Q99	先天奇形、変形および染色体異常	14	7	2	0	2	1	2	0	0	0	0	2	2	1	2	1	0	3	0	1	0	0	40	
X VIII	R00-R99	症状、症候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20	9	4	5	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	44	
X IX	S00-T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響	139	109	66	29	67	33	28	16	22	8	37	23	39	22	29	32	43	54	43	75	5	10	917	
X X I	Z00-Z99	健康状態に影響をおよぼす要因 および保険サービスの利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
X X II	U00-U88	特殊目的用コード(COVID-19)	7	8	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2	0	6	2	15	6	29	13	8	10	111	
総計			658	501	195	118	266	148	130	350	135	511	218	410	553	580	787	549	1,477	1,104	1,128	1,011	151	204	11,184	

◆診療科別 上位5位疾病退院患者数

(単位：人)

診療科	ICD-10 分類	病名	合計
全科	K63	腸その他の疾患	779
	T78	有害作用、他に分類されないもの	393
	C50	乳房の悪性新生物	361
	O80	単胎自然分娩	321
	C34	気管支および肺の悪性新生物	246
内科	E11	インスリン非依存型糖尿病	104
	J18	肺炎、病原体不詳	53
	U07	エマージェンシーコードU07 (COVID-19)	50
	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	32
	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	31
血液内科	C83	びまん性非ホジキンリンパ腫	55
	D46	骨髄異形成症候群	42
	C85	非ホジキンリンパ腫のその他および詳細不明の型	24
	C90	多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	21
	C92	骨髄性白血病	15
消化器内科	K63	腸その他の疾患	774
	K80	胆石症	87
	K57	腸の憩室性疾患	78
	C16	胃の悪性新生物	77
	C18	結腸の悪性新生物	77
循環器内科	I20	狭心症	235
	I50	心不全	208
	I48	心房細動及び粗動	195
	I25	慢性虚血性心疾患	130
	I70	アテローム硬化 (症)	101
消化器外科	K40	そけいヘルニア	165
	C16	胃の悪性新生物	137
	C18	結腸の悪性新生物	118
	K80	胆石症	100
	K35	急性虫垂炎	74
呼吸器外科	C34	気管支および肺の悪性新生物	239
	J93	気胸	17
	C78	呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	16
	C45	中皮腫	9
	D38	中耳・呼吸器及び胸腔内臓器の性状不詳又は不明の新生物	9
乳腺外科	C50	乳房の悪性新生物	340
	N63	乳房の詳細不明の塊	19
	D48	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物	8
	D70	無顆粒球症	4
	C78	呼吸器および消化器の続発性悪性新生物	2
脳神経外科	I63	脳梗塞	52
	S06	頭蓋内損傷	35
	I61	脳内出血	28
	I62	その他の非外傷性頭蓋内出血	12
	I65	脳実質外動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	12

診療科	ICD-10 分類	病名	合計
整形外科	M17	膝関節症	83
	S72	大腿骨骨折	56
	M48	その他の脊椎障害	53
	S52	前腕の骨折	46
	S82	下腿の骨折、足首含む	43
形成外科	S68	手首および手の外傷性切断	54
	D48	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物	30
	H02	眼瞼のその他の障害	25
	C50	乳房の悪性新生物	21
	S02	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	15
産婦人科	O80	単胎自然分娩	321
	C54	子宮体部の悪性新生物	92
	D39	女性生殖器の性状不詳又は不明の新生物	84
	O34	既知の母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	75
	D25	子宮平滑筋腫	62
小児科	T78	有害作用、他に分類されないもの	382
	B34	部位不明のウイルス感染症	69
	J18	肺炎、病原体不詳	69
	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	57
	J20	急性気管枝炎	56
耳鼻咽喉科	J35	扁桃およびアデノイドの慢性疾患	101
	J03	急性扁桃炎	73
	J32	慢性副鼻腔炎	70
	H91	その他の難聴	48
	G51	顔面神経障害	46
泌尿器科	C61	前立腺の悪性新生物	227
	C67	膀胱の悪性新生物	160
	N20	腎結石および尿管結石	137
	N13	閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	36
	C66	尿管の悪性新生物	35
放射線科	C34	気管支および肺の悪性新生物	1
	C79	その他の部位の続発性悪性新生物	1
歯科口腔外科	K01	埋伏歯	78
	K04	歯髄および根尖部歯周組織の疾患	25
	K07	歯顎顔面異常	13
	C03	歯肉の悪性新生物	11
	K10	顎骨のその他の疾患	11

◆悪性新生物患者数（部位別/男女別）

（単位：人）

中分類	中分類部位	男性		女性		合計		総計
		退院	死亡	退院	死亡	退院	死亡	
口唇、口腔および咽頭	C02 舌のその他および部位不明	4	0	5	0	9	0	9
	C03 歯肉	5	0	6	0	11	0	11
	C04 口(腔)底	3	0	0	0	3	0	3
	C06 その他及び部位不明の口腔	2	0	0	0	2	0	2
	C14 その他の部位不明の口唇、口腔、咽頭	0	0	1	0	1	0	1
合計		14	0	12	0	26	0	26
消化器	C15 食道	55	3	8	2	63	5	68
	C16 胃	132	8	73	1	205	9	214
	C17 小腸	1	0	3	0	4	0	4
	C18 結腸の悪性新生物	87	3	105	2	192	5	197
	C19 直腸S状結腸移行部	10	0	7	0	17	0	17
	C20 直腸	47	8	26	2	73	10	83
	C21 肛門および肛門管	0	0	1	0	1	0	1
	C22 肝および肝内胆管	54	4	26	0	80	4	84
	C23 胆のうく囊	2	0	4	0	6	0	6
	C24 その他および部位不明の胆道	10	0	11	1	21	1	22
	C25 膵	55	2	45	4	100	6	106
C26 その他の部位不明の消化器	0	0	1	0	1	0	1	
合計		453	28	310	12	763	40	803
呼吸器および胸腔内臓器	C31 副鼻腔	1	0	0	0	1	0	1
	C34 気管支および肺	146	8	86	6	232	14	246
	C38 心臓、縦隔及び胸膜	1	0	1	0	2	0	2
合計		148	8	87	6	235	14	249
皮膚	C44 皮膚のその他	5	0	8	0	13	0	13
合計		5	0	8	0	13	0	13
中皮および軟部組織	C45 中皮腫	9	1	1	0	10	1	11
	C48 後腹膜および腹膜	1	0	17	0	18	0	18
合計		10	1	18	0	28	1	29
乳房	C50 乳房	2	0	353	6	355	6	361
合計		2	0	353	6	355	6	361
女性生殖器	C53 子宮頸(部)	0	0	25	1	25	1	26
	C54 子宮体部	0	0	88	4	88	4	92
	C55 子宮、部位不明	0	0	1	0	1	0	1
	C56 卵巣	0	0	58	0	58	0	58
合計		0	0	172	5	172	5	177
男性生殖器	C61 前立腺の悪性新生物	226	1	0	0	226	1	227
	C62 精巣<睾丸>	1	0	0	0	1	0	1
合計		227	1	0	0	227	1	228
尿路	C64 腎盂を除く腎	9	0	8	0	17	0	17
	C65 腎盂	16	0	8	0	24	0	24
	C66 尿管	21	1	13	0	34	1	35
	C67 膀胱	133	2	26	0	159	2	161
	C68 その他の尿路	1	0	0	0	1	0	1
合計		180	3	55	0	235	3	238
眼、脳および中枢神経その他の部位	C71 脳	2	0	1	0	3	0	3
合計		2	0	1	0	3	0	3
甲状腺およびその他の内分泌腺	C73 甲状腺	3	0	9	0	12	0	12
合計		3	0	9	0	12	0	12
部位不明確、続発部位および部位不明	C77 リンパ節の続発性および部位不明	4	0	3	0	7	0	7
	C78 呼吸器および消化器の続発性	21	2	35	2	56	4	60
	C79 その他の部位の続発性悪性新生物	10	1	16	1	26	2	28
	C80 部位が明示されていない悪性新生物	0	0	1	0	1	0	1
合計		35	3	55	3	90	6	96
リンパ組織、造血組織および関連組織	C81 ホジキンリンパ腫	1	0	5	0	6	0	6
	C82 ろ胞性〔結節性〕非ホジキンリンパ腫	3	0	7	0	10	0	10
	C83 びまん性非ホジキンリンパ腫	29	3	24	1	53	4	57
	C84 末梢性および皮膚T細胞リンパ腫	1	0	0	0	1	0	1
	C85 非ホジキンリンパ腫のその他および部位不明の型	13	2	19	3	32	5	37
	C86 T/NK細胞リンパ腫のその他	0	0	1	0	1	0	1
	C88 悪性免疫増殖性疾患	2	0	4	0	6	0	6
	C90 多発性骨髄腫および悪性形質細胞性新生物	10	1	8	2	18	3	21
	C91 リンパ性白血病	2	0	2	2	4	2	6
	C92 骨髄性白血病	9	1	2	3	11	4	15
	C94 細胞型の明示されたその他の白血病	2	0	1	0	3	0	3
C95 細胞型不明の白血病	0	0	0	1	0	1	1	
D46 骨髄異形成症候群	30	2	9	2	39	4	43	
合計		102	9	82	14	184	23	207
上皮内新生物	D00 口腔、食道、及び胃	1	0	0	0	1	0	1
	D04 皮膚の上皮内癌	0	0	1	0	1	0	1
	D06 子宮頸部	0	0	2	0	2	0	2
	D09 その他及び部位不明の上皮内癌	2	0	0	0	2	0	2
合計		3	0	3	0	6	0	6
総計		1,184	53	1,165	46	2,349	99	2,448

◆年齢階層別・男女別 国際疾病分類統計（死亡統計）

（単位：人）

章	分類	分類 コード	ICD-10	40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		80歳代		90歳以上		男性 計	女性 計	総 計
				男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性			
				I	感染症および寄生虫症	A00-B99	A0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			A3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
			A4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	1	3	4
			B1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
II	新生物	C00-D48	C1	1	0	1	1	4	1	4	0	2	3	2	0	14	5	19
			C2	1	0	1	3	4	0	5	0	3	3	0	1	14	7	21
			C3	0	0	1	1	0	1	3	2	3	2	1	0	8	6	14
			C4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
			C5	0	0	0	2	0	4	0	3	0	2	0	0	0	11	11
			C6	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	4	0	4
			C7	0	0	1	0	0	0	0	2	2	1	0	0	3	3	6
			C8	0	0	0	0	1	0	1	0	2	4	1	0	5	4	9
			C9	0	0	0	0	2	2	0	3	0	2	0	1	2	8	10
			D3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
			D4	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	2	3	5	
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-D89	D6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	2	3
			D7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
IV	内分泌、栄養および代謝疾患	E00-E90	E0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
			E1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
			E4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
			E8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	2
VI	神経系の疾患	G00-G99	G4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
IX	循環器系の疾患	I00-I99	I2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	2
			I4	0	0	0	0	1	0	2	1	2	1	0	0	5	2	7
			I5	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	1	0	7	1	8
			I6	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	1	2	5	3	8
			I7	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	3	1	4
X	呼吸器系の疾患	J00-J99	J1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	4	0	7	1	8
			J6	0	0	1	0	0	0	3	0	4	0	1	0	9	0	9
			J7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1
			J8	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	2	1	3
			J9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
X I	消化器系の疾患	K00-K93	K2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
			K5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
			K6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	1	3	4
			K7	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3	1	4
			K8	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	2	2	4
X II	皮膚および皮下組織の疾患	L00-L99	L0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	
			L8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
X III	筋骨格系および結合組織の疾患	M00-M99	M7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	N1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	3	4	
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	S0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	2	
			S7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
			T8	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
X X II	特殊目的用コード(COVID-19)	U00-U88	U0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	3	
年齢階層別/男女別合計				2	0	7	9	18	9	30	16	42	36	14	14	113	84	197
総 計				2	0	16	27	46	78	28	197							

医療安全管理室

1. 活動内容

医療安全全体統括のため、医療安全管理室内の会議を定期的で開催し、以下のとおり医療安全に関する活動に取り組んだ。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ①インシデント事例報告の収集・分析・評価 | ⑥医療事故のサポート |
| ②アクシデント報告の収集・分析・評価 | ⑦セーフティマネージャーの統括・指導 |
| ③医療事故防止対策の具体的内容の検討 | ⑧医療安全推進部会院内ラウンド |
| ④委員会決定事項の伝達 | ⑨患者サポート相談窓口の充実 |
| ⑤医療事故防止の教育・啓発 | ⑩教育活動への参加 |

2. 活動実績

1) インシデント/アクシデントの分析

インシデント/アクシデントについては、医療安全管理委員会（毎月第4月曜日開催）や医療安全推進部会（毎月第2月曜日開催）を通じ情報の提供・改善内容の周知を図っている。令和6年度の報告総数は1,776件で、その内、医師からの報告は192件であった。

- ① 月報（インシデント・アクシデントの集計や傾向）
- ② 研修会の内容報告
- ③ インシデント事例から医療安全推進部会での対策検討と推進
- ④ 医療安全にかかわる事象の対策検討と推進

<転倒・転落に対する取り組み>

病気やケガによる運動機能の低下や慣れない環境での入院生活は、転倒や転落の危険があり、骨折や頭部外傷など多大な影響を与える。また認知機能の低下が見られれば転倒・転落の危険がさらに高まる。認知症看護認定看護師とカンファレンスを重ね、患者やその家族が医療チームの一員として医療に参加できるよう、入院前から転倒転落の危険性を評価し入院時に共有できる仕組みを構築した。

2) 院内ラウンドなどによる医療安全推進活動の現状把握と注意喚起

- ① 医療安全管理室による、環境ラウンドと生体モニタラウンドの実施
- ② 医療安全推進部会による、院内ラウンドの実施（注射点滴手順チェック、麻薬の取扱い、環境、物品・薬剤、器械・器材、基準遵守状況など）
- ③ 認知症看護認定看護師と医療安全管理室とのカンファレンスやラウンドの実施。

3) 部署別セーフティカンファレンスの実施（1回以上/月）

部署内で発生したインシデントを分析し、発生部署においてセーフティカンファレンスを行い、改善を図るとともに再発防止に努めた。

4) 教育・研修の実施

- ① 臨床研修医および新規採用者、中途採用者（看護師）、看護補助者、医師事務作業補助者、看護学生、セーフティマネージャーを対象にセーフティ研修を実施した。

- ② 学研ナーシングサポート（eラーニング）を活用や、看護師ラダー教育に応じた研修を行い看護師の安全に対する意識向上を図った。
- ③ 全職員を対象とした医療安全講演会の実施（2回／年）
年間計画を策定し、様々な視点から、安全な医療への意識向上を目的に研修を実施した。

テーマ

- ・個人情報の扱いについて
- ・麻薬取り扱いについて
- ・BLS・ICLS ビデオ研修

全部署での受講率の向上に向けての取り組みが今後の課題である。

- 5) 画像・病理所見未読に対する取り組み
画像・病理所見未読による診療の遅れを無くすため、診療情報管理室と協働し、早期に未読ゼロにするための運用を継続実施している。
- 6) 医療事故防止対策標語の設定（毎月発行）
- 7) 院内医療安全情報としてインシデント内容からトピックス情報を発信し注意喚起を図った。（6回発行）
- 8) 医療安全情報として日本医療機能評価機構からの情報を毎月発信。
- 9) 中河内医療安全対策協議会の実施
中河内地区の医療安全の向上を目指して、相互評価を実施するためなどの意見交換会を実施した。また他施設との医療安全対策に係る取り組みの相互評価を実施した。
 - ・中河合医療安全対策協議会ハイブリッド開催（5月28日）
 - ・相互評価

1-1 連携	被評価	市立東大阪医療センター	（1月29日）
	評価	宝持会 池田病院	（1月17日）
1-2 連携	評価	東大阪徳洲会病院	（3月7日）

感染対策管理室

1. 活動内容

医療関連感染を防止し、アウトブレイクの発生時には、すみやかに対応し、感染対策防止に努めている。

- 1) 抗菌薬適正使用推進
- 2) 手指衛生順守の推進
- 3) 環境ラウンド
- 4) アウトブレイク防止
- 5) 感染対策地域向上加算施設との連携
- 6) 医療関連感染防止
- 7) その他の活動

2. 活動実績

1) 抗菌薬適正使用推進

① コンサルテーション、無菌検体培養陽性例、AST ラウンド症例への介入強化

感染症内科医が常勤化したことにより、タイムリーで細やかな介入が可能となり、速やかな抗菌薬の適正化、治療期間を短縮できた。広域抗菌薬であるカルバペネムの DOT (Days of therapy: 抗菌薬使用量の指標の一つ) は令和 5 年度 1.2→令和 6 年度 0.8 (加算 1 施設平均 2.0) に減少し、同じく広域なピペラシリン・タゾバクタムの DOT は同期間で 3.2→2.9 (加算 1 施設平均 3.1) と減少した。全抗菌薬 DOT は同期間で 31.7→30.5 (加算 1 施設平均 26.6) と減少し、抗菌薬適正使用が進んだ。また、静注抗菌薬のコストを薬価ベースで年間約 200 万円程度削減できた。

② 抗菌薬採用規格の見直し

抗菌薬の採用規格を変更することで、年間約 50 万円程度の削減を行った。

③ 外来抗菌薬適正使用体制加算取得に向けた取り組み

抗菌薬処方時に、AWeRe 分類が表示されるようにし、全医師に Access 抗菌薬使用を促す案内を出した。外来における抗菌薬使用のマニュアルを作成し、電子カルテから参照できるようにした。個別の診療科 (皮膚科、呼吸器外科、消化器外科、泌尿器科、小児科) に対して、抗菌薬適正使用についての情報提供を行い、協力をお願いした。

これらの取り組みの結果、Access 抗菌薬の使用割合が上昇し、2025 年 3 月から抗菌薬適正使用体制加算を取得可能となった。(年間 40-50 万円程度の増収)

2) 手指衛生順守の推進

感染対策講演および、各病棟への個別レクチャー (手指衛生に関するミニレクチャーを) や加算 1 施設と比べて特に回数に少ない部門へは個別にフィードバックを行った。数値の変化は乏しいが、一部の病棟では廃棄が使用に切り替わってきている状況。まだまだ全体的に低調であり、来年度、個人携帯に向けて準備を行っている。

3) 環境ラウンド

毎週各部門へラウンドを行い、写真等を利用してフィードバックを行った。また、年2回の感染対策講習会でも当院での現状をフィードバックした。徐々にではあるが、改善できている。

4) アウトブレイク防止

今年度もアウトブレイクやクラスターの発生はなかった。また、感染対策ピクトグラムを掲示するようにし、過不足のない適切な感染対策が行えるようにした。

5) 感染対策地域向上加算施設との連携

年4回の連携のカンファレンスを開催し、カンファレンス後には、感染症内科医によるミニ勉強会として、流行している疾患を中心に勉強会を行い、地域の感染対策の質の向上に努めた。また、令和6年9月25日(木)には、八尾・柏原地域で保健所と合同して合同訓練を行った。

6) 医療関連感染防止

① カテーテル関連血流感染予防

感染対策講演を行い、アミノ酸含有末梢静脈栄養剤オーダー時のポップアップ文章が出るよう変更した。また1%クロルヘキシジンアルコール製剤への変更、チェックリスト導入の準備を行った。令和7年度より消毒薬変更を予定し、また、挿入時のチェックリストも導入予定であり、効果を検証する。

② カテーテル関連尿路感染予防

カテーテルの適正使用が行われるようパスを作成し運用準備を行った。

7) その他の活動

① 感染性廃棄物分別を適正化し、コスト削減を図った。半年が経過したため、削減した費用について算出し、月間約40万円、年間約480万円の削減となった。

② 血液培養汚染率低減

各部署に掲示やコンタミネーション発生時のフィードバックを行った。結果、汚染率は2.5%→1.4%(2024年上半期と下半期の比較)へ減少し、加算1施設平均を下回った。

③ 末梢ルートロック製剤の生食への変更

年間コスト削減効果は約100万円程度を見込むが、生食ロックシリンジの出荷状況が不安定であり、一時停止中である。

P F I 事 業

八尾医療PFI株式会社（SPC）

1. 事業内容

当院は維持管理・運営事業をPFI方式で運営しており、当社が1) 建設・設備維持管理（ファシリティ・マネジメント）業務、2) 病院運営業務（医療法に基づく政令8業務）3) その他病院運営業務（医療事務、物品管理・物流管理（SPD）、医療機器類の管理、経営支援等）を担っている。

2. 事業総括・実績

令和6年度は、第5期経営計画の初年度ということで、市の総合計画における当院の位置付けや役割について、改めて確認し、業務に臨んだ。特に病床稼働率が伸び悩んだことから、費用削減に取り組み、診療材料等の安価な商品への切り替え提案や大規模修繕における優先順位の提案等を実施した。その他取り組みも含め、活動概要は次の通りである。

1) 病院の一部署・一職員として機能する

SPC全体会議を毎月開催し、病院運営会議の内容等、病院の一員として必要な情報を共有した。

2) 八尾市立病院第5期経営計画（令和6年度からの3か年計画）の達成に向けた取り組み

① 地域の医療機関との連携の強化及び市民向けの情報提供

医療機関への訪問活動は延べ2,923件（前年度2,632件）、このうち医師との同行訪問は245件だった。市民向けの公開講座は6回開催した。市政日より令和7年1月号と3月号には「市立病院だより」を掲載し、新しい幹部医師の紹介を中心に、病院機能をアピールした。

② 危機事象への対応と医療安全対策への取り組み

3月に災害医療トリアージ訓練等研修会及び病棟の避難訓練をサポートした。また、医療安全管理委員会の一員として、マニュアルの改訂作業支援や院内ラウンドを行った。

③ 患者満足度の向上

患者アンケートを12月に実施した。また、8月と2月には食事アンケートを実施した。

④ 収益性の向上

会議では医事統計報告を行い、病院運営状況について統計データ面からの現状把握と課題の共有化に努めた。また、ベンチマークデータなどを活用した増収提案などを積極的に行った。診療報酬の査定減対策として、査定ニュースを発行し査定傾向の院内周知に努めた。

⑤ 診療材料の適正管理

診療材料費削減活動では、共同購入の推進を通じ診療材料費の適正管理に努めた。活動結果については毎月開催の診療材料検討委員会で報告した。

⑥ 医療機器の整備更新

各診療科・部署のヒアリングを実施し、年度予算範囲内で適切な医療機器の購入を行った。

⑦ 施設・設備の維持管理

大規模修繕工事では、特に光熱費の軽減に資する工事の優先度を高くするなど、経営面も考慮して計画を進めた。

3) 各企業において提供業務の品質管理を定着させ継続実施する

業務管理は協力企業自らによるものを重要視している。そのため、担当マネージャーと協力企業担当者、現場責任者で定例会を開催し、改善課題などの確認・検討を継続的に行った。

經營狀況

1. 収益費用明細書（税抜）

(1) 収益の部

(単位：円)

款	項	目	節	金額	備考		
病院事業収益				14,559,826,481			
	医業収益			13,453,353,324			
		入院収益			8,646,389,028		
			入院収益		8,646,389,028		
		外来収益			4,214,581,804		
			外来収益		4,214,581,804		
		その他医業収益			592,382,492		
			室料差額収益		154,605,430		
			公衆衛生活動収益		14,839,433		
			医療相談収益		72,402,799		
			一般会計負担金		324,548,000		
			その他医業収益		25,986,830		
		医業外収益				1,078,163,887	
			受取利息及び配当金			9,749,720	
				預金利息		9,749,720	
	他会計補助金				129,293,000		
			一般会計補助金		129,293,000		
	他会計負担金				458,110,000		
			一般会計負担金		458,110,000		
	補助金				34,511,000		
			国庫補助金		10,212,000		
			府補助金		24,299,000		
	長期前受金戻入				373,013,400		
			長期前受金戻入		373,013,400		
	その他医業外収益				73,486,767		
			その他医業外収益		73,486,767		
	特別利益					28,309,270	
		過年度損益修正益			28,309,270		
			過年度損益修正益		28,309,270		

(2) 費用の部

(単位：円)

款	項	目	節	金額	備考
病院事業費用	医業費用			16,006,233,900	
		給与費		15,095,645,421	
		給料		7,384,142,465	
		手当		3,149,067,467	
		報酬		2,548,744,994	
		法定福利費		210,000	
		退職給付費		926,852,245	
		賞与引当金繰入額		275,042,759	
		法定福利費引当金繰入額		405,363,000	
		法定福利費引当金繰入額		78,862,000	
		材料費		3,748,585,476	
		薬品費		2,359,855,080	
		診療材料費		1,388,730,396	
		経費		2,989,331,209	
		厚生福利費		12,233,395	
		報償費		619,723	
		旅費交通費		576,209	
		消耗品費		24,436,212	
		消耗備品費		14,206,755	
		光熱水費		302,272,359	
		燃料費		235,776	
		食料費		97,069	
		印刷製本費		18,375,123	
		保険料		17,130,042	
		賃借料		54,862,398	
		委託料		2,473,064,261	
		通信運搬費		4,900,292	
		諸会費		2,461,900	
		手数料		46,818,452	
		負担金		12,882,918	
		交際費		27,000	
		貸倒引当金繰入額		3,296,490	
		雑費		834,835	
		減価償却費		919,107,141	
		建物減価償却費		276,914,339	
		建物附帯設備減価償却費		158,971,971	
		構築物減価償却費		13,106,557	
		器械備品減価償却費		470,114,274	
		資産減耗費		17,736,302	
		たな卸資産減耗費		6,592,098	
		固定資産除却費		11,144,204	
		研究研修費		36,742,828	
		研究材料費		780,768	
		図書費		10,722,972	
		旅費		13,543,661	
		研究雑費		11,695,427	
		医業外費用		888,928,447	
支払利息及び企業債取扱諸費		136,895,183			
企業債利息		136,895,183			
長期前払消費税償却		1,909,378			
長期前払消費税償却		1,909,378			
雑支出		750,123,886			
雑費		750,123,886	(消費税雑支出計上分)		
特別損失		21,660,032			
過年度損益修正損		21,660,032			
固定資産売却損		3,500			
過年度損益修正損		21,656,532			

2. 資本的収入及び支出明細書（税抜）

(1) 資本的収入の部

(単位：円)

款	項	目	節	金額	備考
資本的収入				935,875,500	
	企業債	企業債		731,000,000	
			企業債	731,000,000	
			企業債	731,000,000	
	負担金	他会計負担金		203,980,000	
			一般会計負担金	203,980,000	
				203,980,000	
	補助金	府補助金		811,000	
				811,000	
			府補助金	811,000	
	固定資産売却代金	固定資産売却代金		84,500	
			84,500		
固定資産売却代金			84,500		

(2) 資本的支出の部

(単位：円)

款	項	目	節	金額	備考
資本的支出				2,162,305,770	
	建設改良費	資産購入費		865,927,247	
			器械備品	613,007,247	
			工事費	252,920,000	
			工事請負費	252,920,000	
	企業債償還金	企業債償還金		1,296,378,523	
				1,296,378,523	
				1,296,378,523	
企業債償還金			1,296,378,523		

3. 比較貸借対照表（税抜）

(単位：円)

項	目	令和7年3月31日	令和6年3月31日	増減
有形固定資産		13,473,225,580	13,537,634,178	△ 64,408,598
土地		3,465,722,244	3,465,722,244	0
償却資産		27,916,917,793	27,178,749,296	738,168,497
減価償却累計額		△ 17,909,414,457	△ 17,106,837,362	△ 802,577,095
無形固定資産		141,800	141,800	0
投資その他の資産		0	1,909,378	△ 1,909,378
流動資産		7,117,408,143	8,700,420,145	△ 1,583,012,002
現金預金		4,870,269,552	6,496,358,721	△ 1,626,089,169
未収金		2,145,896,770	2,113,989,263	31,907,507
貯蔵品		91,264,411	80,742,251	10,522,160
前払費用		9,379,910	9,329,910	50,000
前払金		597,500	0	597,500
資産合計		20,590,775,523	22,240,105,501	△ 1,649,329,978
固定負債		10,968,100,150	11,478,163,658	△ 510,063,508
企業債		8,158,886,176	8,753,590,922	△ 594,704,746
引当金		2,702,610,663	2,617,969,425	84,641,238
その他固定負債		106,603,311	106,603,311	0
流動負債		4,670,852,597	4,195,489,248	475,363,349
企業債		1,325,704,746	1,296,378,523	29,326,223
未払金		2,812,635,833	2,181,559,520	631,076,313
引当金		484,225,000	675,528,890	△ 191,303,890
その他流動負債		48,287,018	42,022,315	6,264,703
繰延収益		2,133,915,423	2,302,137,823	△ 168,222,400
長期前受金		7,589,799,637	7,411,545,126	178,254,511
長期前受金収益化累計額		△ 5,455,884,214	△ 5,109,407,303	△ 346,476,911
資本剰余金		2,797,285,457	2,797,285,457	0
剰余金		20,621,896	1,467,029,315	△ 1,446,407,419
資本剰余金		18,025,000	18,025,000	0
利益剰余金		2,596,896	1,449,004,315	△ 1,446,407,419
前年度繰越利益剰余金		1,449,004,315	2,680,514,993	△ 1,231,510,678
減債積立金		0	165,000,000	△ 165,000,000
当年度純損益		△ 1,446,407,419	△ 1,396,510,678	△ 49,896,741
負債資本合計		20,590,775,523	22,240,105,501	△ 1,649,329,978

4. 経営・財務分析表

項目	算式	6年度	5年度
病床利用率	$\frac{\text{年延入院患者数 (106,094 人)}}{\text{年延病床数 (138,700 床)}} \times 100$	76.5 %	71.3 %
平均在院日数	$\frac{\text{年延在院患者数 (94,860 人)}}{\{\text{新入院数 (11,267人)} + \text{退院数 (11,234人)}\} \times 1/2}$	8.4 日	8.4 日
紹介率	$\frac{\text{紹介患者数 (12,183 人)}}{\text{初診患者数 (28,083人)} - \text{初診救急搬入患者数 (2,286人)} - \text{初診休日夜間患者数 (8,640人)}} \times 100$	71.0 %	68.9 %
逆紹介率	$\frac{\text{逆紹介患者数 (18,265 人)}}{\text{初診患者数 (28,083人)} - \text{初診救急搬入患者数 (2,286人)} - \text{初診休日夜間患者数 (8,640人)}} \times 100$	106.4 %	103.8 %
患者1人1日当り診療収入	入院 $\frac{\text{入院収益 (8,646,389 千円)}}{\text{年延入院患者数 (106,094 人)}}$	81,497 円	81,171 円
	外来 $\frac{\text{外来収益 (4,214,582 千円)}}{\text{年延外来患者数 (177,168 人)}}$	23,789 円	24,199 円
医業収支比率	$\frac{\text{医業収益 (13,453,353 千円)}}{\text{医業費用 (15,095,645 千円)}} \times 100$	89.1 %	87.5 %
修正医業収支比率	$\frac{\text{医業収益 (13,453,353千円)} - \text{他会計負担金 (324,548千円)}}{\text{医業費用 (15,095,645 千円)}} \times 100$	87.0 %	85.3 %
医業収益に対する給与費の割合	$\frac{\text{給与費 (7,384,142 千円)}}{\text{医業収益 (13,453,353 千円)}} \times 100$	54.9 %	56.5 %
医業収益に対する材料費の割合	$\frac{\text{材料費 (3,748,586 千円)}}{\text{医業収益 (13,453,353 千円)}} \times 100$	27.9 %	28.5 %
経常収支比率	$\frac{\text{経常収益 (14,531,517 千円)}}{\text{経常費用 (15,984,574 千円)}} \times 100$	90.9 %	91.0 %
経常収益に対する繰入金の割合	$\frac{\text{経常収益に係る一般会計繰入金 (911,951 千円)}}{\text{経常収益 (14,531,517 千円)}} \times 100$	6.3 %	6.7 %
企業債元利償還額対料金収入比率	$\frac{\text{企業債元利償還額 (1,433,274 千円)}}{\text{入院・外来収益 (12,860,971 千円)}} \times 100$	11.1 %	12.1 %
不良債務比率	$\frac{\{\text{流動負債 (4,670,853千円)} - \text{企業債 (1,325,705千円)}\} - \{\text{流動資産 (7,117,409千円)} - \text{翌年度繰越財源 (0千円)}\}}{\text{医業収益 (13,453,353 千円)}} \times 100$	- %	- %
流動比率	$\frac{\text{流動資産 (7,117,409 千円)}}{\text{流動負債 (4,670,853 千円)}} \times 100$	152.4 %	207.4 %

業 務 状 況

1. 患者状況

(1) 診療科別患者数

◆外来患者数

診療科名	延患者数	1日平均患者数	初診患者数	再診患者数
内 科	12,302人	50.6人	607人	11,695人
血 液 内 科	4,421人	18.2人	39人	4,382人
消 化 器 内 科	15,044人	61.9人	1,533人	13,511人
循 環 器 内 科	11,484人	47.3人	1,130人	10,354人
精 神 科	285人	2.0人	18人	267人
外 科	10,833人	44.6人	397人	10,436人
消 化 器 外 科				
呼 吸 器 外 科	3,283人	13.5人	115人	3,168人
乳 腺 外 科	7,897人	32.5人	395人	7,502人
脳 神 経 外 科	3,353人	13.8人	307人	3,046人
整 形 外 科	10,544人	43.4人	1,151人	9,393人
形 成 外 科	6,454人	26.6人	845人	5,609人
産 婦 人 科	16,517人	68.0人	1,285人	15,232人
小 児 科	17,829人	73.4人	6,010人	11,819人
眼 科	630人	2.6人	26人	604人
耳 鼻 咽 喉 科	11,821人	48.6人	1,716人	10,105人
泌 尿 器 科	12,904人	53.1人	591人	12,313人
皮 膚 科	990人	10.8人	21人	969人
リハビリテーション科	1,402人	27.0人	1人	1,401人
麻 酔 科	1,697人	7.0人	16人	1,681人
放 射 線 科	10,132人	41.7人	1,859人	8,273人
歯 科 口 腔 外 科	8,075人	33.2人	2,853人	5,222人
救 急 診 療 科	9,271人	25.4人	7,168人	2,103人
合 計	177,168人	729.1人	28,083人	149,085人

※救急診療科については、救急外来で対応した患者を表記している。

◆入院患者数

診療科名	延患者数	1日平均患者数	新入院患者数	退院患者数	平均在院日数
内 科	8,679人	23.8人	928人	572人	10.8日
血 液 内 科	6,451人	17.7人	253人	276人	23.3日
消 化 器 内 科	13,642人	37.4人	1,619人	1,822人	6.9日
循 環 器 内 科	11,166人	30.6人	1,104人	1,194人	8.7日
外 科	16,078人	44.0人	1,236人	1,154人	12.5日
消 化 器 外 科					
呼 吸 器 外 科	4,525人	12.4人	307人	332人	13.1日
乳 腺 外 科	3,329人	9.1人	378人	385人	7.7日
脳 神 経 外 科	3,065人	8.4人	198人	209人	14.0日
整 形 外 科	9,974人	27.3人	628人	628人	14.9日
形 成 外 科	2,168人	5.9人	237人	243人	8.0日
産 婦 人 科	8,425人	23.1人	1,191人	1,201人	6.0日
小 児 科	7,546人	20.7人	1,580人	1,578人	3.8日
耳 鼻 咽 喉 科	4,160人	11.4人	619人	620人	5.7日
泌 尿 器 科	5,407人	14.8人	795人	827人	5.6日
放 射 線 科	18人	0.1人	2人	2人	8.0日
歯 科 口 腔 外 科	1,461人	4.0人	192人	191人	6.6日
合 計	106,094人	290.7人	11,267人	11,234人	8.4日

(2) 地域別患者数

◆外来患者数

区分	八尾市	八尾市以外の府内				大阪府以外	合計
		大阪市	柏原市	その他	小計		
延患者数	117,849人	30,837人	9,050人	16,150人	56,037人	3,282人	177,168人
比率	66.5%	17.4%	5.1%	9.1%	31.6%	1.9%	100.0%

【八尾市内の地区別患者数】

区域	人数
本庁地区	23,066人
龍華地区	26,991人
久宝寺地区	7,064人
西郡地区	1,487人
大正地区	10,671人
山本地区	16,197人
竹濑地区	3,688人
南高安地区	5,204人
高安地区	2,172人
曙川地区	10,811人
志紀地区	10,498人
合計	117,849人

◆入院患者数

区分	市内扱い患者数					市外扱い患者数	合計
	八尾市	八尾市以外			小計		
		大阪市	柏原市	小計			
延患者数	69,308人	20,829人	4,511人	25,340人	94,648人	11,446人	106,094人
比率	65.3%	19.6%	4.3%	23.9%	89.2%	10.8%	100.0%

【八尾市内の地区別患者数】

区域	人数
本庁地区	14,663人
龍華地区	15,678人
久宝寺地区	4,337人
西郡地区	994人
大正地区	5,973人
山本地区	9,795人
竹濑地区	2,101人
南高安地区	2,814人
高安地区	1,514人
曙川地区	5,607人
志紀地区	5,832人
合計	69,308人

(3) 救急取扱患者数

区分	患者数
平日	3,039人
時間外	6,398人
休日	3,925人
深夜	3,306人
合計	16,668人
(内搬送患者)	3,937人
(内入院)	2,764人

(4) 紹介率・逆紹介率

◆紹介率

初診患者数	初診紹介患者数	初診救急搬送患者数	初診休日夜間救急患者数	紹介率
28,083人	12,183人	2,286人	8,640人	71.0%

【紹介率算出式】

$$\frac{\text{初診紹介患者数}}{\text{初診患者数} - \text{初診救急搬送患者数} - \text{初診休日夜間救急患者数}}$$

◆逆紹介率

初診患者数	診療情報提供料算定患者数	初診救急搬送患者数	初診休日夜間救急患者数	逆紹介率
28,083人	18,265人	2,286人	8,640人	106.4%

【逆紹介率算出式】

$$\frac{\text{診療情報提供料算定患者数}}{\text{初診患者数} - \text{初診救急搬送患者数} - \text{初診休日夜間救急患者数}}$$

◆逆紹介時の診療科別月別診療情報提供数

診療科名	件数
内科	1,348件
血液内科	109件
消化器内科	2,753件
循環器内科	2,843件
精神科	16件
外科	1,567件
消化器外科	
呼吸器外科	382件
乳腺外科	844件
脳神経外科	543件
整形外科	1,111件
形成外科	1,004件
産婦人科	197件
小児科	1,225件
眼科	38件
耳鼻咽喉科	1,586件
泌尿器科	557件
皮膚科	47件
麻酔科	13件
放射線科	212件
歯科口腔外科	1,801件
救急診療科	69件
合計	18,265件

2. 診療収益状況（税抜）

◆外来収益・患者数・単価

診療科名	診療収益	患者数	1人1日当たり 診療収入
内 科	191,834,195円	12,302人	15,594円
血 液 内 科	336,738,277円	4,421人	76,168円
消化器内科	321,100,936円	15,044人	21,344円
循環器内科	238,855,353円	11,484人	20,799円
精 神 科	1,200,288円	285人	4,212円
外 科	439,988,394円	10,833人	40,616円
消化器外科			
呼吸器外科	290,316,441円	3,283人	88,430円
乳 腺 外 科	632,993,872円	7,897人	80,156円
脳神経外科	58,748,465円	3,353人	17,521円
整 形 外 科	97,700,987円	10,544人	9,266円
形 成 外 科	57,081,015円	6,454人	8,844円
産 婦 人 科	146,271,446円	16,517人	8,856円
小 児 科	456,972,893円	17,829人	25,631円
眼 科	2,834,708円	630人	4,500円
耳鼻咽喉科	104,135,116円	11,821人	8,809円
泌 尿 器 科	320,721,327円	12,904人	24,854円
皮 膚 科	2,921,059円	990人	2,951円
リハビリテーション科	6,066,677円	1,402人	4,327円
麻 酔 科	3,923,695円	1,697人	2,312円
放 射 線 科	264,418,526円	10,132人	26,097円
歯科口腔外科	85,441,675円	8,075人	10,581円
救急診療科	154,316,459円	9,271人	16,645円
合 計	4,214,581,804円	177,168人	23,789円

◆入院収益・患者数・単価

診療科名	診療収益	患者数	1人1日当たり 診療収入
内 科	478,506,528円	8,679人	55,134円
血 液 内 科	343,811,724円	6,451人	53,296円
消化器内科	831,585,709円	13,642人	60,958円
循環器内科	1,401,168,463円	11,166人	125,485円
外 科	1,316,638,453円	16,078人	81,891円
消化器外科			
呼吸器外科	387,508,193円	4,525人	85,637円
乳 腺 外 科	293,334,617円	3,329人	88,115円
脳神経外科	261,562,251円	3,065人	85,338円
整 形 外 科	782,879,897円	9,974人	78,492円
形 成 外 科	239,970,804円	2,168人	110,688円
産 婦 人 科	755,068,272円	8,425人	89,622円
小 児 科	634,468,920円	7,546人	84,080円
耳鼻咽喉科	354,065,463円	4,160人	85,112円
泌 尿 器 科	463,749,244円	5,407人	85,768円
放 射 線 科	1,134,570円	18人	63,032円
歯科口腔外科	100,935,920円	1,461人	69,087円
合 計	8,646,389,028円	106,094人	81,497円

3. チーム医療活動

◆内容

現在の医療は多くの職種が関わりながら進めるチーム医療が重要となっており、当院としては、チーム医療の推進を要としてとらえ、推進を図ってきた。

各チームは目標を設定し、中間報告や年間活動報告で目標の達成状況や取り組み内容を報告することとし、今年度の年間活動報告会では、全体の半分のチーム（6チーム）が発表を行った。

◆推進チーム

八尾市立病院チーム医療推進委員会（委員長：田村茂行総長）がチーム医療の推進を図り、令和6年度は以下12チームにて活動を行った。

- ①がん薬物療法チーム ②院内感染防止対策チーム（ICT） ③抗菌薬適正使用支援チーム（AST）
- ④栄養管理チーム（NST） ⑤褥瘡対策チーム ⑥緩和ケアチーム ⑦糖尿病診療チーム
- ⑧入退院支援チーム ⑨認知症ケア・身体的拘束最小化チーム ⑩排尿ケアチーム
- ⑪摂食嚥下支援チーム ⑫ACP チーム

◆活動状況

令和7年3月10日（月）に開催の年間活動報告会で、以下6チームが発表を行った。

残りの6チームは次年度に発表を行う予定としている。

栄養管理チーム（NST）	・ 目標：栄養管理の向上と教育啓発活動の実施。 ・ 取り組み：栄養管理が必要な患者への適切な栄養管理を行い、教育啓発活動を通じて専門療法士の育成を図った。栄養サポート加算の件数を増加させ、研修を実施した。
糖尿病診療チーム	・ 目標：糖尿病に関する知識の向上と患者教室の充実。 ・ 取り組み：糖尿病教室の内容を充実させ、参加者数を増加させた。職員全体の知識向上を図り、インシデントの減少に努めた。
排尿ケアチーム	・ 目標：患者の自立支援と業務の効率化。 ・ 取り組み：排尿自立支援加算の算定件数を増やし、患者の状態に応じた支援を行った。多職種連携を強化し、業務の効率化を進めた。
入退院支援チーム	・ 目標：入退院支援の充実と多職種連携の強化。 ・ 取り組み：入院前支援数や入退院支援加算の件数を増加させ、パスの運用を進めた。多職種の協力を得て、支援の質を向上させた。
がん薬物療法チーム	・ 目標：安全な抗がん薬治療の実施と業務改善。 ・ 取り組み：外来化学療法件数を増加させ、患者への指導を充実させた。AI問診の導入を検討し、業務の効率化を図った。
摂食嚥下支援チーム	・ 目標：患者の摂食嚥下機能の評価と支援の充実。 ・ 取り組み：患者の口腔ケアや嚥下訓練を行い、介入患者数を増加させた。人員不足の課題を抱えつつ、チームでの支援を強化した。

4. 消防訓練

令和7年3月18日（火）に消防訓練を実施した。消防訓練では地震発生後に5階西病棟にて火災が発生した事を想定し、火災の初期消火及び避難経路の確認、迅速な患者の避難誘導を行った。

屋外では消防局員から消火器の取扱い方法の指導をしていただき、放水訓練では訓練用水消火器を使った初期消火訓練を行った。病棟に勤務する看護師含め、多くの病院職員が参加した。

業 績 集

(1) 刊行論文, 著書

題名	著者	雑誌名、巻号
びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫に形質変換した X 染色体消失小リンパ球性リンパ腫の 1 例	馬越 陽大、桑山 真輝、服部 英喜	癌と化学療法, 51, 575-578, 2024
Clinical outcomes of spinal cord stimulation in patients with intractable leg pain in Japan.	Ueno K, Tachibana K, Masunaga N, Shinoda Y, Minamisaka T, Inui H, Amiya R, Inoue S, Murakami A, Hoshida S.	Pain Practice 2024;24:826-831. doi: 10.1111/papr.13363
Required Elements for Next-generation Prognostic Index beyond Left Ventricular Ejection Fraction in Heart Failure.	Hoshida S.	J Cardiol Cardiovasc Med. 2024; 9: 116-117. doi.org/10.29328/journal.jccm.1001189
Alternative Factors in Possible Involvement of Coronary Microvascular Dysfunction in Older Patients with HFpEF.	Hoshida S, Watanabe T, Masunaga N, Shinoda N, Seo M, Hayashi T, Yano M, Yamada T, Yasumura Y, Hikoso S, Okada K, Nakatani D, Sotomi Y, Sakata Y on behalf of the OCVC-Heart Failure Investigators.	J Clin Med 2024 doi: https://doi.org/10.3390/jcm13195911
当院における閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置症例の検討	大澤 日出樹、池嶋 遼、吉岡 慎一、植村 耕平、岡内 義隆、丸山 南、池田 裕二、野村 知礼、丸川 大輝、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、益澤 徹、藤田 淳也、田村 茂行、佐々木 洋	癌と化学療法, 51, 13, 1541-1543, 2024
術前化学療法により病理学的完全奏効が得られた局所進行下部直腸癌の 1 例	野村 知礼、大澤 日出樹、吉岡 慎一、植村 耕平、岡内 義隆、丸山 南、池田 裕二、丸川 大輝、池嶋 遼、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、益澤 徹、藤田 淳也、田村 茂行、佐々木 洋	癌と化学療法, 51, 13, 1363-1365, 2024
Disseminated penicillin-resistant streptococcus pneumoniae infection: A case report.	Kodama K	Cureus. 2024 Apr 28;16(4):e59225.
Possible thoracic metastasis from squamous cell carcinoma of the external auditory canal: A case report.	Takehara H	Clin Case Rep. 2024 Sep 16;12(9):e9459.
Perivascular Neutrophil Extracellular Traps Exacerbate Microvasospasm After Experimental Subarachnoid Hemorrhage.	Ryota Nakagawa	Stroke, 2024 Dec 55(12)
Open wedge high tibial osteotomy の短期および中期成績評価と影響要因の解析	山田 裕三、平松 久仁彦、三岡 智規、中村 憲正	日本膝関節学会誌, 1 巻 1 号, 108-109
上腕骨内側上顆骨折を合併した Monteggia type 1 equivalent 損傷の症例報告と文献レビュー	岡本 道雄	日本肘関節学会雑誌, 31 巻 2 号, 123-133
手指腱鞘炎に対するエクオールを中心とした保存治療	岡本 道雄	日本手関節学会雑誌, 41 巻 6 号, 633-638
鋼線固定にロッキングプレートによる一時的 CM 関節固定を併用した Rolando 骨折の 3 例	小山 拓也、岡本 道雄、平井 宏昌、本田 博嗣、山田 裕三	中部日本整形外科災害外科学会雑誌, 68 巻, 301-302
肘関節靭帯損傷に対する保存治療のコツ (肘関節脱臼を含む)	岡本 道雄	肘の外傷 (MC メディカ) 11 巻, 92-97
下肢麻痺の進行で再発が判明した骨盤内悪性リンパ腫の 1 例	石橋 正輝、本田 博嗣、岡本 道雄、山田 裕三	中部日本整形外科災害外科学会雑誌, 67 巻 5 号 651-652
Disseminated Penicillin-Resistant Streptococcus pneumoniae Infection: A Case Report	Kodama K, Momozane T, Takehara H, Kaneko M, Honda H.	Cureus. 2024. Volume 16, Issue 4
A Case Presenting with a Paraspinal Muscle Abscess Complicated by Suspected Iodoform Poisoning During Treatment	Shunya Tamamine et al.	International journal of surgical Wound Care Volume6 issue2 64-68, 2025

題名	著者	雑誌名、巻号
腹腔鏡下に根治術をおこなった直腸内膜症関連癌の1例	重光 愛子、佐々木 高綱、日野友紀子、植田 陽子、松浦 美幸、永井 景、山田 嘉彦	臨産婦 :2024. 3:78(2) : 247-251
Effectiveness of allergen immunotherapy with house dust mite extract for pediatric bronchial asthma	Hamada M, Saeki K, Tanaka I	Immunotherapy, doi: 10.2217/imt-2024-0024.
Effectiveness of continuous allergenic food intake for acute food protein-induced enterocolitis syndrome	Hamada M, Sakurai Y, Tanaka I	Journal of Allergy and Clinical Immunology: Global, 3(2)
Evaluation of the protocol for rush subcutaneous immunotherapy with birch pollen extract	Hamada M, Kagawa M, Tanaka I	Asia Pacific Allergy, 14(4)
Open Wedge High Tibial Osteotomy および Hybrid Closed Wedge High Tibial Osteotomy における術後足関節筋力の経時的変化	近藤 修輔	理学療法科学 39 (6) 308-313, 2024.
高位脛骨骨切り術後の膝伸展および屈曲筋力の経時的変化-等速性筋力測定機を用いた Hybrid Closed Wedge HTO と Medial Open Wedge HTO との比較-	小川 卓也、山田 裕三、近藤 修輔、岡本 道雄	理学療法科学 40(1):15-19, 2025.
どうする!? 血管エコー検査 急性下肢虚血 (ALI)	寺西 ふみ子	心エコー vol.25 No.8 764-771
何を診て、どう報告する? 臨床に挑むエコー四肢冷感	寺西 ふみ子	超音波検査技術 vol.50 No.2 April 2025
Questionnaire on the Current Status and Awareness of Palliative Medicine by Community Cooperation Pharmacies	Keigo Nagatani	Pharmacy 2024/7/16 12(4) 110-110
在宅緩和医療に対応できる地域連携薬局の調査研究	長谷 圭悟	大阪大谷大学機関リポジトリ、博士 (薬学)、Other、2024
Evaluation of the protocol for rush subcutaneous immunotherapy with birch pollen extract	Masaaki Hamada, Masakazu Kagawa, Ichiro Tanaka	Asia Pac Allergy. 2024 Nov 5;14(4):214-219. doi: 10.5415/apallergy.000000000000164
【機械化, 自動化, 最適化! デジタル・AI 時代の薬剤師業務】 ますます使える ChatGPT・生成 AI 活用術 煩雑な事務作業を自動化しよう! 「RPA」活用のススメ(解説)	小枝 伸行	薬事(0016-5980)67 巻8号 Page1707-1712(2025.06)

(2) 学会発表

演題名	発表者	学会名, 日時, 会場 (都市)
Development of MDS/MPN during long-term treatment of eltrombopag	Akihiro Umakoshi, Maki Kuwayama, Hideki Hattori	第 86 回日本血液学会学術集会、2024/10/13、国立京都国際会館 (京都)
ESD で内視鏡的根治度 A が得られた AFP 産生胃癌の 1 例	中田 明弘	第 112 回 日本消化器内視鏡学会近畿支部例会、2024/6/29、大阪市
心臓 CT で部分肺静脈還流異常を伴う心房中隔欠損症が判明した一例	古谷 昂平、網屋 亮平、橋 公一、益永 信隆、篠田 幸紀、南坂 朋子、乾 礼興、村上 阿理紗、秦 雅寿、澤 芳樹、星田 四朗	第 137 回日本循環器学会近畿地方会、2024/5/25
心不全患者における左室駆出率が身体機能および栄養状態、在院日数に及ぼす影響	近藤 修輔、益永 信隆、小川 卓也、岡本 道雄、橋 公一、星田 四朗	第 30 回心臓リハビリテーション学会学術集会、2024/7/13、神戸国際展示場・神戸国際会議場 (神戸市)
心不全患者における退院時栄養不良の程度と身体機能および在院日数との関連性-Controlling Nutritional Status による検討-	近藤 修輔、益永 信隆、小川 卓也、岡本 道雄、橋 公一、星田 四朗	第 30 回心臓リハビリテーション学会学術集会、2024/7/14、神戸国際展示場・神戸国際会議場 (神戸市)
A case with an unremovable device due to incomplete stent expansion resulting from stent balloon rupture	益永 信隆、渡部 徹也、村上 阿理紗、藤原 柁斗、網屋 亮平、乾 礼興、南坂 朋子、篠田 幸紀、星田 四朗	第 32 回日本心血管インターベンション治療学会: CVIT2024 学術集会、2024/7/25、グランドメルキュール札幌大通り公園 (札幌市)
IVL 使用により側枝が閉塞したと考えられた 1 症例	乾 礼興、村上 阿理紗、藤原 柁斗、網屋 亮平、南坂 朋子、篠田 幸紀、益永 信隆、渡部 徹也、星田 四朗	第 32 回日本心血管インターベンション治療学会: CVIT2024 学術集会、2024/7/25、グランドメルキュール札幌大通り公園 (札幌市)
腸骨静脈圧迫症候群に合併した急性深部静脈血栓症に対してステント治療および 2 度のカテーテル的血栓療法を行った一例	村上 阿理紗、篠田 幸紀、藤原 柁斗、網屋 亮平、乾 礼興、南坂 朋子、益永 信隆、渡部 徹也、星田 四朗	第 32 回日本心血管インターベンション治療学会: CVIT2024 学術集会、2024/7/26、グランドメルキュール札幌大通り公園 (札幌市)
持続性の乏しい His 束近傍起源の心房頻拍に対して、CARTO3 及び OPTRELL による Local Conduction Vector が有用であった 1 例	網屋 亮平、南坂 朋子、村上 阿理紗、藤原 柁斗、乾 礼興、篠田 幸紀、益永 信隆、渡部 徹也、星田 四朗	カテーテルアブレーション関連秋季大会 2024、2024/10/7、大阪国際会議場 (大阪市)
心房細動アブレーション患者における cerebral microbleeds の検討	渡部 徹也、山田 貴久、森田 孝、川崎 真佐登、菊池 篤志、近藤 匠、河合 努、西本 裕二、瀬尾 昌裕、中村 淳、藤田 岳史、福並 正剛	カテーテルアブレーション関連秋季大会 2024、2024/10/7、大阪国際会議場 (大阪市)
脳梗塞を合併した急性心筋梗塞の一例	藤原 柁斗、乾 礼興、渡部 徹也、益永 信隆、篠田 幸紀、南坂 朋子、網屋 亮平、村上 阿理紗、星田 四朗	第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、2024/12/7、大阪国際会議場 (大阪市)
腸骨静脈圧迫症候群に合併した急性深部静脈血栓症に対してステント治療および 2 度のカテーテル的血栓療法を行った一例	村上 阿理紗、篠田 幸紀、藤原 柁斗、網屋 亮平、乾 礼興、南坂 朋子、益永 信隆、渡部 徹也、星田 四朗	第 138 回 日本循環器学会近畿地方会、2024/12/7、大阪国際会議場 (大阪市)
Early improvement of left atrial circumferential, but not longitudinal, reservoir strain after atrial fibrillation ablation: a 3D echocardiography study	Tomoko Minamisaka, Tetsuya Watanabe, Arisa Murakami, Masato Fujiwara, Ryohei Amiya, Hirooki Inui, Yukinori Shinoda, Nobutaka Masunaga, Shiro Hoshida	第 89 回日本循環器学会学術集会 (JCS2025)、2025/3/29、パシフィコ横浜 (横浜市)
心不全患者の栄養状態と運動機能の経過および栄養評価ツール (GNRI、CONUT) と運動機能との関連性について	近藤 修輔、益永 信隆、小川 達也、岡本 道雄、渡部 徹也、星田 四朗	第 89 回日本循環器学会学術集会 (JCS2025)、2025/3/30、パシフィコ横浜 (横浜市)
Cerebral Microbleeds Risk in Patients Anticoagulated for Atrial Fibrillation	Tetsuya Watanabe, Masato Kawasaki, Takeshi Fujita, Jun Nakamura, Masahiro Seo, Tsutomu Kawai, Takumi Kondo, Takashi Morita, Takahisa Yamada, Shiro Hoshida, Masatake Fukunami	第 89 回日本循環器学会学術集会 (JCS2025)、2025/3/30、パシフィコ横浜 (横浜市)

演題名	発表者	学会名, 日時, 会場 (都市)
A Study for Prevention of Bile Leakage and Short-term Outcome after Hepatectomy in our Hospital	Kei Asukai, Daiki Marukawa, Minami Maruyama, Yuji Ikeda, Tomoya Kishimoto, Yo Sasaki	The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2024/6/28-6/29、広島
A Study on the Safety of Pancreaticoduodenectomy for the Elderly Patients	Yuji Ikeda, Kei Asukai, Minami Maruyama, Daiki Marukawa, Yo Sasaki	The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2024/6/28-6/29、広島
The study on safety of laparoscopic cholecystectomy for acute cholecystitis in super-old patients	Minami Maruyama, Kei Asukai, Daiki Marukawa, Yuji Ikeda, Yo Sasaki	The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 2024/6/28-6/29、広島
Strategy of laparoscopic repair for recurrent inguinal hernia after usage of mesh	Yoshioka Shinichi	The World Congress of Abdominal Wall Hernia Surgery, 2024/10/9-10/12, Singapore
胃切除術後の腹腔鏡下胆嚢摘出術に関する検討	岸本 朋也、谷口 嘉毅、大澤 日出樹、金 浩敏、川田 純司、吉岡 慎一、藤田 淳也、田村 茂行、佐々木 洋	第 79 回日本消化器外科学会総会、2024/7/17-7/19、下関
胃切除術後の腹腔鏡下胆嚢摘出術に関する検討	岸本 朋也、谷口 嘉毅、大澤 日出樹、金 浩敏、川田 純司、吉岡 慎一、藤田 淳也、田村 茂行、佐々木 洋	第 60 回日本胆道学会学術集会、2024/10/10-10/11、名古屋
当院での腹腔鏡下胆嚢摘出手術における Bailout 手技に関する治療成績	丸川 大輝、谷口 嘉毅、池嶋 遼、大澤 日出樹、益澤 徹、吉岡 慎一、藤田 淳也	第 37 回日本内視鏡外科学会総会、2024/12/5-12/7、福岡
胃癌術後再発時における骨格筋量の 予後予測因子としての有用性	川田 純司、藤田 淳也、田村 茂行、岡内 義隆、丸山 南、野村 知礼、飛鳥井 慶、大澤 日出樹、岸本 朋也、金 浩敏、吉岡 慎一、佐々木 洋	第 96 回日本胃癌学会総会、2024/2/28-3/1、京都
当院における皮下埋め込み型 CV ポート造設術の短期および長期合併症とそのリスク因子について	飛鳥井 慶、大澤 日出樹、川田 純司、吉岡 慎一、藤田 淳也、田村 茂行、佐々木 洋	第 29 回日本緩和医療学会学術大会、2024/6/14-6/15、神戸
当院における右側結腸癌に対するロボット支援手術の検討	池嶋 遼、吉岡 慎一、丸川 大輝、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、益澤 徹、藤田 淳也、田村 茂行	第 37 回日本内視鏡外科学会総会、2024/12/5-12/7、福岡
術前化学療法により病理学的完全奏効が得られた局所進行下部直腸癌の一例	大澤 日出樹、金 浩敏、吉岡 慎一、丸山 南、岡内 義隆、池田 祐二、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、岸本 朋也、川田 純司、藤田 淳也、田村 茂行、佐々木 洋	第 46 回日本癌局所療法研究会、2024/6/21、滋賀
当院における閉塞性大腸癌に対する SEMS 留置症例の検討	大澤 日出樹、金 浩敏、吉岡 慎一、岡内 義隆、丸山 南、池田 祐二、野村 知礼、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、岸本 朋也、川田 純司、藤田 淳也、田村 茂行、佐々木 洋	第 46 回日本癌局所療法研究会、2024/6/21、滋賀
当院における腹腔鏡下大腸癌術後の腹壁癒痕ヘルニア発症の予測因子に関する検討	金 浩敏、吉岡 慎一、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、岸本 朋也、川田 純司、藤田 淳也、田村 茂行、佐々木 洋	第 79 回日本消化器外科学会総会、2024/7/17-7/19、下関
大腸異物に対して腹腔鏡・内視鏡合同手術にて治療しえた一例	金 浩敏、吉岡 慎一、大澤 日出樹、岡内 義隆、丸山 南、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、岸本 朋也、川田 純司、藤田 淳也、田村 茂行、佐々木 洋	第 653 回大阪外科集談会、2024/3/16、大阪
腹腔鏡・内視鏡合同手術 (LECS) にて摘出しえた大腸異物の一例	吉岡 慎一、金 浩敏	第 79 回日本消化器外科学会総会、2024/7/17-7/19、下関
トンネリングアプローチによる胃癌大動脈周囲リンパ節郭清手技	谷口 嘉毅、丸川 大輝、池嶋 遼、飛鳥井 慶、大澤 日出樹、吉岡 慎一、藤田 淳也	第 37 回日本内視鏡外科学会総会、2024/12/5-12/7、福岡
鼠径ヘルニア術後に生じる漿液腫の危険因子は？状況から考える対応について	藤田 淳也、田村 茂行、植村 耕平、丸山 南、岡内 義隆、野村 知礼、池田 裕二、丸川 大輝、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、大澤 日出樹、益澤 徹、佐々木 洋	第 22 回日本ヘルニア学会学術集会、2024/5/24-5/25、新潟

演題名	発表者	学会名, 日時, 会場 (都市)
虫垂 Goblet cell adenocarcinoma の1例	吉岡 慎一、丸山 南、池田 裕二、野村 知礼、丸川 大輝、池嶋 遼、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、大澤 日出樹、益澤 徹、田村 茂行、藤田 淳也、佐々木 洋、佐藤 和明	第 46 回日本癌局所療法研究会、2024/6/12、滋賀
Results of inguinal hernia repair with self-grip mesh and 8mm port in TAPP	藤田 淳也、田村 茂行、植村 耕平、丸山 南、岡内 義隆、野村 知礼、池田 裕二、丸川 大輝、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、大澤 日出樹、益澤 徹、佐々木 洋	第 79 回日本消化器外科学会、2024/7/17-7/19、山口
「あなたはロボット派？ ラパロ派？」ロボット派	吉岡 慎一	第 21 回日本ヘルニア内視鏡外科手術手技研究会、2024/10/5、愛知
ロボット支援鼠径ヘルニア根治術の導入と手技のコツ	藤田 淳也、田村 茂行、植村 耕平、丸山 南、岡内 義隆、野村 知礼、池田 裕二、丸川 大輝、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、大澤 日出樹、益澤 徹、佐々木 洋	第 18 回関西ヘルニア研究会、2024/11/16、大阪
ProGrip®、いいんじゃないの？ セルフグリップメッシュを使いこなすコツ	藤田 淳也、田村 茂行、植村 耕平、丸山 南、岡内 義隆、野村 知礼、池田 裕二、丸川 大輝、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、大澤 日出樹、益澤 徹、佐々木 洋	第 18 回関西ヘルニア研究会、2024/11/16、大阪
回盲部が脱出嵌頓した、上行結腸で造設された双孔式ストマの一例	吉岡 慎一、藤田 淳也、植村 耕平、丸山 南、岡内 義隆、池田 裕二、丸川 大輝、谷口 嘉毅、池嶋 遼、飛鳥井 慶、大澤 日出樹、益澤 徹、田村 茂行、佐々木 洋	第 86 回日本臨床外科学会、2024/11/21-11/23、栃木
巨大前立腺肥大により宿便性結腸閉塞を呈した一例	吉岡 慎一、藤田 淳也、植村 耕平、丸山 南、岡内 義隆、池田 裕二、丸川 大輝、谷口 嘉毅、池嶋 遼、飛鳥井 慶、大澤 日出樹、益澤 徹、田村 茂行、佐々木 洋	第 86 回日本臨床外科学会、2024/11/21-11/23、栃木
良性だからこそ、一度きりの手術と追い求める～描くラパヘルの理想 とともに叶える Device とは～	吉岡 慎一	第 86 回日本臨床外科学会、2024/11/21-11/23、栃木
DaVinci Surgical System X によるロボット支援鼠径ヘルニア修復術の導入と工夫	藤田 淳也、田村 茂行、植村 耕平、丸山 南、岡内 義隆、野村 知礼、池田 裕二、丸川 大輝、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、大澤 日出樹、益澤 徹、佐々木 洋	第 37 回日本内視鏡外科学会、2024/12/5-12/7、福岡
当院における局所進行下部直腸癌に対する治療成績	大澤 日出樹、吉岡 慎一、植村 耕平、岡内 義隆、丸山 南、池田 裕二、野村 知礼、丸川 大輝、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、益澤 徹、藤田 淳也、田村 茂行、佐々木 洋	第 101 回大腸癌研究会学術集会、2024/7/11-7/12、名古屋
腹腔鏡下回盲部切除術を施行した盲腸リンパ管腫の1例	池嶋 遼、大澤 日出樹、吉岡 慎一、植村 耕平、丸山 南、池田 裕二、丸川 大輝、谷口 嘉毅、飛鳥井 慶、益澤 徹、藤田 淳也、田村 茂行、佐藤 和明、佐々木 洋	第 37 回日本内視鏡外科学会総会、2024/12/5-12/7、福岡
当院における胆嚢ポリープに対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の治療成績	飛鳥井 慶、佐々木 洋、池嶋 遼、谷口 嘉毅、大澤 日出樹、益澤 徹、吉岡 慎一、藤田 淳也、田村 茂行	第 37 回日本内視鏡外科学会総会、2024/12/5-12/7、福岡
IVA 期非小細胞肺癌の集学的治療における原発巣切除	桃實 徹	第 41 回日本呼吸器外科学会総会
皮膚筋炎合併肺腺癌の周術期におけるタクロリムスの使用経験	桃實 徹	第 67 回関西胸部外科学会学術集会

演題名	発表者	学会名, 日時, 会場 (都市)
外耳道癌治療後晩期胸壁転移に対し、右上葉切除および胸壁切除再建を行った1例	竹原 洋士	第41回日本呼吸器外科学会総会
抗HER2療法が奏功した乳腺扁平上皮癌の1例	尾澤 宏美、高本 香、森本 卓	第32回日本乳癌学会学術集会、2024/7/11-7/13、仙台
鈍的損傷による頸部内頸動脈解離に対してCASを施行した1例	中川 僚太	第85回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、2024/4/6、大阪
好中球細胞外トラップを標的としたくも膜下出血後の脳微小血管攣縮に対する治療法の開発	中川 僚太	第24回日本分子脳神経外科学会、2024/7/19、佐賀
Pituicytomaとcorticotroph adenomaの共存が疑われた鞍上部腫瘍の1例	有田 都史香	第85回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、2024/4/6、大阪
Open wedge HTO術後の膝蓋大腿関節の変形性関節症評価 -軸写像(従来法)と膝蓋骨2方向法との比較	山田 裕三、平松 久仁彦、三岡 智規、中村 憲正	第2回日本膝関節学会、2024/12/6-12/7、沖縄
Effect of B-tricalcium phosphate on bone formation in smokers following open wedge high tibial osteotomy	Yamada Y.	The 8th Korea-Japan Knee Osteotomy Symposium、2025/1/18、韓国大邱
手指腱鞘炎に対するエクオールを中心とした保存治療	岡本 道雄	第67回日本手関節学会、2024/4/25、奈良
鋼線固定にロッキングプレートによる一時的CM関節固定を併用したRolando骨折の3例	小山 拓也、岡本 道雄、平井 宏昌、本田 博嗣、山田 裕三	第143中部日本整形外科災害外科学会、2024/10/4、神戸
上腕骨骨幹部病的骨折に対する手術治療成績	岡本 道雄	第37回日本肘関節学会、2025/3/14、岡山
下肢麻痺の進行で再発が判明した骨盤内悪性リンパ腫の1例	石橋 正輝、本田 博嗣、岡本 道雄、山田 裕三	第142中部日本整形外科災害外科学会、2024/4/12-4/13、米子
Nonabsorbable suture of the Nuchal ligament in CLAP prevents wound depression	Hirotsugu Honda, Masanori Kaneko, Keita Sahara.	第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会、2024/4/18-4/20、横浜
A novel bone-tropic BMP-2 carrier using PEP・Na was demonstrated efficient bone regeneration in a rat preclinical model	Hiromasa Hirai, Takashi Kaito, Masato Ikuta, Takayuki Kitahara.	第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会、2024/4/18-4/20、横浜
gMSC ⁺ 1のラット尾椎椎間板内移植による終板変性抑制効果の検証	平井 宏昌、松本 昌也、生田 雅人、北原 貴之、古市 拓也、文勝 徹、小玉 城、岡田 誠司、海渡 貴司	第33回日本脊椎インストゥルメンテーション学会、2024/9/20-9/21、札幌
熱傷瘢痕に発生した褥瘡を契機とする傍脊柱筋膿瘍の1例	玉峰 舜也	第16回日本創傷外科学会総会・学術集会、2024/7/11-7/12、金沢市
vNOTESを用いた鏡視下子宮全摘術での屈曲可能なsealing device, Caimanの使用経験	永井 景、藤井 健太、植田 陽子、松浦 美幸、木村 麻衣、重光 愛子、佐々木 高綱、山田 嘉彦	第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、2024/9/13、東京
子宮頸癌の術後放射線治療後に水腎症をきたし、後腹膜線維症と考えられた1例	永井 景、藤井 健太、植田 陽子、木村 麻衣、重光 愛子、佐々木 高綱、山田 嘉彦	第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2024/7/19、鹿児島
当院におけるvNOTESの導入経験	藤井 健太、永井 景、植田 陽子、松浦 美幸、重光 愛子、佐々木 高綱、山田 嘉彦	第150回近畿産科婦人科学会学術集会、2024/6/16、奈良
子宮体癌に対する順広汎子宮全摘術、両側付属器切除および骨盤・傍大動脈リンパ節郭清術後にコレステロール塞栓症を発症し足趾壊死に至った1例	藤井 健太、永井 景、植田 陽子、松浦 美幸、重光 愛子、佐々木 高綱、山田 嘉彦	第76回日本産科婦人科学会学術講演会、2024/4/20、横浜
呼吸苦を契機に診断した急性糸球体腎炎の1例	川崎 有輝、濱田 匡章、吉本 知史、佐々木 彩、山口 侑加、吉川 侑子、川口 達也、井崎 和史、道之前 八重、田中 一郎	第143回日本小児科学会奈良地方会、2024/7/13、奈良県橿原市

演題名	発表者	学会名, 日時, 会場 (都市)
2種類のアンケート調査から確認した関西圏の花 粉食物アレルギー症候群の実態	濱田 匡章 1)、佐々木 彩 1)、亀 田 誠 2)、高岡 有理 2)、上野 瑠 美 2)、赤川 翔平 3)、中井 陽子 3)、辻 章志 3)、川上 智子 4)、 八木 由奈 5) 八尾市立病院 小児科 1)、はびき の医療センター 小児科 2)、関西 医科大学附属病院 小児科 3)、住 友病院 小児科 4)、八木小児科 5)	第 73 回日本アレルギー学会、 2024/10/18-10/20、京都市
小児エビアレルギーにおける原因タンパク質とダ ニ感作の関与についての検討	川邊 智史 1)2)、高岡 有理 1)3)、濱田 匡章 4)、高里 良宏 5)、松井 照明 1)5)、佐藤 奈由 1)2)6)、中村 政志 1)2)6)7)、伊 藤 浩明 1)5)6)8)、亀田 誠 3)、 松永 佳世子 6)9)、矢上 晶子 1)7) 藤田医科大学医学部 先端アレル ギー免疫共同研究講座 1)、ホーユ ー株式会社 総合研究所 2)、大阪 はびきの医療センター 小児科 3)、八尾市立病院 小児科 4)、あ いち小児保健医療総合センター免 疫・アレルギーセンター アレル ギー科 5)、(元)藤田医科大学 ア レルギー疾患対策医療学 6)、藤田 医科大学医学部総合アレルギー科 7)、名古屋大学大学院医学研究科 総合小児医療学講座 8)、医療法人 大朋会 刈谷整形外科病院皮膚 科・アレルギー科 9)	第 73 回日本アレルギー学会、 2024/10/18-10/20、京都市
ヘーゼルナッツアレルギーの診断性能および交差 反応の検討	濱田 匡章、佐々木 彩	第 61 回日本小児アレルギー学会、 2024/11/2-11/3、愛知県名古屋
当院の鶏卵アレルギーに対する加熱全卵粉末 (た まごな) 使用例についての後方視的検討	濱田 匡章、佐々木 彩	第 61 回日本小児アレルギー学会、 2024/11/2-11/3、愛知県名古屋
Enfortumab vedotin therapy for metastatic renal pelvic cancer in a patient undergoing dialysis: a case report.	Yuki Kitano, Akihiro Kosoku, Toshiki Ui, Hiroki Yoshiuchi, Yoshikazu Kuroki, Masato Kamizuru, Nobuaki Kawai	第 111 回日本泌尿器科学会総会、 2024/4/25、横浜
Seven cases of ductal adenocarcinoma of the prostate in our hospital.	Hiroki Yoshiuchi, Yoshikazu Kuroki, Toshiki Ui, Kentaro Uemiya, Masato Kamizuru, Masashi Takeda	第 111 回日本泌尿器科学会総会、 2024/4/26、横浜
Pembrolizumab による副腎不全を来した維持透析 患者の 1 例	北野 裕子、香束 昌宏、河合 誠 朗、宇井 俊貴、吉内 皓樹、黒木 慶和、上水流 雅人	第 69 回日本透析医学会学術集会総会、 2024/6/9、横浜
心不全患者における左室駆出率が身体機能および 栄養状態、在院日数に及ぼす影響	近藤 修輔	第 30 回日本心臓リハビリテーション学 会学術集会、2024/7/15-7/16、神戸国際 展示場 (兵庫県神戸市)
心不全患者における退院時栄養不良の程度と身体 機能および在院日数との関連性-Controlling Nutritional Status による検討-	近藤 修輔	第 30 回日本心臓リハビリテーション学 会学術集会、2024/7/15-7/16、神戸国際 展示場 (兵庫県神戸市)
心不全患者の入院中における栄養状態 (GNRI) と 身体機能 (SPPB、握力、膝伸展筋力) の推移	近藤 修輔	第 14 回日本リハビリテーション栄養学 会学術集会、2025/1/25、川崎市コンベン ションホール (神奈川県川崎市)
心不全患者の栄養状態と運動機能の経過および栄 養評価ツール (GNRI、CONUT) と運動機能との関係 性について	近藤 修輔	第 89 回日本循環器学会学術集会、 2025/3/28-3/30、パシフィコ横浜 (神奈 川県横浜市)
胃がん術後に発症した廃用症候群に対し、運動力 学的指導が ADL 改善に有効であった 1 例	西野 隆彬	日本がんチーム医療研究会第 34 回研究 集会、2024/9/14、大阪私学会館
拘縮に対するハンドセラピー	吉村 加織	第 36 回日本ハンドセラピー学会学術集 会、2024/4/27-4/28、奈良県コンベンシ ョンセンター (奈良市)

演題名	発表者	学会名, 日時, 会場 (都市)
上下顎に多発した単純性骨嚢胞の一例	川田 創、浜口裕弘 他	第 62 回日本口腔外科学会総会、 2024/11/22、パシフィコ横浜 (横浜市)
診断に役に立った大動脈エコー	寺西 ふみ子	第 56 回日本動脈硬化学会総会学術集 会、2024/7/6-7/7、神戸国際会議場
シンポジウム 私のこだわり！伝わるレポートの 書き方教えます	寺西 ふみ子	第 49 回日本超音波検査学会学術集会、 2024/7/19-7/21、仙台国際センター
何を診て、どう報告する？ 臨床に挑むエコー 四肢冷感	寺西 ふみ子	日本超音波検査学会関西 第 41 回地方 会学術集会、2024/11/10、大阪国際会議 場
薬剤コーティングバルーン治療後に発生した下肢 動脈瘤の一例	細井 亮二	第 49 回日本超音波検査学会学術集会、 2024/7/19-7/21、仙台国際センター
中鎖脂肪酸およびたんぱく質を添加した主食の導 入による栄養介入の有効性の検討	高瀬 由香利	第 40 回日本栄養治療学会学術集会、 2025/2/14-2/15、パシフィコ横浜
在宅緩和医療の受け入れに関する地域連携薬局の 現状および意識に関する調査	長谷 圭悟	第 34 回日本医療薬学会年会、 2024/11/2-11/4、千葉
当院における抗菌薬適正使用支援に向けた取り組 み	松村 真裕	第 34 回日本医療薬学会年会、 2024/11/2-11/4、千葉
術後疼痛管理チームにおける活動と今後の課題	山原 慶子	第 34 回日本医療薬学会年会、 2024/11/2-11/4、千葉
周術期薬剤業務の道のり～振り返りから見えたこ と～	長谷川 和恵	第 34 回日本医療薬学会年会、 2024/11/2-11/4、千葉
当院の糖尿病教室の取り組み	岡田 衣里子	第 46 回日本病院薬剤師会近畿学術大 会、2025/1/25-1/26、神戸
八尾市立病院におけるオピオイド製剤の使用状況 に関する調査と検討	下菊 早紀	第 46 回日本病院薬剤師会近畿学術大 会、2025/1/25-1/26、神戸
外来がん薬物療法トレーシングレポートの内容分 析～病院薬剤師の役割と今後の課題について～	小久保 祐希	第 14 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2025、2025/3/15-3/16、横浜
アミノレプリン酸塩酸塩顆粒剤 (アラグリオ®) の 適正使用に向けた取り組みと使用状況について	岸本 幸次	第 14 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2025、2025/3/15-3/16、横浜
宿便性結腸閉塞を呈した巨大前立腺肥大症の一例	種村 侑紀	第 86 回日本臨床外科学会学術集会、 2024/11/22、ホテル東日本宇都宮 (宇都 宮市)
電子処方箋の導入とその課題	小枝 伸行	第 16 回日本医療マネジメント学会大阪 支部学術集会、2024/5/11、大阪府
電子処方箋の導入とその課題	小枝 伸行	第 26 回日本医療マネジメント学会学術 総会、2024/6/21、宮城県

(3) 研究会発表

演題名	発表者	研究会名, 日時, 会場 (都市)
レプロジルの使用経験	桑山 真輝	Lower risk MDS seminar in 中河内、2024/11/7、スイスホテル南海大阪 (大阪)
乳癌ホルモン療法と肝障害	榊原 充	消化器病フォーラム、2024/9/13
HCWHTO 術後の脛骨骨幹部骨折	山田 裕三	第1回 AKO リスクマネージメントを語る会、2024/7/13、大阪市
良好なアライメントにもかかわらず OWHTO 術後、TKA に至った症例	山田 裕三	大阪大学早期 OA 研究会、2024/10/26、大阪市
OWHTO について	山田 裕三	第12回関西 Knee Osteotomy 研究会、2024/11/23、大阪市
膝前十字靭帯再建術後に錐体外路症状を呈した1例	山田 裕三	第24回大阪スポーツ障害・外傷を語る会、2024/12/21
当科における吸引式ポリープ切除術の導入	永井 景	第4回八尾産婦人科セミナー、2024/11/28、大阪
当院における梅毒合併妊娠の最近の動向	藤井 健太	第4回八尾産婦人科セミナー、2024/11/28、大阪
水分貯留に伴って顕在性症状を呈した3例から川崎病の病態を再考する	平尾 桜子、濱田 匡章、吉本 知史、杉村 憲市、久保 昂司、佐々木 彩、山口 侑加、吉川 侑子、道之前 八重、井崎 和史 箕輪 秀樹	第68回中河内談話会、2024/11/30、大阪市
Open Wedge High Tibial Osteotomy と Hybrid Closed Wedge High Tibial Osteotomy における足関節筋力の術後経過	近藤 修輔	第3回日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会学術集会、2024/4/19-4/20、レグザムホール (香川県高松市)
Hybrid closed wedge HTO と Medial open wedge HTO における術後1年までの膝筋力の回復経過	小川 卓也	第3回 日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会、2024/4/19-4/20、レグザムホール (香川)
当院超音波検査室における EUS 診療支援システム	寺西 ふみ子	第206回 大阪腹部超音波研究会、2024/11/28、大阪国際がんセンター
最近の超音波技術～関節リウマチ診療への応用は可能か～	寺西 ふみ子	SAKURA の会 第17回関西関節エコー Expert Summit、2024/12/14、TKP ガーデンシティ大阪淀屋橋19階
診断に苦慮した肝腫瘍の一例	大野 幸	第205回 大阪腹部超音波研究会、2024/7/31、大阪国際がんセンター
薬剤コーティングバルーン治療後に発生した下肢動脈瘤の一例	細井 亮二	2024年第3回大阪血管エコー研究会、2024/11/8
心臓リハビリテーションにおける管理栄養士の取り組みについて	長坂 優	大阪府公立病院栄養士代表者会、2025/1/20、大阪府栄養士会事務局
大阪南地域在宅緩和薬剤師連携プロジェクト研修会オープニングレクチャー	長谷 圭悟	第1回大阪南地域在宅緩和薬剤師連携プロジェクト研修会、2024/4/13、大阪
HER2 陽性乳がん患者における皮下注射製剤の導入効果	小枝 伸行、小川 充恵	日本臨床腫瘍薬学会雑誌(2189-129X) 41巻 Page201(2025. 05)
2024年度がん診療連携拠点病院等における外来がん治療部門の薬剤師業務に関する実態調査	盛川 敬介(国立病院機構西新潟中央病院 治験管理室)、高橋 郷、本田 泰斗、飯塚 雄次、石原 由起子、上ノ段 友里、浮谷 聡、内坪 敬太、小枝 伸行、長渡 亜子、畠山 智明、本田 雅志、松浦 綾子、餅原 弘樹、濃沼 政美、樋口 昇大、松井 礼子、日本臨床腫瘍薬学会総務委員会	日本臨床腫瘍薬学会雑誌(2189-129X) 41巻 Page366(2025. 05)

(4) 講演

演題名	発表者	研究会名, 日時, 会場 (都市)
もしも、「肝臓に”影”があります」と言われたら	榊原 充	八尾市市民公開講座、2024/5/18、八尾市文化会館プリズムホール (八尾市)
STOP! 慢性肝臓病 ALT30U/L 超は要注意!	末村 茂樹	八尾地域医療学術講演会、2024/9/7、センタラグランドホテル大阪 (大阪市)
ウイルスだけじゃない! あなたの身近に潜む肝臓害	榊原 充	なるほど肝疾患セミナー2024、2024/12/13、Web開催
知っておこう! 肝炎と肝臓について	小倉 智志	八尾市市民公開講座、2025/1/25、八尾市立病院 501 会議室 (八尾市)
ステントバルーン破裂によるステント不完全拡張によりデバイス抜去困難となり外科的治療を要した一例	藤原 柁斗、益永 信隆、乾 礼興、村上 阿理紗、網屋 亮平、南坂 朋子、篠田 幸紀、渡部 徹也、星田 四朗	48th Meeting of Gruentzig Club 症例検討会、2024/5/8、ホテル阪急レスパピア大阪 9 階バンケットルーム
心不全パンデミックと心臓リハビリテーション	益永 信隆	第 4 回 Cardiovascular Renal Complications Forum、2024/5/18、八尾市文化会館プリズムホール
心不全と心臓リハビリテーション	益永 信隆	八尾市看看連携会 令和 6 年度第 1 回集合研修、2024/6/12、八尾市立病院北館 501 会議室
高齢者における循環器診療を考える～ガイドライン改訂内容もふまえて～	渡部 徹也	かかりつけ医から急性期をつなぐ～第 14 回中河内・平野循環器病診療連携の会、2024/7/6、ホテルモントレグラスミア大阪 22 階「ハートウエルホール」
循環器疾患治療アップデート	渡部 徹也	八尾地域医療学術講演会、2024/9/7、センタラグランドホテル大阪 3 階オーキッドルーム 1
心不全ってどんな病気?～予防、早期発見、治療について～	渡部 徹也	第 13 回いきいき! 糖尿病健康フォーラム、2024/10/5、八尾市文化会館プリズムホール「大ホール」
循環器領域: 心不全患者のトータルマネージメント	益永 信隆	令和 6 年度大阪府循環器病対策における多職種連携推進事業～一緒に学ぼう。多職種連携のための研修会～、2025/3/8、八尾市立病院北館 501 会議室
変形性膝関節症に対する関節温存を目指した膝周囲骨切り術	山田 裕三	八尾地域医療学術講演会、2024/9/7、大阪市
膝関節疾患の改善を目指した手術-靭帯再建術と膝周囲骨切り術を中心に-	山田 裕三	平野区医師会学術講習会、2024/10/25、大阪市
OWHTO の適応と手術手技	山田 裕三	大阪大学 Knee Osteotomy ハンズオンセミナー、2025/1/18、大阪市
尺骨非定型骨折	岡本 道雄	第 5 回京阪手外科セミナー、2025/2/22、大阪
手指腱鞘炎に対する保存治療	岡本 道雄	堺市臨床整形外科医会共催セミナー、2025/3/8、大阪
骨粗鬆症治療の続け方と終わり方 ～強く、しなやかな、骨を目指して～	本田 博嗣	八尾整形外科懇話会、2024/6/8、大阪
私が骨粗鬆症治療に自己注射製剤を選択するわけ	本田 博嗣	八尾整形外科診療連携の会、2025/1/30、大阪
人生 100 年時代を楽しく健やかに～痛みを和らげるための予防策と実践～	本田 博嗣	八尾市立病院市民公開講座×八尾市フレイル予防月間、2025/2/15、大阪

演題名	発表者	研究会名, 日時, 会場 (都市)
骨粗鬆症性椎体骨折の治療指針	平井 宏昌	八尾整形外科懇話会、2024/6/8、大阪
当院での脊椎外科診療の現状とこれからの取り組み	平井 宏昌	Pain Live Symposium、2025/3/12、大阪
初歩からの花粉食物アレルギー症候群～だれでも出会う口腔アレルギーを正しく恐れて正しく対応するために一緒に学びませんか?～	濱田 匡章	令和6年度第38回自主研修会(栄養士のための大阪食物アレルギー研究会)、2024/6/29、吹田市
変わりゆくアレルギー診療あれこれ～10年前の常識が非常識に???～	濱田 匡章	八尾市薬剤師会研修会、2024/12/8、八尾市
免疫療法の現状と課題 (小児)	濱田 匡章	第11回総合アレルギー講習会、2025/3/22-3/23、神戸市
当院の現況 -コロナ前後で-	川島 貴之	八尾耳鼻咽喉科医学会研修会、2025/2/15、大阪
八尾市立病院の嚥下診療の現況	坂田 正行	八尾耳鼻咽喉科医学会研修会、2025/2/15、大阪
夜間頻尿で困っていませんか	上水流 雅人	八尾市立病院公開講座、2024/9/21、八尾市立病院
ロボットを用いた前立腺癌手術のお話	黒木 慶和	八尾市立病院公開講座、2024/9/21、八尾市立病院
糖尿病の運動療法について	近藤 修輔	八尾市立病院市民公開講座×八尾市糖尿病予防集中キャンペーン、2024/11/23、八尾市文化会館ブリズムホール (大阪府八尾市)
今日からできるフレイル予防講座	近藤 修輔	八尾市立病院市民公開講座×八尾市フレイル予防月間、2025/2/15、八尾市立病院 (大阪府八尾市)
栄養と理学療法について	吉年 雅子	第8回NST 専門療法士実施修練、2024/10/1、八尾市立病院
八尾市立病院糖尿病診療チームの取り組み～糖尿病地域連携における当院の役割～	木戸 里佳	DUAL Symposium in 北・中河内、2024/9/25、web 配信
糖尿病はどんな病気?	木戸 里佳	八尾市立病院市民公開講座×八尾市糖尿病予防集中キャンペーン、2024/11/23、八尾市文化会館ブリズムホール
糖尿病診療における治療困難な症例を考える	木戸 里佳	明日からの診療に役立つ糖尿病勉強会 in 八尾、2024/12/12、八尾市文化会館ブリズムホール
糖尿病の地域連携～八尾市立病院糖尿病診療チームの取り組み～	木戸 里佳	かかりつけ医のための糖尿病治療について考える会、2025/2/1、八尾商工会議所
腎動脈・大動脈エコーハンズオン講師	寺西 ふみ子	日本超音波医学会第97回学術集会、2024/5/31-6/2、パシフィコ横浜
腎動脈・大動脈エコーハンズオン講師	寺西 ふみ子	第56回日本動脈硬化学会総会学術集会、2024/7/6-7/7、神戸国際会議場
タスクシフトを意識した下肢動脈レポートの作成	寺西 ふみ子	エコー淡路 CV IMAGING2024、2024/11/16-11/17、兵庫県立淡路夢舞台国際会議場
心血管エコーハンズオンセミナー講師	寺西 ふみ子	エコー淡路 CV IMAGING2024、2024/11/16-11/17、兵庫県立淡路夢舞台国際会議場
正常洞調律と脚ブロックの判読	前田 由貴	大臨技心電図判読講座第1回、2024/5/10、大阪医療技術学園専門学校
徐脈性不整脈の判読	前田 由貴	大臨技心電図判読講座第4回、2024/6/28、大阪医療技術学園専門学校
エコーライブ講師 頸動脈エコー	細井 亮二	2024年第1回大阪血管エコー研究会、2024/8/23
糖尿病の食事療法について	金田 真子	八尾市立病院市民公開講座、2024/11/23、八尾市文化会館ブリズムホール

演題名	発表者	研究会名, 日時, 会場 (都市)
当院における糖尿病食事指導と明日からできる食事療法サポート	金田 真子	明日からの診療に役立つ糖尿病勉強会 in 八尾、2024/12/12、八尾市文化会館 プリズムホール
もしものときのおはなしをはじめませんか? (ACP 市民講座)	長谷 圭悟	八尾市立病院出前講座、2024/8/21、八尾
明日からできるチーム医療～病院から地域へ想いを込めてバトンを繋ぐ～	西 麻弥、吉野 知子、蔵 昌宏	第 29 回日本緩和医療学会学術大会、第 37 回日本最古オンコロジー学会総会合同学術大会ランチョンセミナー14、2024/6/15、神戸コンベンションセンター
医療者のための ACP	梶山 徹、柏木 雄次郎、池永 正之、太田 俊介、江村 成就、川島 正裕、蔵 昌宏、宇野 光昭	北野病院 ACP 研修会、2025/1/25、きたのホール
療養場所の選択と地域連携	蔵 昌宏	八尾市立病院 PEACE 緩和ケア研修会、2024/10/19、八尾市率病院 501 会議室
医療 DX と地域医療連携の 取り組み～電子処方箋やフォーミュラ、病院 DX への 対応～	小枝 伸行	第 29 回愛媛臨床薬学学術講演会、2024/4/13、愛媛県
電子処方箋とは	小枝 伸行	医師事務作業補助研究会、2024/7/21、WEB
医療 DX と薬剤師～電子処方箋や最近の話題～	小枝 伸行	摂南大学 2024 年度卒後講座、2024/7/28、大阪府
八尾市での病薬連携の取り組み～電子処方箋やジェネリック・フォーミュラを中心に	小枝 伸行	愛媛県ジェネリック安心使用セミナー、2024/10/6、愛媛県
電子処方箋の実際の運用について	小枝 伸行	近畿国立病院薬剤科長協議会、2024/11/16、大阪府
先進薬剤業務 web セミナー 電子処方箋と電子お薬手帳の在り方を探る	小枝 伸行	兵庫県薬剤師会、2024/12/7、兵庫県

(5) 院内研修会

セッション名	司会・座長	研究会名, 日時
院内研修医レクチャー (血液検査の読み方)	服部 英喜	2024/10/10、八尾市立病院 101 号室
RRS を識る		院内迅速対応部会研修会、2024/11/1、八尾市立病院北館 301 会議室
身体抑制最小限化のための取り組み	田中 政宏	認知症ケアチーム、倫理委員会、医療安全 研修会、2025/3/17
認知症リハビリテーション	田中 政宏	認知症ケアチーム研修会、2024/10/29
骨粗鬆症リエゾンサービス (OLS) ～1 年間の活動報告と今後の目標～	本田 博嗣、垣内 千恵美	二次性骨折予防継続管理料 施設基準対象院内研修会、2024/7/23
褥瘡を含む難治性創傷の治療	胡内 佑規	院内必須研修、2025/1/16
ACLS 研修会	岸本 正人	ACLS 研修、2024/9/28
入院中の血糖管理	木戸 里佳	第 1 回糖尿病診療チーム研修会、2024/10/22、八尾市立病院会議室
内分泌・代謝疾患の救急	木戸 里佳	臨床研修医レクチャー、2024/10/24、八尾市立病院会議室
研修医対象 超音波検査の基礎とハンズオン(心臓)	浅岡 伸光、寺西 ふみ子、細井 亮二、早石 尚子、前田 由貴	研修医超音波研修、2024/4/11、八尾市立病院 2 階超音波検査室
研修医対象 超音波検査の基礎とハンズオン (腹部)	寺西 ふみ子、駒 美佳子、大野 幸	研修医超音波研修、2024/4/25、八尾市立病院 2 階超音波検査室
心エコー所見の見方 (心エコー所見を一緒にみよう)	寺西 ふみ子	循環器内科勉強会、2024/6/19、八尾市立病院 101 会議室
心不全における食事療法	益永 信隆	心不全勉強会、2024/7/17
内分泌代謝・糖尿病センターにおける糖尿病食事指導	木戸 里佳	糖尿病診療チーム研修会、2025/1/21
医療安全について (薬剤) ～医薬品の取り扱いと事例を教訓として～	西岡 達也	新任採用研修、2024/4/8
抗がん剤の基礎知識	井上 咲紀	がん相談支援センターミニ勉強会、2024/9/27
糖尿病薬に関するよくあるインシデント	中谷 成美	糖尿病チーム研修会、2024/10/22
肝・胆・膵がんを使用する薬剤について	植田 真理	第 7 回がん化学療法研修会、2024/12/12
病院・診療所における麻薬等の取り扱いについて	西岡 達也	医薬品安全研修会、2025/3/19

編集後記

令和6年度は、日本および世界の社会環境が大きく揺らぐ中で、医療を含む公共サービス全体が、従来の前提条件のもとでは立ち行かなくなりつつあることを、具体的な出来事として示した一年でした。人口減少と高齢化の進行、物価やエネルギーコストの上昇、国際情勢の不安定化、急速な技術革新といった要因は、抽象的な将来像ではなく、日常の運営判断に直接影響する現実として顕在化しています。

国内では、各地で震度6弱を観測する地震が相次ぎ、南海トラフ地震に関する「巨大地震注意」が初めて発表されました。また、台風や記録的豪雨による土砂災害など、自然災害が全国的なリスクとして常在していることが改めて認識されました。あわせて、新幹線の運転見合わせや道路陥没といった事象も発生し、社会インフラの老朽化と維持体制の課題が顕在化しました。

こうした社会全体の変化の中で、医療分野においても、人材不足、医薬品の供給不安、医療DXへの対応負荷といった課題が同時に表面化しています。医療は地域社会や経済、インフラと密接に結びついた社会構造の一部であり、医療現場の課題は単一の要因ではなく、複数の構造的問題が重なり合っていて生じています。人材確保や業務の持続可能性、経営の安定性といったテーマは、短期的な対応では解決が難しく、中長期的な視点での検討と判断が求められています。

さて、今年も八尾市立病院年報（令和6年度・第37号）をお届けいたします。本年度は経営面において厳しい状況が続きましたが、病院長が掲げる「Be Reborn」のもと、変化を前提とした取り組みを進めてきた一年でした。本年報を通じて、その状況の一端をご理解いただければ幸いです。

最後に、本年報の編集にあたり、ご協力いただいた院内各部署の皆さまに、編集委員一同、心より感謝申し上げます。

編集委員長 小枝 伸行

広報・年報編集委員会

委員長	小枝 伸行	事務局長	事務担当	藤原 和也	企画運営課
副委員長	箕輪 秀樹	副院長兼診療局長		端山 直樹	企画運営課
委員	大江 洋介	内科科長		沼田 光子	S P C
	上水流 雅人	泌尿器科主任科長			
	神田 ゆか	看護局次長			
	香川 雅一	薬剤科科長補佐			
	西川 一期	放射線技術科科長			
	坂手 亜衣子	企画運営課課長補佐			
	畑中 博文	S P C (MS)			
	原田 美永子	S P C (協力企業)			



病院年報（第37号）
令和8年（2026年）2月発行

-
- 編集・発行 八尾市立病院 広報・年報編集委員会
〒581-0069 八尾市龍華町 1-3-1
TEL (072)922-0881(代)
 - ホームページ:<https://www.hospital.yao.osaka.jp/>
刊行物番号 R7-192
-